

## Ⅵ 親子世帯の状況

ここでは、調査回答者のうち、親子世帯に注目して、その生活状況などの特徴を見ていく。

### 1 親子世帯の基本的特徴

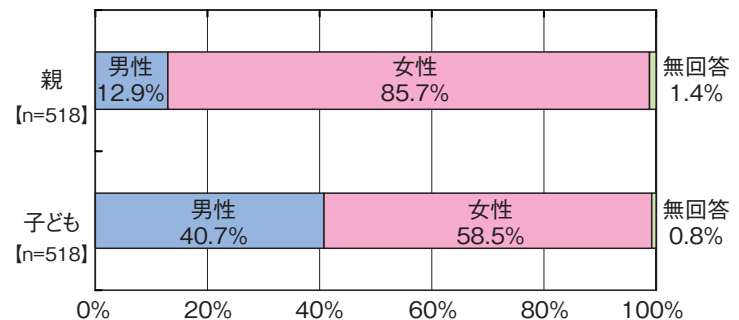
親子世帯は、調査回答者のうち 518 ケースであり、全体の 19.3%を占めている。そのうち、世帯主が親で同居者が子どもである世帯は 354 ケース（68.3%）、世帯主が子どもで同居者が親である世帯は 164 ケース（31.7%）であった（表 6-1）。

以下、親子世帯の基本的な特徴を見ていきたい。

#### （1）性別

性別について、親・子ども別に集計したものが図 6-1 である。親の性別は、男性が 12.9%、女性が 85.7%であり、母親と子どもが同居する世帯が多いことがわかる。子どもの性別については、男性が 40.7%、女性が 58.5%であった。息子との同居よりも、娘との同居の方がやや多いということがわかる。

図6－1 親子の性別



#### （2）年齢

次に、年齢について見ていく。まずは親の年齢である。本調査の対象は、世帯員のどちらかが75歳以上であるふたり暮らし世帯であるため、親は全員が75歳以上である。表 6-2 では、年齢階層を5歳ごとに分類して集計した。最も多かったのは「75歳以上 80歳未満」で30.7%、次いで「80歳以上 85歳未満」が28.4%、「85歳以上 90歳未満」が24.7%であった。なお、平均年齢は83.6歳である。

つづいて、子どもの年齢階層を見てみよう（表 6-3）。子どもの年齢階層のうち、最も割合が高かったのは「50歳以上 55歳未満」で21.8%、次いで「45歳以上 50歳未満」が18.1%、「60歳以上 65歳未満」が17.8%、「55歳以上 60歳未満」が17.6%であった。65歳未満の人が85.8%で、全体の8割半程度を占めていることがわかった。平均年齢は、54.8歳であった。

表6－2 親の年齢階層

|             | 実数  | %      |
|-------------|-----|--------|
| 75歳以上 80歳未満 | 157 | 30.3%  |
| 80歳以上 85歳未満 | 145 | 28.0%  |
| 85歳以上 90歳未満 | 126 | 24.3%  |
| 90歳以上 95歳未満 | 61  | 11.8%  |
| 95歳以上       | 22  | 4.2%   |
| 無回答         | 7   | 1.4%   |
| 合計          | 511 | 100.0% |

表6－3 子どもの年齢階層

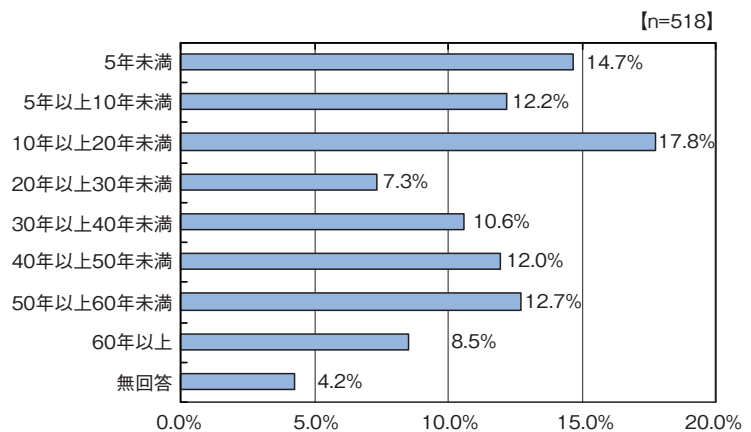
|             | 実数  | %      |
|-------------|-----|--------|
| 40歳未満       | 19  | 3.7%   |
| 40歳以上 45歳未満 | 35  | 6.8%   |
| 45歳以上 50歳未満 | 94  | 18.1%  |
| 50歳以上 55歳未満 | 113 | 21.8%  |
| 55歳以上 60歳未満 | 91  | 17.6%  |
| 60歳以上 65歳未満 | 92  | 17.8%  |
| 65歳以上 70歳未満 | 44  | 8.5%   |
| 70歳以上 75歳未満 | 14  | 2.7%   |
| 75歳以上       | 12  | 2.3%   |
| 無回答         | 4   | 0.8%   |
| 合計          | 518 | 100.0% |

### (3) ふたり暮らしの年数

港区内の居住年数とふたりで暮らしている年数を集計したものが図 6-2 である。最も多いのは「10 年以上 20 年未満」で 17.8%、次いで「5 年未満」が 14.7%であった。「5 年未満」と「5 年以上 10 年未満」を合わせて、26.9%の世帯では、ふたり暮らしの年数が 10 年未満であった。

ふたり暮らしの平均年数は 27.54 年であった。これは、先に見た夫婦世帯のふたり暮らし年数の平均値 40.76 年に比べて 13 年近く短い。

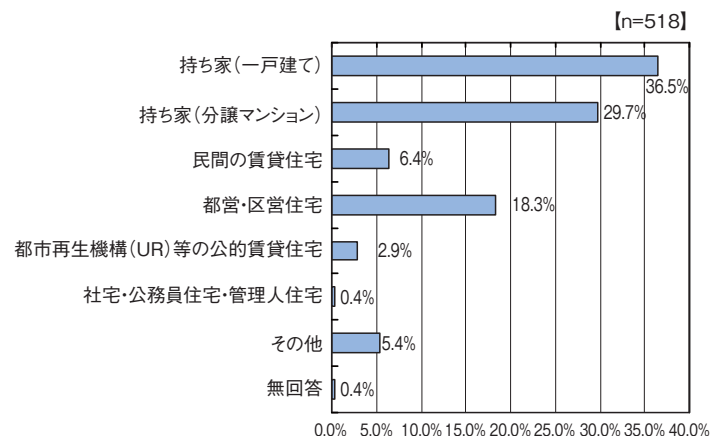
図6－2 ふたり暮らしの年数



### (4) 住宅の種類

住宅の種類については（図 6-3）、「持ち家（一戸建て）」が最も多く 36.5%を占め、次いで「持ち家（分譲マンション）」が 29.7%であった。両者を合わせて、持ち家に住んでいる世帯は 66.2%であった。また、「都営・区営住宅」に住む人の割合は 18.3%であった。夫婦世帯に比べて、持ち家率が低く、都営・区営住宅に住む世帯の割合が高かった。

図6－3 住宅の種類

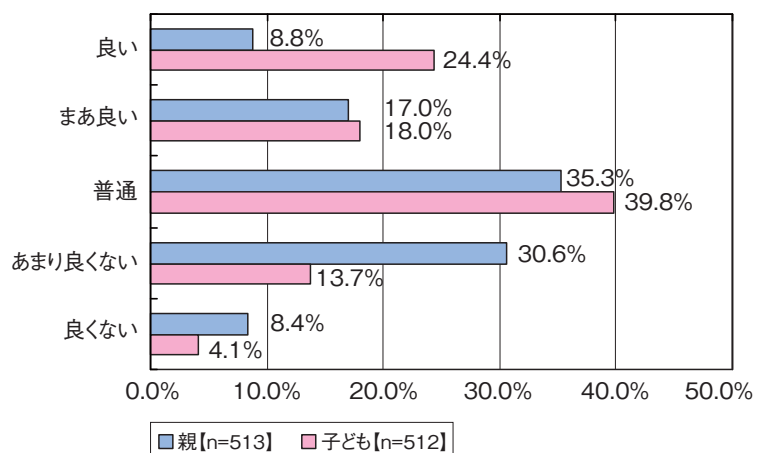


### (5) 健康状態と介護の状況について

健康状態（主観的健康感）について、親子別に集計した（図 6-4）。親子とも「普通」が最も多く、3 割半から 4 割弱程度を占めている。

親の健康状態については、「あまり良くない」が 30.6%、「良くない」が 8.4%で、両者を合わせて健康ではないと回答している人が 39.0%を占めている。一方、「良い」(8.8%)と「まあ良い」(17.0%)を合わせて、健康であると回答している人の 25.8%を上回った。

図6－4 親子の健康状態（主観的健康感）



子どもの健康状態については、「良い」(24.4%)と「まあ良い」(18.0%)を合わせて 42.4%の人が健康であると回答している。「あまり良くない」(13.7%)、「良くない」(4.1%)を合わせて、健康ではないと回答している人が 17.8%であった。

親と子どもを比べると、子どもの方が健康状態が良い傾向にあることがわかる。

では、介助の必要性についてはどうであろうか。図 6-5 は、介助の必要性について親子別に集計したものである。子どもは、94.0%が「ほとんど自分でできる」と回答している。一方で、親は「ほとんど自分でできる」と回答した人は 60.0%にとどまり、「一部介助を必要とする」と回答した人は 30.2%、「ほとんどすべてに介助を必要とする」と回答した人は 9.9%であった。親世代はおよそ 4 割が、一部またはすべてに介助を必要としている状態であることがわかる。

介護保険制度については、親の 40.3%が要支援または要介護認定を受けており、26.7%が介護保険サービスを利用していると回答している（表 6-4、図 6-6）。

図6－5 親子の介助の状況

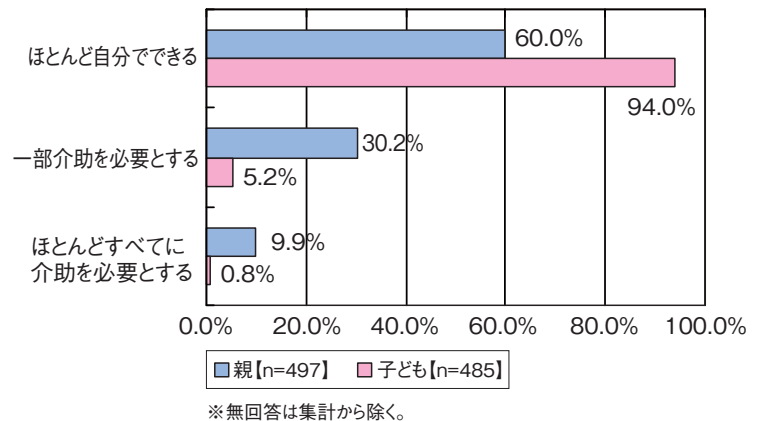
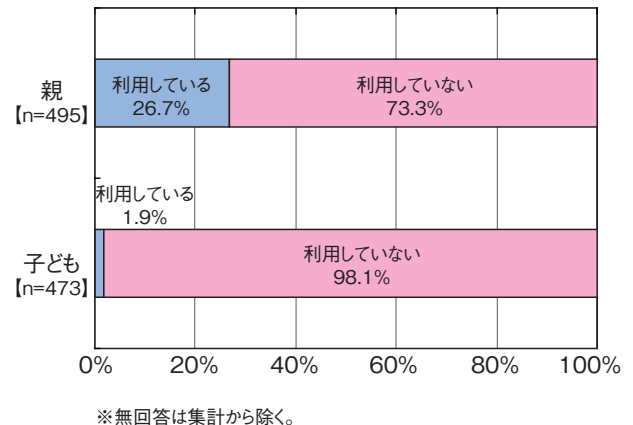


表6－4 親子の要介護度

|                | 親   |        | 子ども |        |
|----------------|-----|--------|-----|--------|
|                | 実数  | %      | 実数  | %      |
| 要支援 1          | 45  | 9.8%   | 8   | 1.8%   |
| 要支援 2          | 23  | 5.0%   | 4   | 0.9%   |
| 要介護 1          | 26  | 5.7%   | 0   | 0.0%   |
| 要介護 2          | 39  | 8.5%   | 1   | 0.2%   |
| 要介護 3          | 20  | 4.3%   | 0   | 0.0%   |
| 要介護 4          | 23  | 5.0%   | 1   | 0.2%   |
| 要介護 5          | 9   | 2.0%   | 1   | 0.2%   |
| 要介護認定の申請をしていない | 235 | 51.1%  | 361 | 83.4%  |
| わからない          | 40  | 8.7%   | 57  | 13.2%  |
| 合計             | 460 | 100.0% | 433 | 100.0% |

※無回答は集計から除く。

図6－6 親子の介護保険制度の利用有無



## (6) 仕事の状況

現在の仕事について、親子別に集計したものが表 6-5 である。親は、「自営業や会社等の役員として仕事をしている」人が 12.3%いたほかは、現在仕事をしている人はわずかで、「仕事をしていない」と回答した人が 81.4%を占めた。

一方、子どもについては、「正規職員として仕事をしている」と回答した人が 25.9%、「非正規職員として仕事をしている」人が 18.3%、「自営業や会社等の役員として仕事をしている」人が 16.9%であった。「仕事をしていない」と回答した人は 34.4%である。

表6－5 親子の現在の仕事

|                                      | 親   |        | 子ども |        |
|--------------------------------------|-----|--------|-----|--------|
|                                      | 実数  | %      | 実数  | %      |
| 正規職員として仕事をしている                       | 7   | 1.4%   | 126 | 25.9%  |
| 非正規職員（嘱託・契約・派遣・パート・アルバイト等）として仕事をしている | 9   | 1.8%   | 89  | 18.3%  |
| 自営業や会社等の役員として仕事をしている                 | 61  | 12.3%  | 82  | 16.9%  |
| その他の就業形態で仕事をしている                     | 15  | 3.0%   | 22  | 4.5%   |
| 仕事はしていない                             | 402 | 81.4%  | 167 | 34.4%  |
| 合計                                   | 494 | 100.0% | 486 | 100.0% |

※無回答は集計から除く。

子どもの仕事の状況について、仕事の有無と年齢階層（2区分）とをクロス集計したものが表 6-6 である。このグラフから、60 歳未満の子ども世代の 74.8%は、現在何かしらの仕事に従事していることがわかる。

表6－6 子ども年齢階層（2区分）×現在の仕事の有無

|          | 60 歳未満 |        | 60 歳以上 |        |
|----------|--------|--------|--------|--------|
|          | 実数     | %      | 実数     | %      |
| 仕事をしている  | 246    | 74.8%  | 73     | 46.8%  |
| 仕事はしていない | 83     | 25.2%  | 83     | 53.2%  |
| 合計       | 329    | 100.0% | 156    | 100.0% |

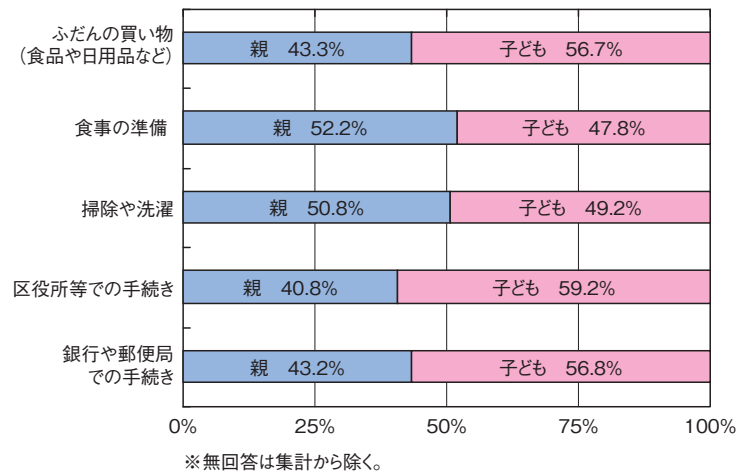
※無回答は集計から除く。

$\chi^2=36.793$  自由度 1  $p=0.000^*$  \*  $p<0.05$

## (7) 家事分担の現状と日常生活上の支援者の存在

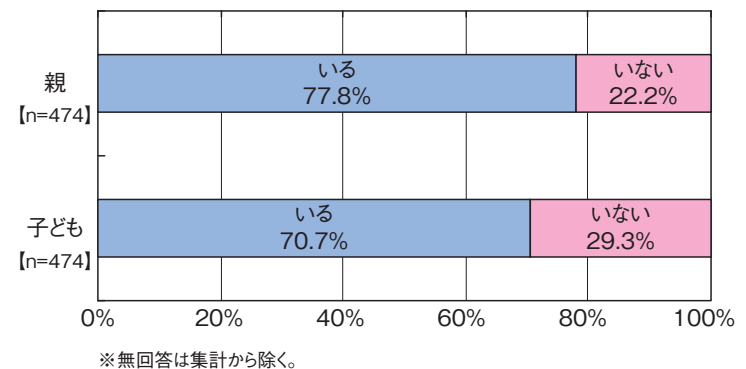
普段の家事の分担について、親子のどちらか主に担当しているかについて集計した（図 6-7）。夫婦世帯では、夫と妻の分担が比較的明確であったが、親子世帯では、どの家事や手続きについても、おおむね親と子で半々程度の分担になっていることがわかる。そのうち、買い物と区役所や銀行等での手続きの 3 項目については、子どもが担う割合が 5 割半から 6 割弱程度になっており、子どもの方がやや多く分担する傾向にある。

図6－7 家事分担



また、同居している世帯員（親にとっては子ども、子どもにとっては親）以外に、生活上の困りごとを支援してくれる人の有無を、親子別に見たものが図 6-8 である。同居の世帯員以外に手伝ってくれる人がいないと回答した人の割合は、親は 22.2%、子どもは 29.3%で、子どもの方がやや多いことがわかった。

図6－8 同居の世帯員以外に手伝ってくれる人の有無



## (8) 近所づきあい

近所づきあいの程度について、親子別に集計したものが図 6-9 である。親子ともに最も高い割合を占めたのは「あいさつをかわすくらい」で、親は 37.1%、子どもは 50.9%であった。全体的には、親の方が子どもに比べて、親密に近所づきあいをする傾向があることがわかる。

男女別に見るとどうであろうか。表 6-7 は、親の近所づきあいについて男女別に集計したものである。男性は、65 人中 40 人が「あいさつをかわすくらい」と回答している。次いで「会ったときに世間話をするくらい」が 10 人であったほかは、すべて 5 人ずつの回答であった。

一方、女性の方は、「会ったときに世間話をするくらい」が最も高く 38.4%で、「あいさつをかわすくらい」が 33.5%と続いた。また、「互いの家を良く行き来するくらい」(6.3%)と「ときどき行き来するくらい」(14.9%)を合わせて、21.2%の人が親密に近所づきあいをしていることがわかる。「あいさつをかわすくらい」と「まったくつきあいがいい」をあわせて、近所づきあいが希薄な傾向にある人の割合は、40.5%であった。男性よりも女性の方が比較的親密に近所づきあいをする傾向にあるようだ。

次に、子どもの近所づきあいの程度を男女別に集計した(表 6-8)。男女とも、最も高い割合を占めたのは「あいさつをかわすくらい」で、男性は 54.0%、女性は 49.0%を占めた。また、男性は「互いの家を良く行き来するくらい」(0.5%)と「ときどき行き来するくらい」(8.6%)を合わせても 9.1%と 1 割未満である。女性は、「互いの家を

よく行き来するくらい」(1.7%)、「ときどき行き来するくらい」(11.0%)を合わせると 12.7%であり、男性よりはやや高いが、それでも 1 割強である。女性は、「会ったときに世間話をするくらい」が 32.7%であり、男性の 21.7%よりも 10 ポイント程度高い。一方で、男性は、「まったくつきあいがいい」と回答する人が 15.2%で、女性の 5.7%を 10 ポイント程度上回っている。

子どもの場合、「あいさつをかわすくらい」と「まったくつきあいがいい」を合わせて、近所づきあいが希薄な傾向にある人の割合は、女性は 54.7%、男性は 69.2%にのぼった。親も子どもも、全体的に近所づきあいは希薄な傾向にあるが、とくに男性はより希薄であることがうかがえる。

図 6-9 親子の近所づきあいの程度

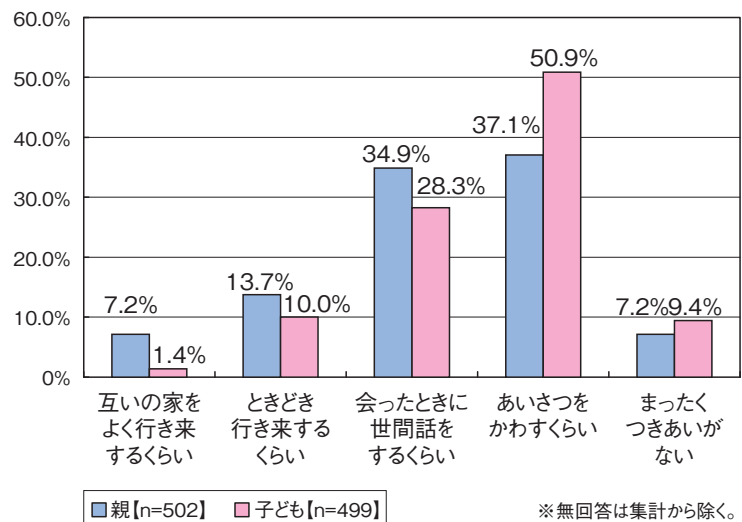


表 6-7 親の近所づきあい×親の性別

|                 | 男性 |        | 女性  |        |
|-----------------|----|--------|-----|--------|
|                 | 実数 | %      | 実数  | %      |
| 互いの家をよく行き来するくらい | 5  | 7.7%   | 27  | 6.3%   |
| ときどき行き来するくらい    | 5  | 7.7%   | 64  | 14.9%  |
| 会ったときに世間話をするくらい | 10 | 15.4%  | 165 | 38.4%  |
| あいさつをかわすくらい     | 40 | 61.5%  | 144 | 33.5%  |
| まったくつきあいがいい     | 5  | 7.7%   | 30  | 7.0%   |
| 合計              | 65 | 100.0% | 430 | 100.0% |

※無回答は集計から除く。

表 6-8 子どもの近所づきあい×子どもの性別

|                 | 男性  |        | 女性  |        |
|-----------------|-----|--------|-----|--------|
|                 | 実数  | %      | 実数  | %      |
| 互いの家をよく行き来するくらい | 1   | 0.5%   | 5   | 1.7%   |
| ときどき行き来するくらい    | 17  | 8.6%   | 33  | 11.0%  |
| 会ったときに世間話をするくらい | 43  | 21.7%  | 98  | 32.7%  |
| あいさつをかわすくらい     | 107 | 54.0%  | 147 | 49.0%  |
| まったくつきあいがいい     | 30  | 15.2%  | 17  | 5.7%   |
| 合計              | 198 | 100.0% | 300 | 100.0% |

※無回答は集計から除く。

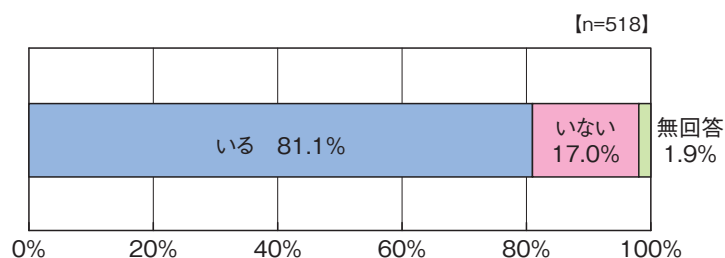


## (9) 緊急時支援者の有無と正月三が日の過ごし方

緊急時（病気やけがなどですぐに誰かの手助けを必要とする時）の支援者の有無については、「いる」と回答した世帯が420ケースで81.1%を占め、「いない」と回答した世帯が88ケースで17.0%を占めた。

また、正月三が日を「2人で過ごした」と回答した世帯は308ケースで、親子世帯全体の60.6%を占めた。

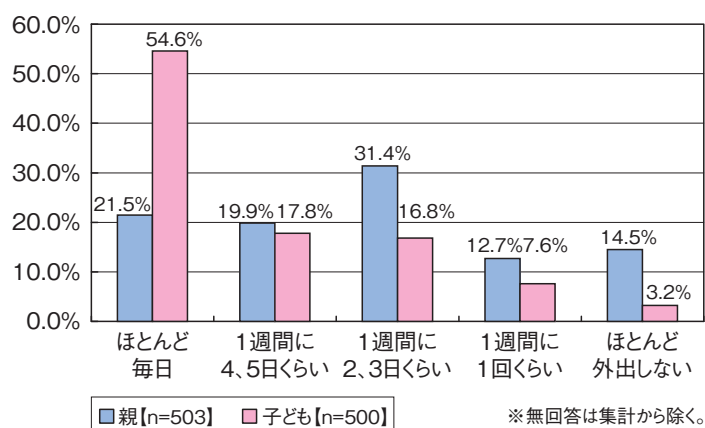
図6-10 緊急時の支援者の有無



## (10) 外出頻度と外出時の会話の程度

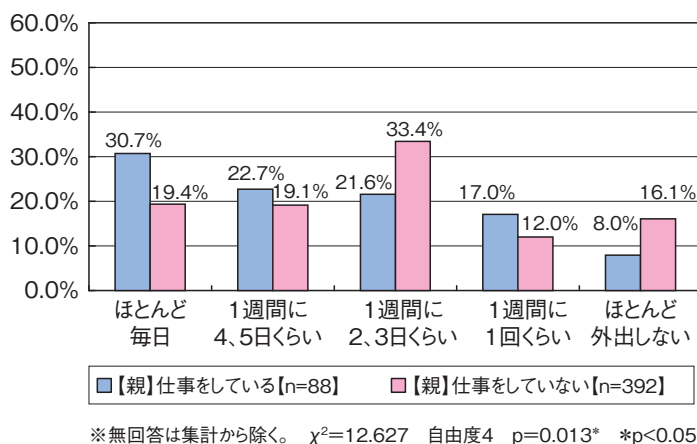
外出頻度について親子別に集計したものが図6-11である。親は、「1週間に2、3日くらい」が最も割合が高く、31.4%を占め、次いで「ほとんど毎日」が21.5%、「1週間に4、5日くらい」が19.9%であった。子どもは、「ほとんど毎日」が54.6%であり、次いで「1週間に4、5日くらい」が17.8%、「1週間に2、3日くらい」が16.8%であった。また、外出頻度の低い人の割合は、「1週間に1回くらい」と「ほとんど外出しない」を合わせて、親は27.2%と3割弱を占めるのに対して、子どもは10.8%であった。

図6-11 親子の外出頻度



外出頻度は、仕事をしている人の方が高いと推測される。そこで、親子それぞれについて、仕事の有無と外出頻度について集計した。まずは親である（図6-12）。仕事をしている場合には、外出頻度が「ほとんど毎日」と回答している人が最も多く、30.7%である。「1週間に1回くらい」（17.0%）と「ほとんど外出しない」（8.0%）を合わせて、あまり外出しない人の割合は25.0%であった。

図6-12 親の仕事の有無別外出頻度

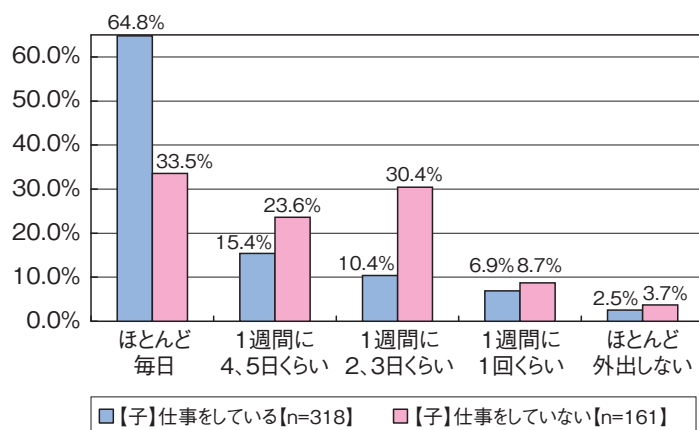


仕事をしていない場合、外出頻度が「1週間に2、3日くらい」と回答している人が最も多く、33.4%であった。「1週間に1回くらい」（12.0%）と「ほとんど外出しない」（16.1%）を合わせて、あまり外出しない人の割合は28.1%で3割弱程度であった。親の場合、仕事をしている人の方がやや外出頻度が高い傾向にあることがわかる。

子どもについて、仕事の有無と外出頻度のかかわりを見たものが図 6-13 である。子どもの場合も、親と同様に仕事をしている人の方が外出頻度が高い。グラフに見るように、その違いは親の場合に比べて顕著である。仕事をしている場合、「ほとんど毎日」外出する人の割合が 64.8% を占め、突出して高い。「1 週間に 4、5 日くらい」と回答した人の割合は 15.4% で大きな差が見られる。これは、親の場合とは異なる傾向である。仕事をしていない場合でも、最も高い割合を占めたのは「ほとんど毎日」外出する人であり、33.5% を占めた。次いで、「1 週間に 2、3 日くらい」が 30.4%、「1 週間に 4、5 日くらい」が 23.6% であった。1 週間に 2、3 日以上外出している人が 87.5% を占めており、「1 週間に 1 回くらい」(8.7%)、「ほとんど外出しない」(3.7%) は 12.4% であった。子どもは、仕事をしていない場合でも、外出頻度が高い傾向にあることがわかる。

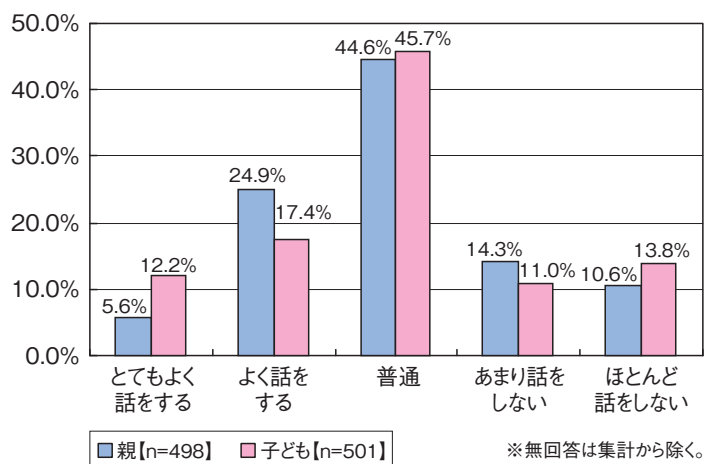
図 6-14 は、親子の外出時の会話の程度を集計したものである。親も子も、「普通」程度に会話をしている人が最も多い（親 44.6%、子供 45.7%）。また、「とてもよく話をする」と「よく話をする」を合わせて、よく話をする傾向にある人は、親が 30.5%、子どもが 29.6%、「あまり話をしない」と「ほとんど話をしない」を合わせて、あまり話をしない傾向にある人は、親が 24.9%、子どもが 24.8% でほとんど違いがなかった。

図6－13 子どもの仕事の有無別外出頻度



※無回答は集計から除く。  $\chi^2=49.272$  自由度4  $p=0.000^*$   $*p<0.05$

図6－14 親子の外出時の会話の程度



※無回答は集計から除く。

## (11) 社会参加の状況

地域で参加している集まりや団体について（複数回答）、親子別に集計した（表 6-9）。この表によれば、親子とも最もよく参加しているのは「町会・自治会」であり、親の 17.5%、子どもの 12.9%が回答していた。そのほか、親世代は「趣味の会」（13.8%）や「健康づくりの活動」（12.6%）に参加していると回答した人が全体の 1 割を超えている。一方、「参加していない」と回答した人の割合は、親の 51.7%、子どもの 71.0%を占めていた。

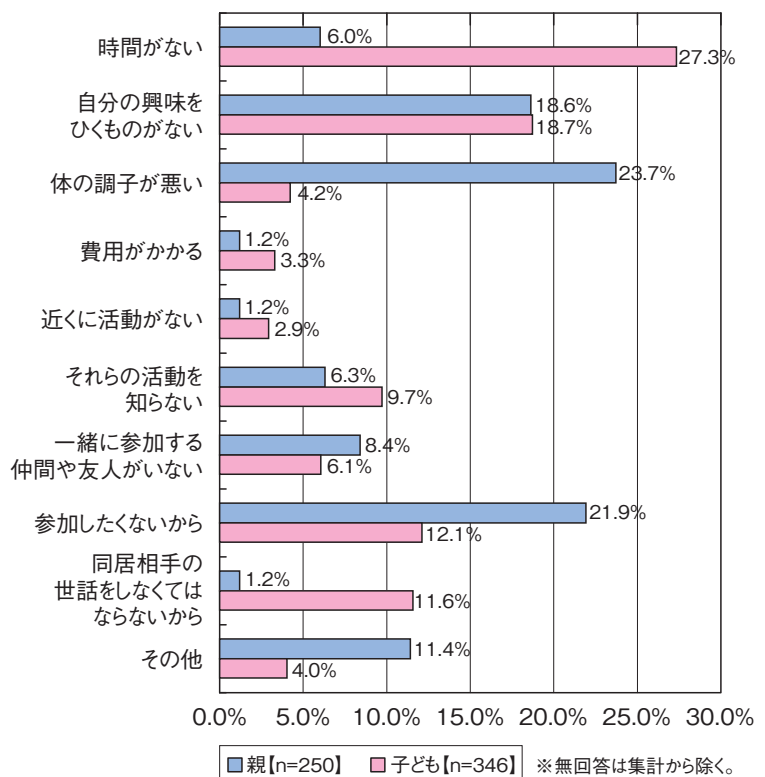
表6－9 親子の参加している社会活動（複数回答）

|                                 | 親【n=491】 |       | 子ども【n=496】 |       |
|---------------------------------|----------|-------|------------|-------|
|                                 | 実数       | %     | 実数         | %     |
| 町会・自治会                          | 86       | 17.5% | 64         | 12.9% |
| 防犯・防災活動                         | 15       | 3.1%  | 17         | 3.4%  |
| 学習の会                            | 20       | 4.1%  | 9          | 1.8%  |
| 趣味の会（囲碁・将棋・俳句・カラオケ・お花・盆栽・お茶など）  | 68       | 13.8% | 23         | 4.6%  |
| 社会活動（同窓会・PTAなどの子育ての頃の団体・生協活動など） | 11       | 2.2%  | 8          | 1.6%  |
| 健康づくりの活動（スポーツ・体操教室など）           | 62       | 12.6% | 32         | 6.5%  |
| 介護予防事業（健康トレーニング・筋力向上トレーニングなど）   | 46       | 9.4%  | 6          | 1.2%  |
| 老人クラブ                           | 40       | 8.1%  | 5          | 1.0%  |
| ボランティア活動                        | 15       | 3.1%  | 20         | 4.0%  |
| その他                             | 30       | 6.1%  | 17         | 3.4%  |
| 参加していない                         | 254      | 51.7% | 352        | 71.0% |

※無回答は集計から除く。

地域活動に「参加していない」人について、その理由（複数回答）を親子別に集計したものが図 6-15 である。親が社会活動に参加しない理由としては「体の調子が悪い」が最も多く 23.7%にのぼり、次いで「参加したくないから」が 21.9%、「自分の興味をひくものがない」が 18.6%であった。一方、子どもは、「時間がない」が最も多く 27.3%を占め、次いで「自分の興味をひくものがない」が 18.7%、「それらの活動を知らない」が 9.7%であった。子どもの 6 割半程度は仕事をしていることから、地域の活動に参加する「時間がない」人の割合が高いことは当然ともいえよう。また、「同居相手の世話をしなくてはならないから」と回答した人の割合は、親は 1.2%であったが、子どもは 11.6%であった。子どものうち 1 割程度の人、親の世話により地域の活動に参加しにくい状況にあることは注目すべき点である。

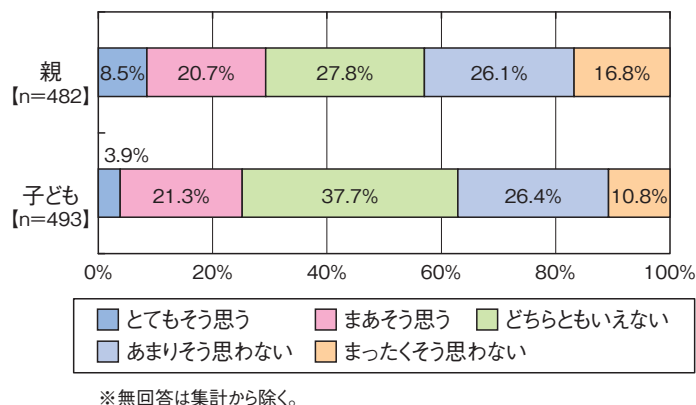
図6－15 親子の社会活動に参加しない理由（複数回答）





今後地域活動に参加したいかどうか、その意向について集計したものが図 6-16 である。親子とも「どちらともいえない」と回答した人が最も多い。また、「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合わせて、今後地域活動に参加したいと思っている人の割合は、親が 29.2%、子どもが 25.2%で、「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」を合わせて、今後地域活動に参加したいと思わない人の割合は、親が 42.9%、子どもが 37.2%であった。傾向としては親子でそれほど大きな違いはない。

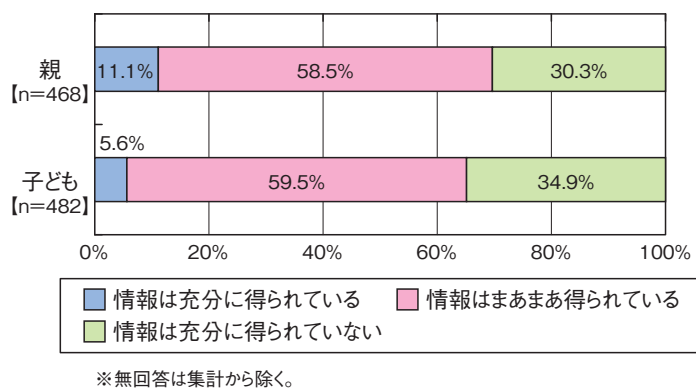
図6－16 親子の地域活動への参加意向



### (12) 情報の充足について

区の行政サービスに関する情報の充足度合いについては（図 6-17）、親子ともに「情報はまあまあ得られている」と回答している人が最も多く6割弱を占めた（親 58.5%、子ども 59.5%）。「情報は十分に得られている」と回答した人の割合は、親は 11.1%、子どもは 5.6%で、「情報は十分に得られていない」と回答した人の割合は、親が 30.3%、子どもが 34.9%であった。全体的に、子どもの方がやや情報の充足度が低い傾向にあることがわかる。

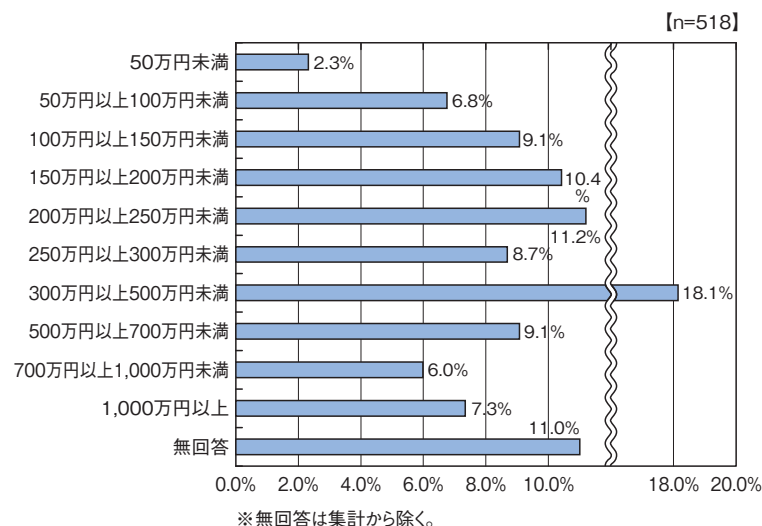
図6－17 親子の情報の充足について



### (13) 経済状況について

世帯の年間収入については、最も割合が高かったのは「300 万円以上 500 万円未満」で 18.1%を占めた。年間収入が 250 万円未満の世帯は、全体の 39.8%を占めている。

図6－18 世帯の年間収入

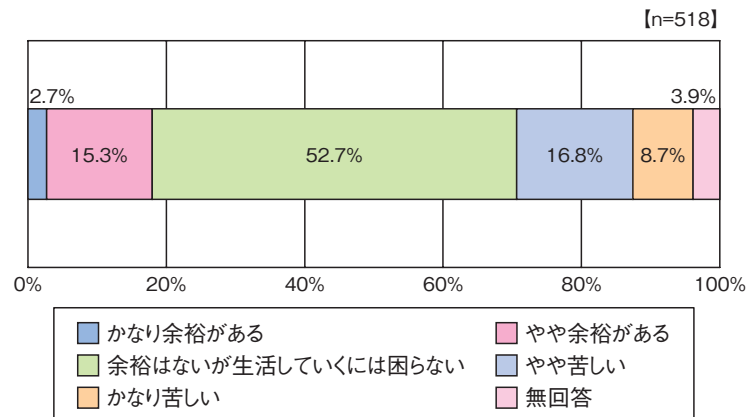


経済状況の感じ方については（図6-19）「余裕はないが生活していくには困らない」が最も多く52.7%を占めた。「かなり余裕がある」と「やや余裕がある」を合わせて「余裕がある」と回答した世帯の割合は、18.0%、「やや苦しい」と「かなり苦しい」を合わせて「苦しい」と回答した世帯は25.5%でおよそ4分の1を占めていた。

おもな収入源について、親・子ども別に集計したものが図6-20である。親は「年金」が最も多く67.1%を占めた。一方、子どもは「仕事による収入」が最も多く55.1%を占め、そのほか「年金」（16.0%）、「預貯金」（10.0%）、「利子、配当、家賃、地代」（9.6%）などに分散している。

家計で負担に感じている費目については（図6-21）、「税金」が最も多く31.3%を占め、次いで「家賃・住宅ローンの返済」が20.1%、「ガス・電気・水道代」が15.4%、「医療費・通院費」が10.6%であった。夫婦世帯では、「税金」の次に負担感が大きい費目としては、「医療費・通院費」が挙げられており、親子世帯の家計の状況との違いが見られた。

図6－19 世帯の経済状況の感じ方



※無回答は集計から除く。

図6－20 親子の主な収入源

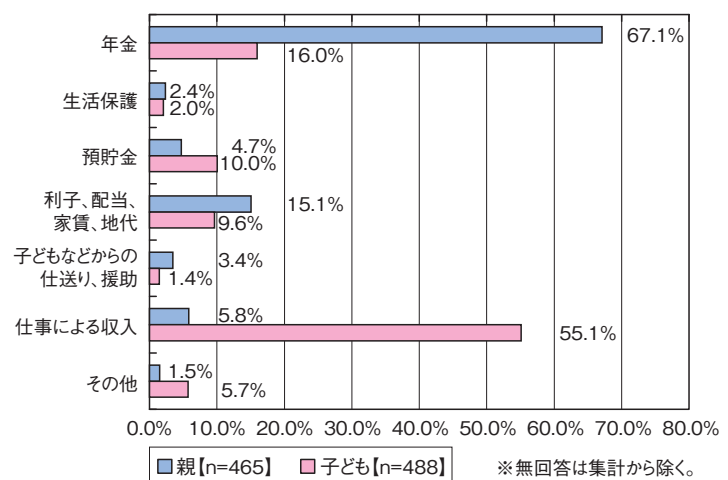
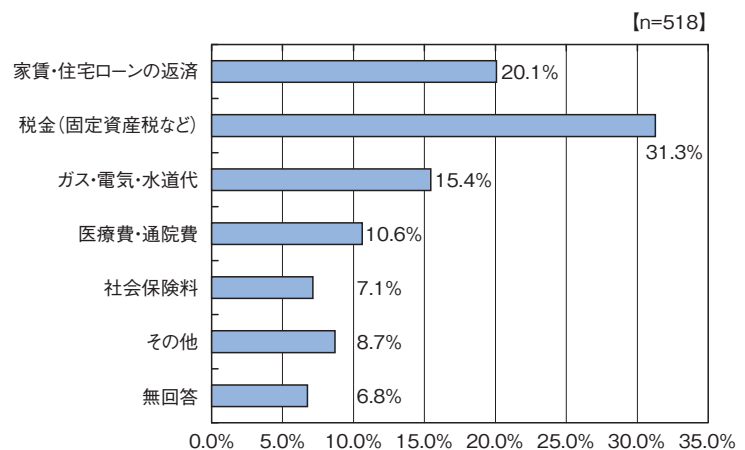


図6－21 家計の負担になっている費目



#### (14) 生活意識について

生活に関する意識（10項目）について、親子別に集計したもののうち、4つを取り上げて図示したものが図6-22から図6-25である。

「今の暮らしには張り合いがある」、「生活は充実している」など、親子で生活意識にほとんど違いが見られなかった一方で、親子で違いが見られる項目もあった。

たとえば、「今の暮らしにはストレスが多い」（図6-23）では、親は「あまりそう思わない」が最も高く38.2%を占め、全体にストレスが多いとは感じていない傾向にあり、「とてもそう思う」（6.4%）や「まあそう思う」（14.1%）などは子どもよりも低い割合を示している。一方、子どもは「とてもそう思う」が17.1%、「まあそう思う」が28.7%であり、どちらも親よりも高く、全体にストレスが多いと感じている傾向にあることがわかる。

「将来の生活は安心できる」（図6-25）についても、親と子どもで意向が異なっている。親は「まあそう思う」の割合が高く29.8%を占め、「とてもそう思う」（3.7%）と合わせて33.5%の人が、将来の生活は安心できると感じていることがわかる。一方、子どもの場合には「とてもそう思う」（2.5%）と「まあそう思う」（14.7%）はどちらも親よりも低い。「あまりそう思わない」（25.8%）、「まったくそう思わない」（20.7%）はどちらも親よりも高く、合わせて46.5%にものぼっている。

図6-22 「今の暮らしには張り合いがある」

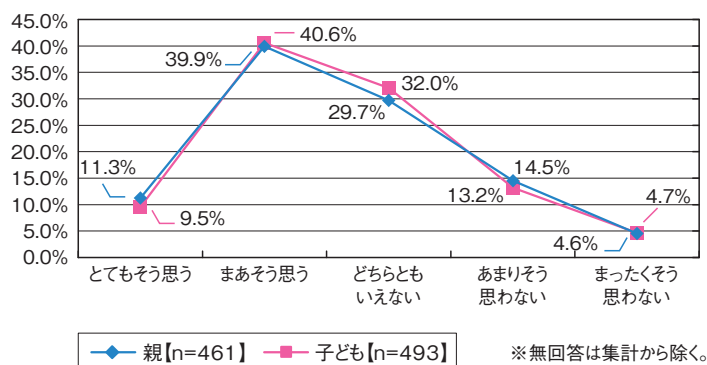


図6-23 「今の暮らしにはストレスが多い」

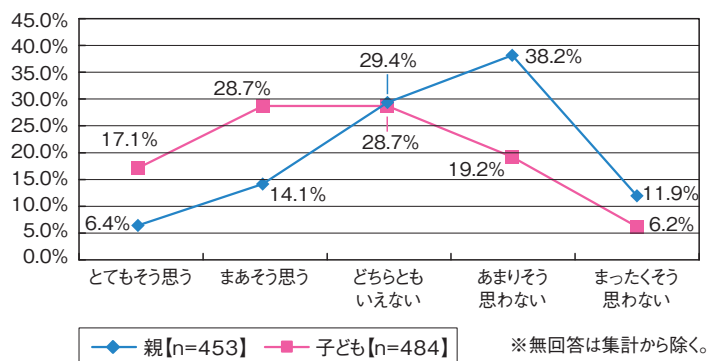


図6-24 「生活は充実している」

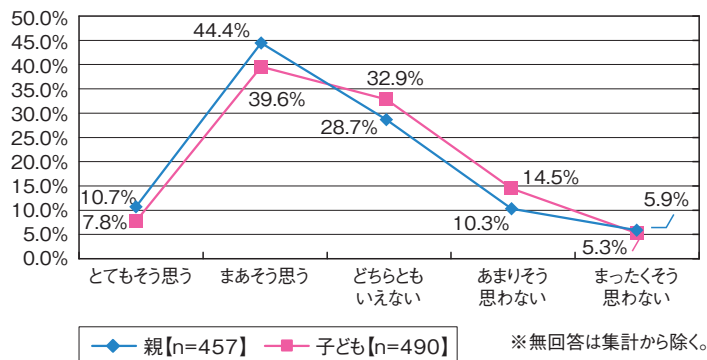
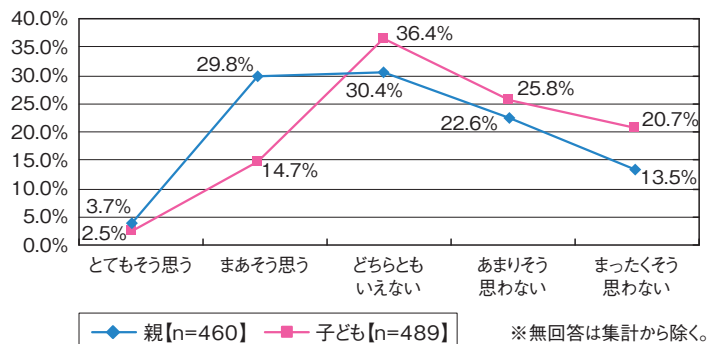


図6-25 「将来の生活は安心できる」



### (15) 将来の不安や心配

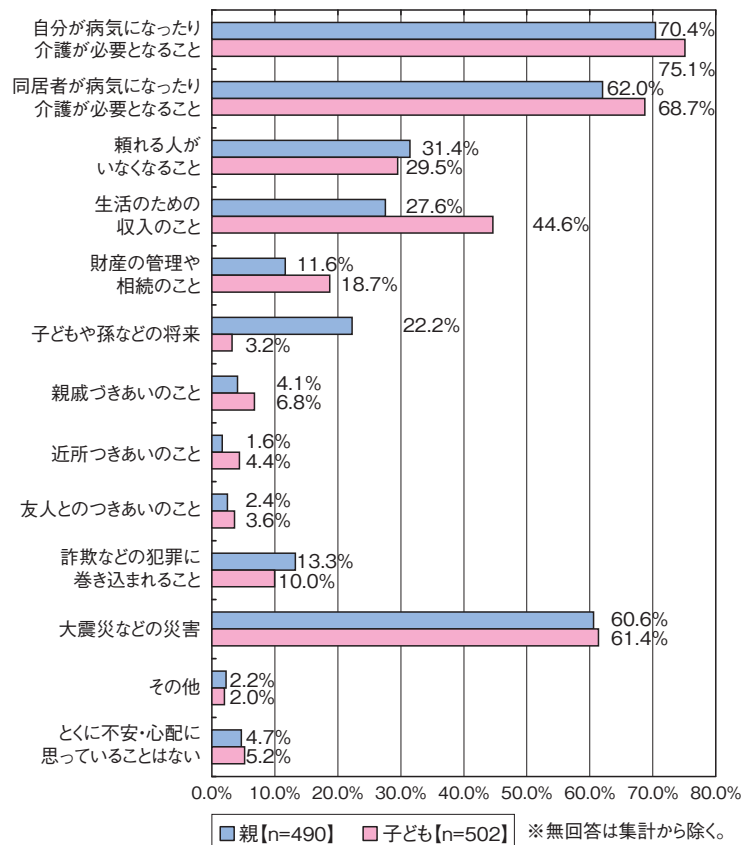
将来の不安や心配の内容について親子別に集計した（図6-26）。親子ともに割合が高かったのは「自分が病気になったり介護が必要となること」、「同居者が病気になったり介護が必要となること」、「同居者が病気になったり介護が必要となること」の2つで、親はそれぞれ70.4%、62.0%、子どもはそれぞれ75.1%、68.7%であった。自分あるいは同居相手の病気や介護に対する心配については、子どもの方が高い傾向にあることがわかる。

また、親子ともに「頼れる人がいなくなること」については、3割前後の人が心配ごととして回答していた（親31.4%、子ども29.5%）。

一方で、「生活のための収入のこと」については、親は27.6%の人が心配ごととして回答していたのに対し、子どもは44.6%にのぼった。

これらのことから、多くの人は互いの健康や介護についてを心配していること、さらに子どもは将来の収入について心配している人が多い傾向にあることがわかった。

図6－26 親子の将来の不安・心配（複数回答）



## 2 介護の必要性と生活状況

本調査では、ふたり暮らし世帯のどちらかが75歳以上である世帯を対象としていることから、親子世帯の親の年齢は75歳以上である。すでに見たように、その平均年齢は83.6歳であった。一般に、高齢者は、高齢になるほど有病率が高くなり、介護を要する人の割合も高くなると指摘されている。親子の2人世帯においては、親が要介護となり、同居する子どもがそのケアを担っている状況があると考えられる。そこで、ここでは、75歳以上の親と同居する世帯において、介護をひとつの軸としてその生活状況を見ていきたい。

### (1) 親子世帯における介護の状況

表6-10は、世帯内に一部またはすべてに介護を必要とする人の有無を集計したものである。何らかの「介護を必要とする人がいる」世帯は、全体の43.9%と4割強を占めている。夫婦世帯ではその割合が28%程度であったことから、親子世帯では、介護を必要とする人がいる世帯の割合が高いことがわかる。

また、世帯内で誰が介護を必要としているのかを集計した表6-11によれば、「親のみが介護を必要としている」世帯が最も多く、全体の37.7%を占めている。これは、介護を必要としている人がいる親子世帯(204ケース)の85.8%にあたる。親子世帯では、親の介護(介護)の有無が、生活状況に大きな影響を与えているのではないかと考えられる。

表6-10 介護を必要とする人の有無

|               | 実数  | %      |
|---------------|-----|--------|
| 介護を必要とする人はいない | 261 | 56.1%  |
| 介護を必要とする人がいる  | 204 | 43.9%  |
| 合計            | 465 | 100.0% |

※無回答は集計から除く。

表6-11 世帯の介護の必要性

|                | 実数  | %      |
|----------------|-----|--------|
| 2人ともほとんど自分でできる | 261 | 56.1%  |
| 親のみ要介護         | 175 | 37.7%  |
| 子どものみ要介護       | 14  | 3.0%   |
| 2人とも要介護        | 15  | 3.2%   |
| 合計             | 465 | 100.0% |

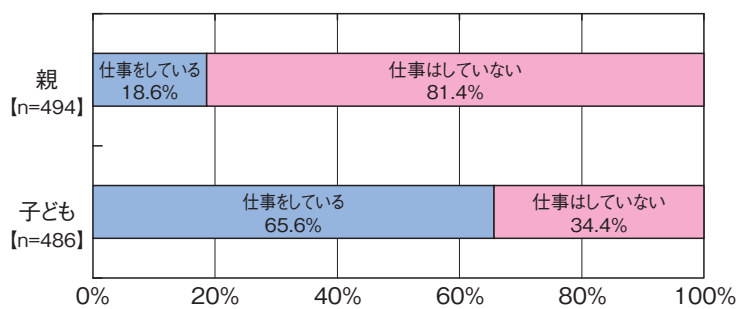
※無回答は集計から除く。

### (2) 介護の有無と仕事の状況

図6-27は、親子それぞれの現在の仕事の有無を集計したものである。親の81.4%は仕事をしていないが、子どもの65.6%は現在何かしらの仕事に従事していることがわかる。とくに、子どものうち、60歳未満の人の場合には、74.8%が仕事をしていることがわかっている(前掲表6-6)。

では、介護を必要とする人がいる世帯ではどうであろうか。表6-12は、世帯内の介護を必要とする人の有無と、親子それぞれの現在の仕事の有無をクロス集計したものである。親または子どものどちらかが介護を必要としている世帯では、仕事をしている親の割合は12.5%、していない親の割合は87.5%であった。介護を必要とする人がいない世帯の場合には、仕事をしている親は20.8%であり、介護を必要とする人がいる世帯よりもやや高い(カイ二乗検定の結果、その差は統計的に有意である)。子どもについては、介護を必要とする人がいない世帯では、子どもの75.2%が「仕事をしている」と回答しているのに対して、介護を必要とする人がいる世帯では、

図6-27 親子の現在の仕事の有無



※無回答は集計から除く。



「仕事をしている」と回答した子どもは53.2%と低くなる。世帯に介助を必要としている人がいる場合、親子ともに仕事をしている人の割合が低くなること、とくに子どもの場合にはそれが顕著であることがわかる。

表6－12 世帯の介助の有無と親子の現在の仕事

|                   |          | 介助を必要とする人はいない |        | 介助を必要とする人がいる |        | 合計  |        |
|-------------------|----------|---------------|--------|--------------|--------|-----|--------|
|                   |          | 実数            | %      | 実数           | %      | 実数  | %      |
| 【親】<br>現在の仕事の有無   | 仕事をしている  | 53            | 20.8%  | 25           | 12.5%  | 78  | 17.1%  |
|                   | 仕事はしていない | 202           | 79.2%  | 175          | 87.5%  | 377 | 82.9%  |
|                   | 合計       | 255           | 100.0% | 200          | 100.0% | 455 | 100.0% |
| 【子ども】<br>現在の仕事の有無 | 仕事をしている  | 191           | 75.2%  | 108          | 53.2%  | 299 | 65.4%  |
|                   | 仕事はしていない | 63            | 24.8%  | 95           | 46.8%  | 158 | 34.6%  |
|                   | 合計       | 254           | 100.0% | 203          | 100.0% | 457 | 100.0% |

※無回答は集計から除外

【親】現在の仕事： $\chi^2=24.130$  自由度1  $p=0.000^*$  \* $p<0.05$

【子ども】現在の仕事： $\chi^2=5.416$  自由度1  $p=0.020^*$  \* $p<0.05$

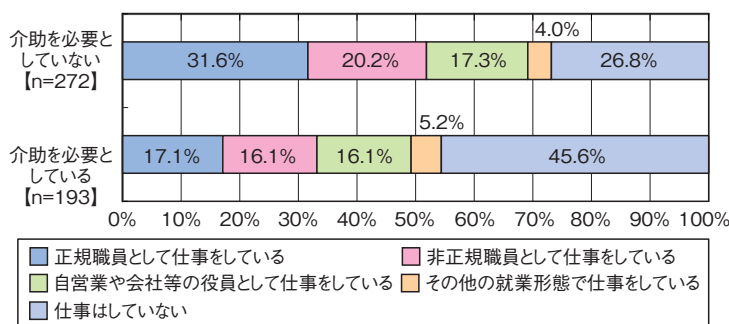
親子世帯では、介助を必要とする人がいる場合、それは親であることが多い。そこで、親の介助の必要性和子どもの現在の仕事の状況を集計したものが図6-28である。

親が介助を必要としていない場合、「正規職員として仕事をしている」子どもは31.6%、「非正規職員として仕事をしている」子どもは20.2%、「自営業や会社等の役員として仕事をしている」子どもは17.3%であった。「仕事はしていない」と回答している子どもは26.8%である。

しかし、親が介助を必要とする場合には、「仕事はしていない」と回答した子どもの割合が45.6%と半分近くにもなっており、大幅にその割合が高くなっている。一方で、「正規職員として仕事をしている」子どもの割合は17.1%で、14ポイント程度も低くなる。「非正規職員として仕事をしている」人の割合は16.1%で、4ポイント程度低くなっている。「自営業や会社等の役員として仕事をしている」子どもの割合は16.1%で、あまり変わらない(カイ二乗検定によって統計的に有意差が認められる)。これらのデータから、仕事をしていない子どもが、親の介護により仕事を辞めている可能性も指摘できるだろう。

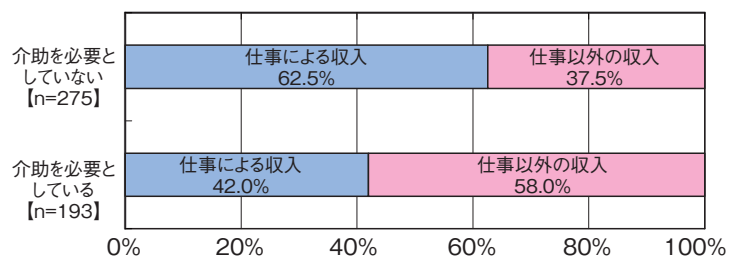
それは、主な収入源の違いからも見ることができる。図6-29は、子どもの主な収入源が、仕事によるものか仕事以外によるものかについて、親の介助の有無別に集計したものである。親が介助を必要としていない場合には、子どもの主な収入源は「仕事による収入」と回答した人の割合は62.5%で、6割

図6－28 親の介助の必要有無×子どもの現在の仕事の状況



※無回答は集計から除く。 $\chi^2=22.251$  自由度4  $p=0.000^*$  \* $p<0.05$

図6－29 親の介助の必要有無×子どもの主収入源（2区分）



※無回答は集計から除く。 $\chi^2=19.334$  自由度1  $p=0.000^*$  \* $p<0.05$

を超えている。しかし、親が介助を必要としている場合には、「仕事による収入」と回答した人の割合は42.0%と4割程度になり、「仕事以外の収入」が58.0%にのぼっている。主な収入源の内訳は、表6-13に見るように、親が介助を要する世帯では「年金」の割合が高くなり、全体の25.4%を占めるまでになっている。

なお、経済状況の感じ方については、親が介助を必要とする世帯でもそうでない世帯でも、大きな差は見られなかった。

表6-13 親の介助の必要有無×子どもの主な収入源

|             | 介助を必要としていない |        | 介助を必要としている |        | 合計  |        |
|-------------|-------------|--------|------------|--------|-----|--------|
|             | 実数          | %      | 実数         | %      | 実数  | %      |
| 年金          | 28          | 10.2%  | 49         | 25.4%  | 77  | 16.5%  |
| 生活保護        | 6           | 2.2%   | 3          | 1.6%   | 9   | 1.9%   |
| 預貯金         | 26          | 9.5%   | 22         | 11.4%  | 48  | 10.3%  |
| 利子、配当、家賃、地代 | 25          | 9.1%   | 21         | 10.9%  | 46  | 9.8%   |
| 仕事による収入     | 172         | 62.5%  | 81         | 42.0%  | 253 | 54.1%  |
| その他         | 18          | 6.5%   | 17         | 8.8%   | 35  | 7.5%   |
| 合計          | 275         | 100.0% | 193        | 100.0% | 468 | 100.0% |

※無回答は集計から除外  $\chi^2=26.618$  自由度 5  $p=0.000$  \*  $p<0.05$

### (3) 介助の有無と支援ネットワーク

世帯員の誰かが介助を必要とする場合、家族員以外に緊急時に支援してくれる人の存在が重要となる。親子世帯では、夫婦世帯に比べて緊急時の支援者がいない世帯の割合がやや高い(17.0%)。親子世帯だけで

見ると、世帯員に介助を必要とする人がいる世帯のうち、緊急時の支援者がいない世帯の割合は19.6%、介助を必要とする人がいない世帯ではその割合は17.5%であった(表6-14)。カイ二乗検定の結果、両者の間に有意な差は認められなかった( $\chi^2=0.325$ 、自由度1、 $p=0.568$ )。世帯員に介助が必要な人がいるかどうかは、緊急時の支援者を得られるかどうかにはかわりがないということがわかる。

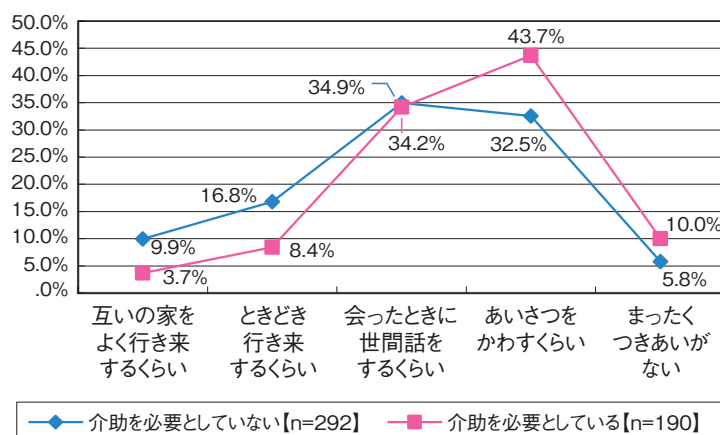
表6-14 世帯の介助の必要有無×緊急時の支援者の有無

|         | 介助を必要としていない |        | 介助を必要としている |        |
|---------|-------------|--------|------------|--------|
|         | 実数          | %      | 実数         | %      |
| 支援者がいる  | 212         | 82.5%  | 160        | 80.4%  |
| 支援者はいない | 45          | 17.5%  | 39         | 19.6%  |
| 合計      | 257         | 100.0% | 199        | 100.0% |

※無回答は集計から除外  $\chi^2=0.325$  自由度 1  $p=0.568$

では、近所づきあいについてはどうか。図6-30は、親の近所づきあいの程度について、親自身の介助の必要の有無別に比較したものである。このグラフからは、たとえば、介助を必要としているグループの方が、そうでないグループに比べて、近所づきあいが薄くなる傾向にあることがわかる。一口に介助を要する状態と言っても、ときおり支援が必要といった軽度のものから、寝たきりなど重介護の状態までさまざまであるが、全体的に、親が介助を必要としている場合に、親自身の近所づきあいがやや希薄化してしまうのは、当たり前ともいえる。

図6-30 親の介護の必要有無×親の近所づきあいの程度



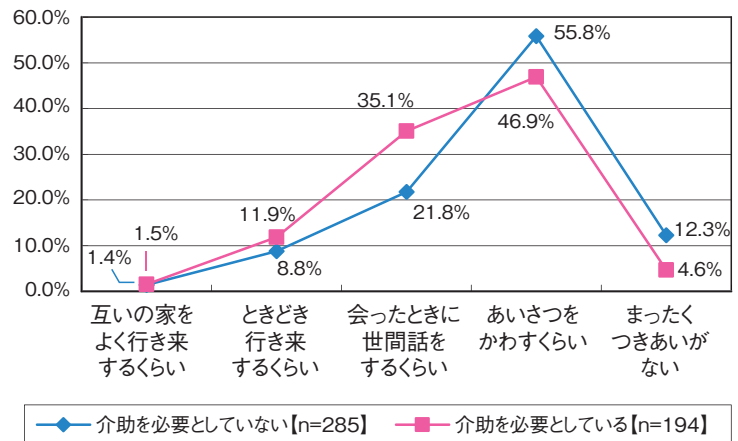
※無回答は集計から除く。  $\chi^2=18.562$  自由度 4  $p=0.001$  \*  $p<0.05$

では、親が介助を必要としている世帯での、子どもの近所づきあいについてはどうであろうか。もともと、親と子とでは、子どもの方が近所づきあいが希薄な傾向にある。親の介護に迫られ、さらに近所づきあいが希薄化することも考えられる。そこで、親の介助の必要の有無別に子どもの近所づきあいの程度を集計した(図 6-31)。すると、親の介助が必要な世帯の子どもほど、近所づきあいが親密になっていることがわかった。

次に、社会参加の有無について見てみよう。図 6-32 は、親の介助の必要の有無別に、親自身の社会参加の有無を集計したものである。近所づきあいと同様に、親が介助を必要とする場合には、親自身の社会活動への参加は少なくなり、「参加していない」と回答している人の割合が 64.6%にのぼっている。

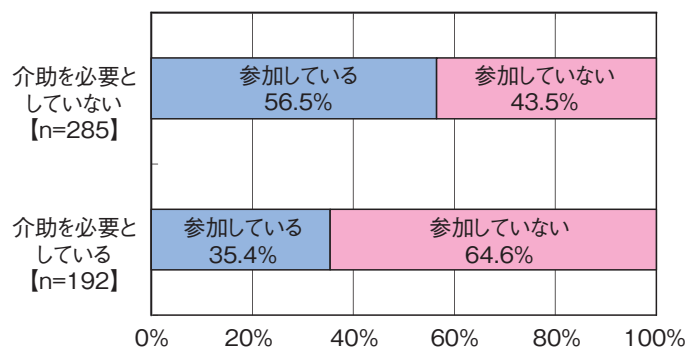
図 6-15 で見ているように、もともと、親の社会活動に参加しない理由としては、「体の調子が悪い」が最も多く 2 割以上を占めていた。それを、親自身の介助の必要の有無別に集計したものが図 6-33 である。親に介助が必要である場合には、「体の調子が悪い」ために社会活動に参加していないと回答している人の割合は 50.4%にのぼる。介助を必要としない場合には、「自分の興味を引くものがない」(30.9%)、「時間がない」(11.4%)などが、介助を必要としている人と比べて、不参加の理由として多く挙げられている。介助を必要としている人が、社会活動に参加できないのは、健康面の影響が大きいことがわかる。

図6－31 親の介助の必要有無×子どもの近所づきあいの程度



※無回答は集計から除く。

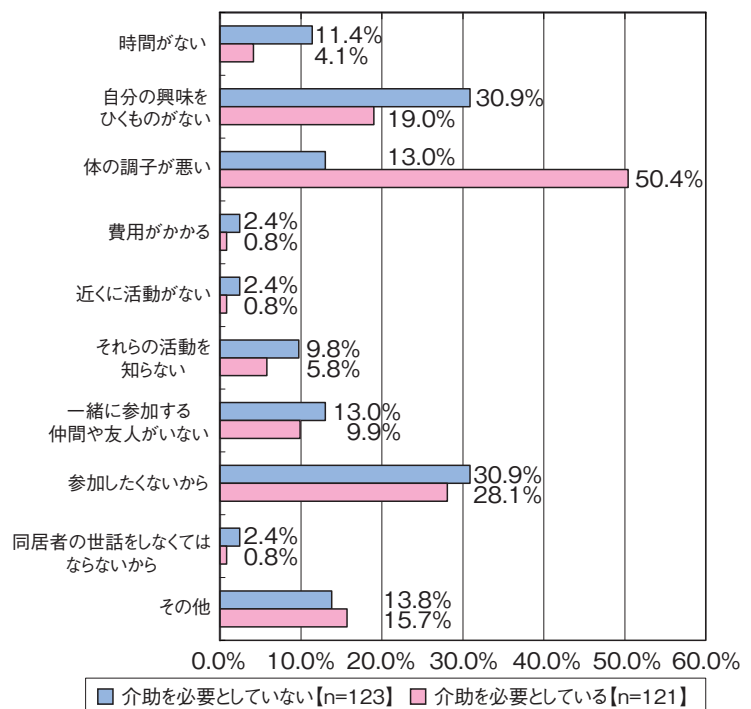
図6－32 親の介助の必要有無×親の社会参加の有無



※無回答は集計から除く。

$\chi^2=20.412$  自由度 1  $p=0.000^*$   $*p<0.05$

図6－33 親の介助の必要有無×親の不参加の理由（複数回答）



※無回答は集計から除く。

では、子どもの方はどうであろうか。親が介助を必要としているかどうかによって、子どもの社会活動への参加に違いが見られるかどうかを集計したものが表 6-15 である。親が介助を必要とする場合でも、必要としない場合でも、社会活動に参加している子どもの割合は 2 割半から 3 割程度で、カイ二乗検定を行った結果、統計的な有意差は認められなかった ( $\chi^2 = 2.325$ 、自由度 1、 $p = 0.125$  で、 $p$  値が 0.05 を上回っているため)。すなわち、親の介助の有無は、子どもの社会参加の有無にはかかわりがないということである。

ただし、社会活動に参加しない理由としては、「親の介助をしている」ことが大きい。図 6-34 は、子どもが社会活動に参加しない理由を、親の介助の必要別に集計したものである。「時間がない」や「自分の興味をひくものがない」「それらの活動を知らない」など、全体的に不参加の理由には介助の有無によっても大きな割合差は見られない。しかし、「親の世話をしなくてはならない」については、親が介助を必要としない場合にはわずか 5.3%であるのに対して、親が介助を必要とする場合には 40.5%にものぼっている。

親の介助の有無によって、社会活動への参加有無に違いは見られないものの、現在活動に参加していない人のうち、親が要介助の世帯では、不参加の理由の多くは「親の世話」であることがうかがえる。

#### (4) 介助の有無と外出行動

外出は、買い物や通院などの日常生活に欠かせない行動であり、社会との接点ともなりうるものである。親子世帯の親が介助を必要とする場合とそうでない場合とでは、親子の外出行動に違いが生じるのかについて、外出頻度と、外出時の会話の程度から見ていきたい。

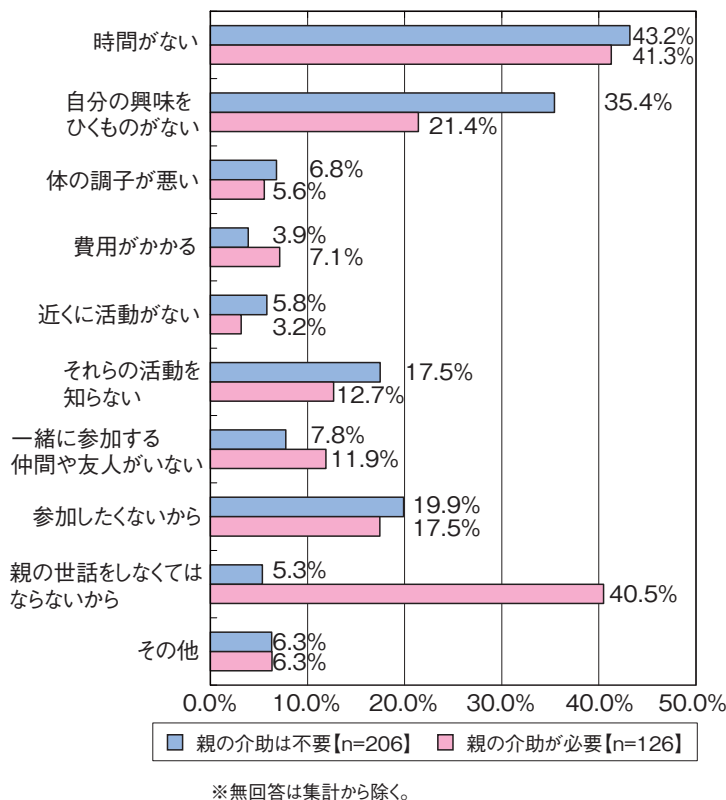
まずは外出頻度である。図 6-35 は、親の介助の必要の有無別に、親自身の外出頻度を集計したものである。これによれば、介助を必要としていない親は、「ほとんど毎日」外出する人が 30.5%、「1 週間に 4、5 日くらい」外出する人が 22.3%、「1 週間に 2、3 日くらい」の人が 29.5%で、比較的よく外出している人の割合が 8 割を超えている。一方、介助を必要とする親の場合には、その外出頻度は「ほとんど外出しない」が 28.0%、「1 週間に 1 回くらい」が 14.0%で、両者を合わせてあまり外出しない人の割合が 42.0%と 4 割にのぼった。一方、子どもについては（図 6-36）、外出頻度は親が介助を必要とする場合も、そうでない場合も大きな差が見られなかった。親と比較して子どもは外出頻度が高い傾向にあり、それはまた、親の介助の有無によっても変わりが無いと考えられる。

表6－15 親の介助の必要有無×子の社会参加の有無

|         | 親が介助を必要としていない |        | 親が介助を必要としている |        |
|---------|---------------|--------|--------------|--------|
|         | 実数            | %      | 実数           | %      |
| 参加している  | 74            | 26.3%  | 64           | 32.8%  |
| 参加していない | 207           | 73.7%  | 131          | 67.2%  |
| 合計      | 281           | 100.0% | 195          | 100.0% |

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=2.352$  自由度 1  $p=0.125$

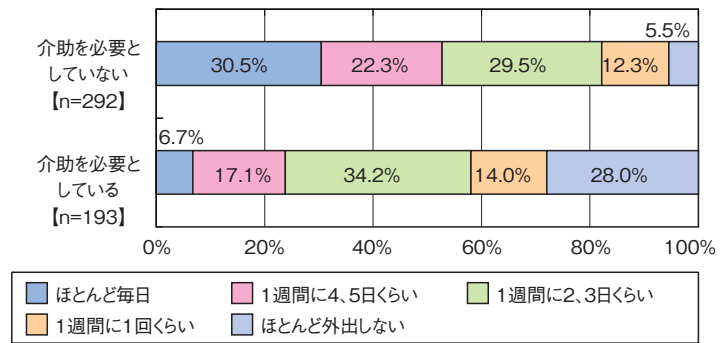
図6－34 親の介助の必要有無×子の不参加の理由（複数回答）





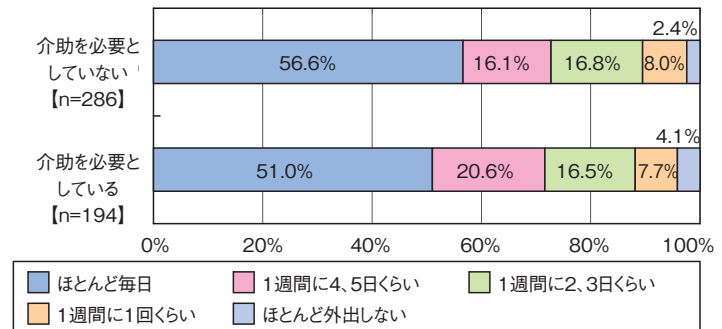
外出時の会話の程度についても、同様の傾向が見られた。図 6-37 は、親の介助の必要の有無別に、親自身の外出時の会話の程度を集計したものである。介助を必要としていない親は、外出時には「とてもよく話をする」(7.2%)と「よく話をする」(30.1%)を合わせて、37.3%の人がよく話をすると回答している。「あまり話をしない」(9.6%)と「ほとんど話をしない」(7.9%)を合わせて、外出時に会話をしないと回答した人の割合は、17.5%であった。介助を必要とする親の場合には、外出時に会話をする人の割合は、19.2%と2割程度に低下し、会話をしないと回答した人の割合は、35.6%に増加した。介助を必要とする場合には、外出時の会話の程度が少なくなることがわかる。日常生活上で何らかの介助を必要とする場合、外出頻度と併せて、会話の程度も少なくなるということがわかる。なお、子どもの外出時の会話の程度については、親の介助の有無別に集計したところ、外出頻度と同様に、違いがないことがわかった(付表 1)。親の介助の有無は、子どもの外出行動とは大きなかわりがないといえる。

図6－35 親の介助の必要有無×親の外出頻度



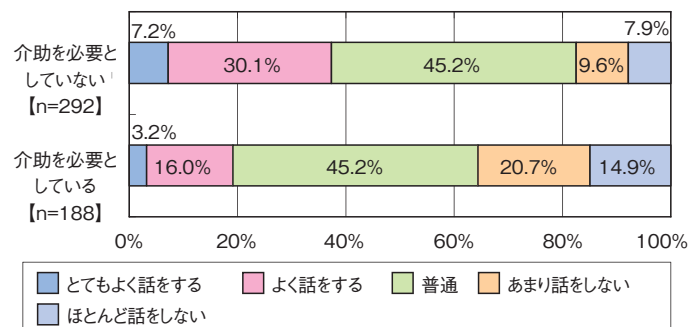
※無回答は集計から除く。  $\chi^2=74.519$  自由度 4  $p=0.000^*$   $*p<0.05$

図6－36 親の介助の必要有無×子どもの外出頻度



※無回答は集計から除く。  $\chi^2=3.055$  自由度 4  $p=0.549$

図6－37 親の介助の必要有無×親の外出時の会話の程度



※無回答は集計から除く。  $\chi^2=28.104$  自由度 4  $p=0.000^*$   $*p<0.05$

#### (5) 介助の有無と生活意識・将来の不安

親の介助の有無が、親子それぞれの生活意識にどのように関わってくるのかについて分析した。

まずは、親の意識についてである。親自身の介助の有無別に、親の生活意識(10項目)について集計を行い、その平均値の差の検定(t検定)を行った(表 6-16)。この表から、たとえば「今の暮らしには張り合いがある」については、介助を必要としていないグループの平均値は 3.59 で、介助を必要とするグループの平均値 3.07 よりも 0.52 高い。この差について、独立サンプルの平均値の差の検定(t検定)を行った。Levene の検定の結果(有意確率が 0.618)より、等分散性の仮定を満たしていることを確認し、t検定の結果は、p値が 0.000 で 0.05 を下回っていることから、有意であると認められる。すなわち、介助を必要としないグループの方が、介助を必要としているグループよりも「今の暮らしには張り合いがある」と感じる傾向にあることが、統計的にも有意であるといえる。

同様に、「近所づきあいに満足している」についても、介助を必要としていないグループの平均値が 3.17 であり、介助を必要とするグループの 2.87 よりも高い。ここで分析に用いた項目は、値が大きい方が満足度が高かったり、不安やストレスが少ないというプラスの傾向を示す。「今の暮らしには



張り合いがある」から「将来の生活は安心できる」まで、どの項目においても、介助を必要としていないグループの方が平均値が高く、意識がプラスの傾向にあることがわかる。そして、これらの結果についても、「周囲から取り残されたように感じる」までの9項目については、t検定により有意差が認められた。ただし、「将来の生活は安心できる」については、t検定の結果、p値が0.097で0.05を上回っていることから、介助を必要としているグループと必要としていないグループの平均値の差は、統計的に有意であるとはいえないことがわかる。

なお、等分散性の仮定を満たさなかった項目があったことから、ノンパラメトリック検定（Mann-Whitney 検定）も行ったところ、「将来の生活は安心できる」以外の9項目について、5%水準で有意差が認められた。

以上のことから、親の生活意識については、親自身の介助の必要の有無が、「将来の生活は安心できる」以外の9項目において関わりがあること、そしてそれは、介助の必要がないグループの方が、安定していることがわかる。

表6－16 親の意識と親の介助の必要有無

|                  | 親は介助は不要 |      |       | 親は要介助 |      |       | 等分散性のための<br>Levene の検定 |       | 2つの母平均の差の検定 |         |       |
|------------------|---------|------|-------|-------|------|-------|------------------------|-------|-------------|---------|-------|
|                  | ケース数    | 平均値  | 標準偏差  | ケース数  | 平均値  | 標準偏差  | F 値                    | 有意確率  | t 値         | 自由度     | p 値   |
| 今の暮らしには張り合いがある   | 274     | 3.59 | 0.968 | 176   | 3.07 | 0.98  | 0.249                  | 0.618 | 5.544       | 448     | 0.000 |
| 今の暮らしにはストレスが多い   | 267     | 3.5  | 1.084 | 175   | 3.11 | 1.008 | 2.287                  | 0.131 | 3.797       | 440     | 0.000 |
| 生活は充実している        | 271     | 3.64 | 0.951 | 174   | 3.13 | 0.991 | 0.014                  | 0.905 | 5.428       | 443     | 0.000 |
| 生活していて不安や心配がある   | 266     | 3.05 | 1.168 | 174   | 2.67 | 1.139 | 0.230                  | 0.632 | 3.305       | 438     | 0.001 |
| 趣味をしている時間は楽しい    | 254     | 3.98 | 0.994 | 160   | 3.29 | 1.135 | 13.063                 | 0.000 | 6.377       | 305.021 | 0.000 |
| 友人との関係に満足している    | 260     | 3.7  | 0.973 | 164   | 3.12 | 1.126 | 1.986                  | 0.160 | 5.624       | 422     | 0.000 |
| 近所づきあいに満足している    | 265     | 3.17 | 1.077 | 171   | 2.87 | 1.066 | 0.543                  | 0.461 | 2.873       | 434     | 0.004 |
| 自分は頼りにされていると思う   | 267     | 3.37 | 1.077 | 170   | 2.75 | 1.13  | 0.400                  | 0.527 | 5.771       | 435     | 0.000 |
| 周囲から取り残されたように感じる | 268     | 3.98 | 0.834 | 170   | 3.32 | 0.946 | 10.760                 | 0.001 | 7.377       | 326.623 | 0.000 |
| 将来の生活は安心できる      | 272     | 2.95 | 1.092 | 175   | 2.77 | 1.106 | 0.325                  | 0.569 | 1.665       | 445     | 0.097 |

では、親の介助の有無が子どもの生活意識にかかわりがあるかどうかについて、次に見ていきたい。

表6-17は、子どもの生活意識10項目について、親の介助の有無別に平均値を集計し、平均値の差の検定（t検定）を行ったものである。これによれば、子どもの生活意識のうち「今の暮らしには張り合いがある」「今の暮らしにはストレスが多い」「生活は充実している」「生活していて不安や心配がある」「趣味をしている時間は楽しい」「友人との関係に満足している」「周囲から取り残されたように感じる」「将来の生活は安心できる」の8項目については、親が介助を必要としていないグループの方が、介助を必要とするグループよりも、平均値が高い。そのうち、平均値の差の検定の結果、有意であると認められたのは「今の暮らしにはストレスが多い」「生活は充実している」「生活していて不安や心配がある」「趣味をしている時間は楽しい」「周囲から取り残されたように感じる」の5項目であった。

たとえば「今の暮らしにはストレスが多い」については、その平均値は親が介助を必要としていないグループでは 2.84 であったのに対して、親が介助を必要としているグループでは 2.47 であった。その差はt検定によって統計的に有意である ( $p=0.001$ ) と認められ、親が介助を必要としている子どものグループは、ストレスが多いと感じる傾向にあることがわかる。同様に、「生活していて不安や心配がある」についても、親が介助を必要としていないグループの平均値は 2.67 で、親が介助を必要としているグループの平均値 2.42 よりも高く、その差は統計的に有意である ( $p=0.018$ ) と認められる。

子どもは、親が介助を必要としている場合、生活への不安やストレス、充実感の度合いなどにおいてマイナスの傾向を示すこと、近所づきあいや友人関係、将来の生活への安心感などについては、親の介助の有無は関わりがないことがうかがえる。

表6－17 子どもの意識と親の介助の必要有無

|                  | 親は介助は不要 |      |       | 親は要介助 |      |       | 等分散性のための<br>Levene の検定 |       | 2 つの母平均の差の検定 |     |       |
|------------------|---------|------|-------|-------|------|-------|------------------------|-------|--------------|-----|-------|
|                  | ケース数    | 平均値  | 標準偏差  | ケース数  | 平均値  | 標準偏差  | F 値                    | 有意確率  | t 値          | 自由度 | p 値   |
| 今の暮らしには張り合いがある   | 278     | 3.43 | 1.023 | 195   | 3.28 | 0.929 | 3.335                  | 0.068 | 1.586        | 471 | 0.113 |
| 今の暮らしにはストレスが多い   | 273     | 2.84 | 1.141 | 193   | 2.47 | 1.132 | 0.220                  | 0.639 | 3.468        | 464 | 0.001 |
| 生活は充実している        | 277     | 3.38 | 1.006 | 193   | 3.19 | 0.973 | 1.230                  | 0.268 | 2.013        | 468 | 0.045 |
| 生活していて不安や心配がある   | 277     | 2.67 | 1.128 | 193   | 2.42 | 1.083 | 1.552                  | 0.213 | 2.37         | 468 | 0.018 |
| 趣味をしている時間は楽しい    | 271     | 4.05 | 0.991 | 189   | 3.86 | 1.043 | 2.521                  | 0.113 | 1.972        | 458 | 0.049 |
| 友人との関係に満足している    | 274     | 3.68 | 1.019 | 192   | 3.61 | 0.959 | 0.461                  | 0.497 | 0.725        | 464 | 0.469 |
| 近所づきあいに満足している    | 276     | 2.93 | 1.01  | 193   | 3.05 | 0.934 | 1.916                  | 0.167 | -1.352       | 467 | 0.177 |
| 自分は頼りにされていると思う   | 275     | 3.45 | 1.029 | 192   | 3.6  | 1.097 | 1.246                  | 0.265 | -1.541       | 465 | 0.124 |
| 周囲から取り残されたように感じる | 276     | 3.67 | 0.993 | 194   | 3.41 | 0.984 | 0.001                  | 0.980 | 2.799        | 468 | 0.005 |
| 将来の生活は安心できる      | 275     | 2.56 | 1.097 | 194   | 2.47 | 1.019 | 1.896                  | 0.169 | 0.91         | 467 | 0.363 |

このように、「将来の生活は安心できる」については、親の介助の有無による差は親子ともに認められない。しかし、将来の生活に対する不安や心配ごとの内容については、介助を要する親がいる世帯とそうでない世帯では、その内容に違いが見られた。

表 6-18 は、親が感じる将来の生活に対する不安や心配ごとの内容について、介助の必要の有無別に集計したものである。介助を必要としていない場合、心配ごととして最も高い割合を占めたのは「自分が病気になったり介護が必要となること」で 78.8% の人が回答した。そのほか、「同居者(子ども)が病気になったり介護が必要となること」が 54.1% を占め、現在介助は必要としないものの、自分が将来介助を必要とする状態になることや、同居する子どもの病気についてなどが上位に挙げられている。一方、介助を必要としているグループでは、心配ごととして最も高い割合を占めたのは「同居者(子ども)が病気になったり介護が必要となること」で 75.1% にのぼり、「自分が病気になったり介護が必要となること」の 56.6% を上回る結果となった。さらに、「頼れる人がいなくなること」を心配ごととして挙げる人の割合は 43.4% で、介助を必要としないグループの 24.4% に比べて高い。現状として、親自身が一部またはすべてに介助を必要としているなかで、同居する子どもが支援者としては大きな存在であり、その健康が害されることや、頼れなくなってしまうことへの不安が大きいことがうかがえる。

そのほか、「生活のための収入のこと」を心配ごととして挙げる人の割合は、介助を必要としていないグループでは 26.5%であったのに対し、介助を必要とするグループでは 30.2%でやや高い割合を示した。

表6－18 親の介助の有無×親の将来の不安・心配ごと（複数回答）

|                            | 介助を必要としていない |        | 介助を必要としている |        |
|----------------------------|-------------|--------|------------|--------|
|                            | 実数          | %      | 実数         | %      |
| 自分が病気になったり介護が必要となること       | 223         | 78.8%  | 107        | 56.6%  |
| 同居者（子ども）が病気になったり介護が必要となること | 153         | 54.1%  | 142        | 75.1%  |
| 頼れる人がいなくなる                 | 69          | 24.4%  | 82         | 43.4%  |
| 生活のための収入のこと                | 75          | 26.5%  | 57         | 30.2%  |
| 財産の管理や相続のこと                | 27          | 9.5%   | 29         | 15.3%  |
| 子どもや孫などの将来                 | 60          | 21.2%  | 46         | 24.3%  |
| 親戚づきあいのこと                  | 9           | 3.2%   | 11         | 5.8%   |
| 近所づきあいのこと                  | 2           | 0.7%   | 6          | 3.2%   |
| 友人とのつきあいのこと                | 5           | 1.8%   | 7          | 3.7%   |
| 詐欺などの犯罪に巻き込まれること           | 36          | 12.7%  | 28         | 14.8%  |
| 大震災などの災害                   | 185         | 65.4%  | 104        | 55.0%  |
| その他                        | 8           | 2.8%   | 3          | 1.6%   |
| とくに不安・心配に思っていることはない        | 15          | 5.3%   | 8          | 4.2%   |
| 合計                         | 283         | 100.0% | 189        | 100.0% |

では、子どもが抱える将来の生活への不安や心配ごとの内容はどうであろうか。表 6-19 は、子どもの心配ごとの内容について、親の介助の有無別に集計したものである。親が介助を必要としない場合、子どもの心配ごととして最も高い割合を占めたのは「同居者（親）が病気になったり介護が必要となること」で、73.9%を占め、次いで「自分が病気になったり介護が必要となること」が 68.0%であった。親が介助を必要としているグループでは、最も割合が高いのは「自分が病気になったり介護が必要となること」で 85.8%にのぼり、「同居者（親）が病気になったり介護が必要となること」は 61.9%であった。親が介助を必要としている世帯では、子どもが生活を支え、切り盛りする柱になっており、自分の健康状態が崩れたときの不安感が強いのではないかと考えられる。また、「頼れる人がいなくなる」については、親が介助を必要としないグループでは 25.7%、介助を必要としているグループでは 36.0%であった。この場合の「頼れる人」が誰を指しているのかまでは尋ねていないが、親が介助を必要とするグループでは、頼れる人がいなくなってしまうことへの不安がやや強く表れていることがわかった。

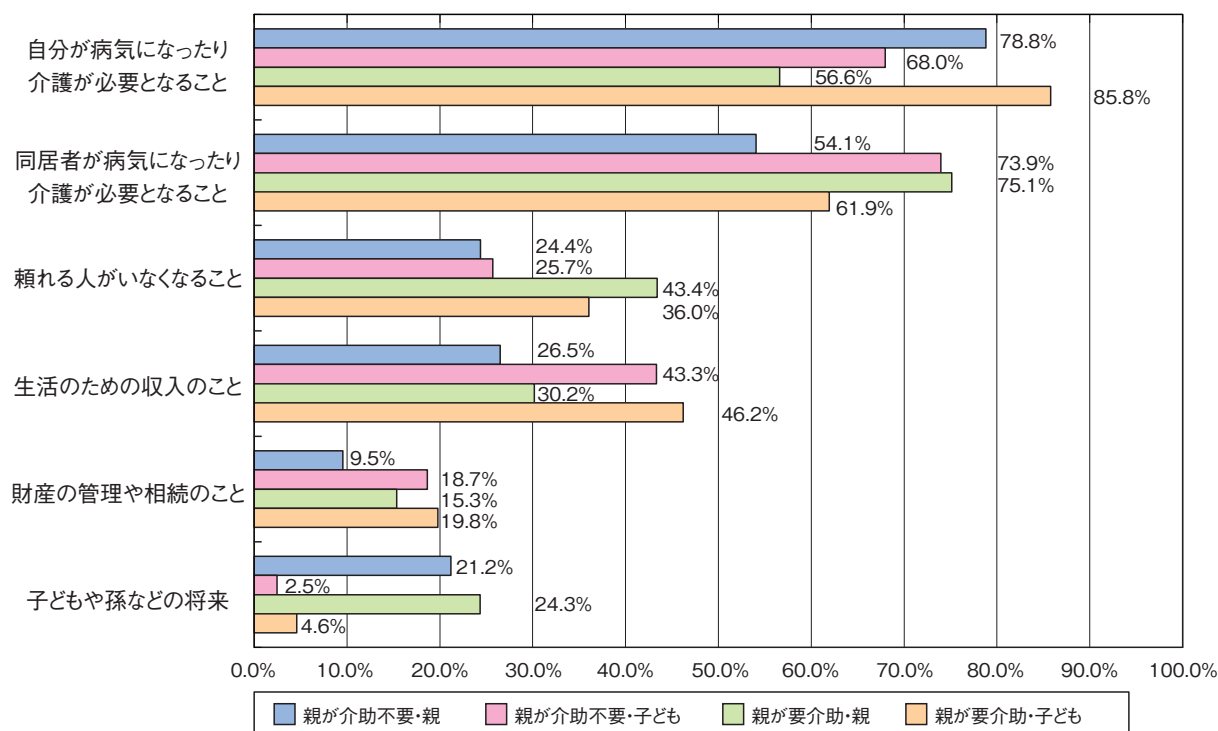
また、「生活のための収入について」の心配は、親が介助を必要としているグループでも、そうでないグループでも、ともに 4 割を超えて、全体的に親よりも不安に思っている人の割合が高いことがわかった。

表6－19 親の介助の有無×子どもの将来の不安・心配ごと(複数回答)

|                          | 介助を必要としていない |        | 介助を必要としている |        |
|--------------------------|-------------|--------|------------|--------|
|                          | 実数          | %      | 実数         | %      |
| 自分が病気になったり介護が必要となること     | 193         | 68.0%  | 169        | 85.8%  |
| 同居者（親）が病気になったり介護が必要となること | 210         | 73.9%  | 122        | 61.9%  |
| 頼れる人がいなくなる               | 73          | 25.7%  | 71         | 36.0%  |
| 生活のための収入のこと              | 123         | 43.3%  | 91         | 46.2%  |
| 財産の管理や相続のこと              | 53          | 18.7%  | 39         | 19.8%  |
| 子どもや孫などの将来               | 7           | 2.5%   | 9          | 4.6%   |
| 親戚づきあいのこと                | 21          | 7.4%   | 13         | 6.6%   |
| 近所づきあいのこと                | 13          | 4.6%   | 9          | 4.6%   |
| 友人とのつきあいのこと              | 13          | 4.6%   | 5          | 2.5%   |
| 詐欺などの犯罪に巻き込まれること         | 24          | 8.5%   | 26         | 13.2%  |
| 大震災などの災害                 | 183         | 64.4%  | 112        | 56.9%  |
| その他                      | 4           | 1.4%   | 6          | 3.0%   |
| とくに不安・心配に思っていることはない      | 20          | 7.0%   | 6          | 3.0%   |
| 合計                       | 284         | 100.0% | 197        | 100.0% |

これらの心配ごとのうち、割合の高かったものを抜粋し、親子の比較ができるように図示したものが図 6-38 である。このグラフから、現在介助を必要としていない世帯では、親世代の健康を心配する人の割合が高いことがまず見て取れる。先述のとおり、介助を必要としていない親は、「自分が病気になったり介護が必要となること」を心配する人の割合が高く（78.8%）、その世帯の子どもは、「同居者（＝親）が病気になったり介護が必要となること」を心配している人の割合が高い（73.9%）。親世代の健康・介護への不安感の表れでもあろう。現在、親が介助を必要としている世帯の場合には、親世代ではなく、子どもへの心配が多く挙げられている。介助を必要とする親は、「同居者（＝子ども）が病気になったり介護が必要になること」を心配している人の割合が 75.1%で、その子どもは、85.8%が「自分が病気になったり介護が必要になること」を心配している。親がなんらかの介助を必要としている世帯では、おそらくはその生活を支える中心となっているであろう子ども世代が、健康を害することへの不安感が強いのではないかと考えられる。

図6－38 親の介助の必要有無×親子の将来の不安や心配ごと（複数回答・抜粋）





ほか、親が介助を必要とする世帯では、介助を必要としない世帯に比べて、親子どちらも、「頼れる人がいなくなること」への不安が高いことがわかった。

一方、親の介助の有無にかかわらず、親は「子どもや孫などの将来」を心配する人の割合が2割程度であった。また、子どもは、「生活のための収入のこと」や「財産の管理や相続のこと」については、親の介助の有無に関係なく、一定の割合で心配ごととして挙げていた。とくに「生活のための収入について」を心配ごととして挙げている子どもは4割から4割半程度であり、親よりも高かった。

### 3 親子世帯の生活状況の分類－因子分析とクラスタ分析

親子世帯の生活状況をさらに詳細に分析していくため、多変量解析による分析を行い、世帯の特徴から5つのグループに分け、その特徴をとらえた。

#### (1) 親子世帯の生活状況－因子分析・因子得点

親子世帯について、探索的因子分析(最尤法、プロマックス回転を採用)を行った。因子分析に用いた変数は、親子それぞれに分類しなおした18の項目である(表6-20)。これらは、親子世帯の生活状況を、経済面、人間関係、不安やストレスといった心理面からとらえたいと考え、採用したものである。

その結果を見てみよう。表6-21は親子世帯の因子分析のパターン行列を、表6-22は親子世帯の因子分析の構造行列を示している。この分析により、5つの因子を抽出することができた。変数の構成から、第1因子を「親の生活の充実」、第2因子を「子どもの生活の充実」、第3因子を「経済状況への安心」、第4因子を「世帯の近所づきあい」、第5因子を「世帯の不安やストレスの少なさ」と解釈した。

表6-20 親子世帯の因子分析に用いた項目

|    | 質問項目(親と子に分類)        | 世帯主     | 同居者     |
|----|---------------------|---------|---------|
| 1  | 【親】近所づきあいの程度        | 問23     | 問13     |
| 2  | 【子】近所づきあいの程度        | 問23     | 問13     |
| 3  | 【親】今のくらしには張り合いがある   | 問33(1)  | 問21(1)  |
| 4  | 【子ども】今のくらしには張り合いがある | 問33(1)  | 問21(1)  |
| 5  | 【親】今のくらしにはストレスが多い   | 問33(2)  | 問21(2)  |
| 6  | 【子ども】今のくらしにはストレスが多い | 問33(2)  | 問21(2)  |
| 7  | 【親】生活は充実している        | 問33(3)  | 問21(3)  |
| 8  | 【子ども】生活は充実している      | 問33(3)  | 問21(3)  |
| 9  | 【親】生活していて不安や心配がある   | 問33(4)  | 問21(4)  |
| 10 | 【子ども】生活していて不安や心配がある | 問33(4)  | 問21(4)  |
| 11 | 【親】友人との関係に満足している    | 問33(6)  | 問21(6)  |
| 12 | 【子ども】友人との関係に満足している  | 問33(6)  | 問21(6)  |
| 13 | 【親】近所づきあいに満足している    | 問33(7)  | 問21(7)  |
| 14 | 【子ども】近所づきあいに満足している  | 問33(7)  | 問21(7)  |
| 15 | 【親】将来の生活は安心できる      | 問33(10) | 問21(10) |
| 16 | 【子ども】将来の生活は安心できる    | 問33(10) | 問21(10) |
| 17 | 年間収入                | 問34     |         |
| 18 | 経済状況の感じ方            | 問37     |         |



表6－21 親子世帯の因子分析 パターン行列

|                     | 因子    |       |        |        |       |
|---------------------|-------|-------|--------|--------|-------|
|                     | 1     | 2     | 3      | 4      | 5     |
| 【親】今の暮らしには張り合いがある   | 0.933 |       |        | 0.385  |       |
| 【親】生活は充実している        | 0.739 |       |        |        |       |
| 【親】友人との関係に満足している    | 0.441 |       |        |        |       |
| 【子ども】今の暮らしには張り合いがある |       | 0.881 |        |        |       |
| 【子ども】生活は充実している      |       | 0.762 |        |        |       |
| 【子ども】友人との関係に満足している  |       | 0.358 |        |        |       |
| 経済状況の感じ方            |       |       | -0.843 |        |       |
| 年間収入                |       |       | 0.619  |        |       |
| 【親】将来の生活は安心できる      | 0.397 |       | 0.460  |        |       |
| 【子ども】将来の生活は安心できる    |       | 0.316 | 0.451  |        |       |
| 【親】近所づきあいに満足している    |       |       |        | 0.747  |       |
| 【親】近所づきあいの程度        |       |       |        | -0.653 |       |
| 【子ども】近所づきあいの程度      |       |       |        | -0.573 |       |
| 【子ども】近所づきあいに満足している  |       |       |        | 0.434  |       |
| 【親】今の暮らしにはストレスが多い   |       |       | -0.302 |        | 0.705 |
| 【親】生活していて不安や心配がある   |       |       |        |        | 0.583 |
| 【子ども】今の暮らしにはストレスが多い |       |       |        |        | 0.565 |
| 【子ども】生活していて不安や心配がある |       |       |        |        | 0.485 |

因子抽出法：最尤法 回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法 0.3 以下の値は非表示

表6－22 親子世帯の因子分析 構造行列

|                     | 因子     |        |        |        |        |
|---------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
|                     | 1      | 2      | 3      | 4      | 5      |
| 【親】今の暮らしには張り合いがある   | 0.893  | 0.366  | 0.412  | 0.514  | 0.427  |
| 【親】生活は充実している        | 0.798  | 0.357  | 0.452  |        | 0.469  |
| 【親】友人との関係に満足している    | 0.532  |        |        |        |        |
| 【子ども】今の暮らしには張り合いがある | 0.372  | 0.874  | 0.507  |        | 0.374  |
| 【子ども】生活は充実している      | 0.440  | 0.865  | 0.602  |        | 0.441  |
| 【子ども】友人との関係に満足している  |        | 0.382  |        |        |        |
| 経済状況の感じ方            | -0.373 | -0.405 | -0.793 |        | -0.362 |
| 【親】将来の生活は安心できる      | 0.687  | 0.389  | 0.694  |        | 0.576  |
| 【子ども】将来の生活は安心できる    | 0.347  | 0.620  | 0.676  |        | 0.490  |
| 年間収入                |        |        | 0.541  |        |        |
| 【親】近所づきあいに満足している    | 0.431  |        |        | 0.808  |        |
| 【親】近所づきあいの程度        |        |        |        | -0.630 |        |
| 【子】近所づきあいの程度        |        |        |        | -0.526 |        |
| 【子ども】近所づきあいに満足している  |        | 0.387  |        | 0.484  |        |
| 【親】生活していて不安や心配がある   | 0.522  |        | 0.437  |        | 0.682  |
| 【親】今の暮らしにはストレスが多い   | 0.438  |        |        |        | 0.666  |
| 【子ども】今の暮らしにはストレスが多い |        | 0.320  |        |        | 0.543  |
| 【子ども】生活していて不安や心配がある |        | 0.310  | 0.350  |        | 0.489  |

因子抽出法：最尤法 回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法 0.3 以下の値は非表示

この因子分析で得られた結果を得点化し、その得点の平均値を、生活の諸条件別に集計した。

まず、仕事の有無別に見てみよう。親は 8 割が仕事をしていないが、子どもの場合には、およそ 6 割半程度が仕事をしている。表 6-23 は、親の仕事の有無別に、親子世帯の因子得点の平均値を集計したものである。

因子分析の対象となった 335 ケース中、親が仕事をしているのは 63 ケース、仕事をしていないのは 272 ケースであった。親が仕事をしている場合、「親の生活の充実」の因子得点の平均値は 0.421 で、仕事をしていない場合の -0.104 に比べて高い。そのほかにも、「経済状況への安心」や「近所づきあいへの満足」、「不安・ストレスの少なさ」については、親が仕事をしているグループの方が、仕事をしていないグループよりも高かった。「子どもの生活の充実」については、親が仕事をしている

グループの平均値は -0.008、親が仕事をしていないグループの平均値は 0.001 で、ほとんど差がなかった。親の仕事の有無は、子どもの生活の充実度合いにはさほど影響を与えていないと考えられる。

表6－23 親の仕事の有無別 各因子得点の平均値

|                 | 親の<br>生活の充実 | 子どもの<br>生活の充実 | 経済状況への<br>安心 | 近所づきあいへの<br>満足 | 不安・ストレスの<br>少なさ |
|-----------------|-------------|---------------|--------------|----------------|-----------------|
| 仕事をしている【n=63】   | 0.421       | -0.008        | 0.284        | 0.096          | 0.140           |
| 仕事をしていない【n=272】 | -0.104      | 0.001         | -0.070       | -0.033         | -0.049          |
| 合計【n=335】       | -0.006      | -0.001        | -0.003       | -0.008         | -0.013          |

※無回答は集計から除く。

次に、子どもの仕事の有無別に親子世帯の因子得点の平均値を集計した(表 6-24)。分析対象となった 338 ケース中、仕事をしている子どもは 236 ケース、仕事をしていない子どもは 102 ケースであった。子どもが仕事をしている場合には、「近所づきあいへの満足」の因子得点の平均値が -0.030 で、仕事をしていない場合に比べて低かったほかは、すべての因子得点の平均値は、子どもが仕事をしているグループの方が高かった。

表6－24 子どもの仕事の有無別 各因子得点の平均値

|                 | 親の<br>生活の充実 | 子どもの<br>生活の充実 | 経済状況への<br>安心 | 近所づきあいへの<br>満足 | 不安・ストレスの<br>少なさ |
|-----------------|-------------|---------------|--------------|----------------|-----------------|
| 仕事をしている【n=236】  | 0.039       | 0.123         | 0.066        | -0.030         | 0.003           |
| 仕事をしていない【n=102】 | -0.107      | -0.286        | -0.190       | 0.076          | -0.029          |
| 合計【n=338】       | -0.005      | 0.000         | -0.011       | 0.002          | -0.007          |

※無回答は集計から除く。

表 6-25 は、親の介助の必要の有無別に見た各因子得点の平均値である。親が介助を必要とする世帯では、介助を必要としていない世帯に比べて、すべての因子得点の平均値が低くなっている。とくにその差が大きいのは、「親の生活の充実」と「不安・ストレスの少なさ」である。「親の生活の充実」の因子得点の平均値は、親が介助を必要としないグループでは 0.267 と高く、親が介助を必要としているグループでは -0.370 と低かった。親が何らかの介助を必要としていると、親自身の生活の充実感は弱くなってしまう。また、親の介助の有無は、子どもの生活の充実感にも影響があり、親が介助を必要としていないグループでは、「子どもの生活の充実」の因子得点の平均値は 0.092 であったのに対して、親が介助を必要としているグループでは -0.106 と低くなっていた。

「不安・ストレス」の因子は、親子世帯全体で、不安やストレスを感じているかどうかを示す因子であるが、この因子得点の平均値についても、親が介助を必要としている場合には -0.250 と低く、親が介助を必要としない場合の 0.171 との差が開いている。親が介助を必要とすることによって、親子世帯では不安やストレスを感じやすくなることがわかる。

表6－25 親の介助の必要有無別 各因子得点の平均値

|                  | 親の<br>生活の充実 | 子どもの<br>生活の充実 | 経済状況への<br>安心 | 近所づきあいへの<br>満足 | 不安・ストレスの<br>少なさ |
|------------------|-------------|---------------|--------------|----------------|-----------------|
| 介助を必要としない【n=201】 | 0.267       | 0.092         | 0.116        | 0.086          | 0.171           |
| 介助を必要とする【n=139】  | -0.370      | -0.106        | -0.153       | -0.112         | -0.250          |
| 合計【n=340】        | 0.007       | 0.011         | 0.006        | 0.005          | -0.001          |

※無回答は集計から除く。

表 6-26 は、住宅の種類別に見た各因子得点の平均値である。「親の生活の充実」と「子どもの生活の充実」の得点の平均値が最も高かったのは、「持ち家」で、「親の生活の充実」が 0.093、「子どもの生活の充実」が 0.103 であった。一方、最も平均値が低かったのは「都営・区営住宅」で、「親の生活の充実」が -0.302、「子どもの生活の充実」が -0.324 であった。また、「持ち家」は「経済状況への安心」が他の住宅種類よりも高く 0.226、「不安・ストレスの少なさ」も比較的高く、0.091 であった。

「民間賃貸・公的賃貸（UR 等）住宅」は、すべての因子得点の平均値が低めであった。他の住宅種類に比べてもっとも低かったのは、「近所づきあいへの満足」で、-0.066 であった。

「都営・区営住宅」は、「近所づきあいへの満足」が 0.112 で最も高かった。しかし、そのほかの因子得点の平均値は、4 つの住宅種類のなかで最も低い数値を示した。

これらのことから、持ち家に住む親子世帯は、近所づきあいへの満足感がやや低いものの、全体的に因子得点が高く、生活が充実し、経済状況への安心感があり、不安やストレスが少ないといえる。一方で、「都営・区営住宅」に住む親子世帯は、近所づきあいへの満足感が高いものの、生活の充実感や経済状況への安心感に乏しく、不安やストレスを感じやすい傾向にある。また、「民間賃貸・公的賃貸（UR 等）住宅」に住む親子世帯は、「都営・区営住宅」に住む世帯ほどではないにしても、生活への充実感や経済状況への安心感が少なく、不安やストレスを感じやすい傾向にあり、加えて、近所づきあいへの満足感も薄い傾向にあることがわかる。

表6－26 住宅種類別 各因子得点の平均値

|                         | 親の<br>生活の充実 | 子どもの<br>生活の充実 | 経済状況への<br>安心 | 近所づきあいへの<br>満足 | 不安・ストレスの<br>少なさ |
|-------------------------|-------------|---------------|--------------|----------------|-----------------|
| 持ち家【n=225】              | 0.093       | 0.103         | 0.226        | -0.012         | 0.091           |
| 民間賃貸・公的賃貸（UR 等）住宅【n=33】 | -0.121      | -0.025        | -0.470       | -0.066         | -0.105          |
| 都営・区営住宅【n=70】           | -0.302      | -0.324        | -0.550       | 0.112          | -0.297          |
| その他【n=19】               | 0.183       | 0.016         | 0.133        | -0.159         | 0.169           |
| 合計【n=347】               | -0.002      | 0.000         | -0.002       | 0.000          | -0.001          |

※無回答は集計から除く。

## (2) 親子世帯の生活状況の分類－クラスタ分析

次に、(1) で得られた因子得点を用いて、非階層的クラスタ分析（K-means 法）によって親子世帯の生活状況の分類を行った（有効ケース数 348 ケース）。それにより、5 つのクラスタに分類した。クラスタごとのケース数と因子得点の平均値を集計したものが表 6-27、それをグラフ化したものが図 6-39 である。

表6－27 【親子】各クラスタのケース数と因子得点の平均値

|                    | クラスタ 1 | クラスタ 2 | クラスタ 3 | クラスタ 4 | クラスタ 5 | 合計     |
|--------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| ケース数               | 57     | 65     | 86     | 68     | 72     | 348    |
| %                  | 16.4%  | 18.7%  | 24.7%  | 19.5%  | 20.7%  | 100.0% |
| 第 1 因子 親の生活の充実     | 0.168  | -1.254 | 0.850  | -0.393 | 0.355  | 0.000  |
| 第 2 因子 子どもの生活の充実   | -0.892 | -0.941 | 0.837  | 0.410  | 0.169  | 0.000  |
| 第 3 因子 経済状況への安心    | -0.677 | -1.029 | 0.781  | -0.039 | 0.568  | 0.000  |
| 第 4 因子 近所づきあいへの満足  | 0.412  | -0.763 | 0.738  | 0.245  | -0.750 | 0.000  |
| 第 5 因子 不安・ストレスの少なさ | -0.381 | -0.940 | 0.854  | -0.381 | 0.491  | 0.000  |

クラスタ 1（57 ケース）は、「親の生活の充実」（0.168）と「近所づきあいへの満足」（0.412）は高いが、「子どもの生活の充実」（-0.892）、「経済状況への安心」（-0.677）、「不安・ストレスの少な

さ」(-0.381)が低い。親は生活への充実感があり、近所づきあいへの満足感も高いが、子どもの生活の充実感に乏しく、経済状況への不安があるグループである。

クラスタ2(65 ケース)は、すべての因子得点の平均値が低く、親子ともに生活への充実感がなく、不安やストレスを感じている不安定なグループである。

クラスタ3(86 ケース)は、すべての因子得点の平均値が高く、安定しているグループである。

クラスタ4(68 ケース)は、「子どもの生活の充実」(0.410)と「近所づきあいへの満足」(0.245)は高いが、「親の生活の充実」(-0.393)や「不安・ストレスの少なさ」(-0.381)が低く、「経済状況への安心」(-0.039)が全体の平均値に近い数値を示している。子どもの生活は比較的充実しており、近所づきあいへの満足感もあるが、親の生活の充実感がやや低く、不安やストレスを感じているグループである。

クラスタ5(72 ケース)は、「親の生活の充実」(0.355)、「子どもの生活の充実」(0.169)、「経済状況への安心」(0.568)、「不安・ストレスの少なさ」(0.491)が高く、「近所づきあいへの満足」のみが-0.750と大幅に低い。近所づきあい以外は安定しているグループである。

これら5つのクラスタを表にまとめた(表6-28)。また、各クラスタの特徴をそれぞれレーダーグラフで示したものが図6-40である。

図6-39 各クラスタごとの因子得点の平均値(グラフ)

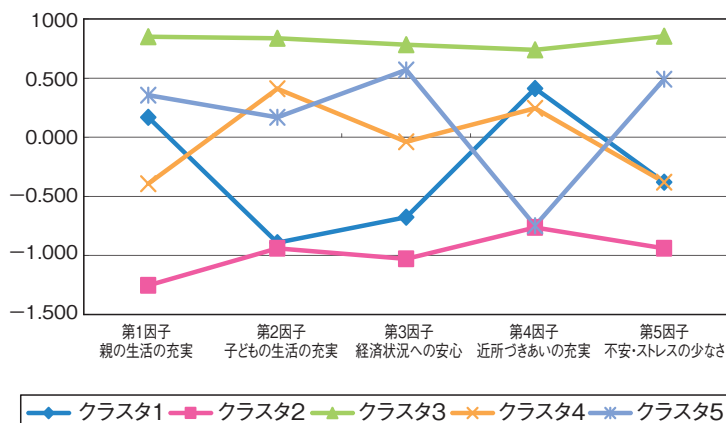
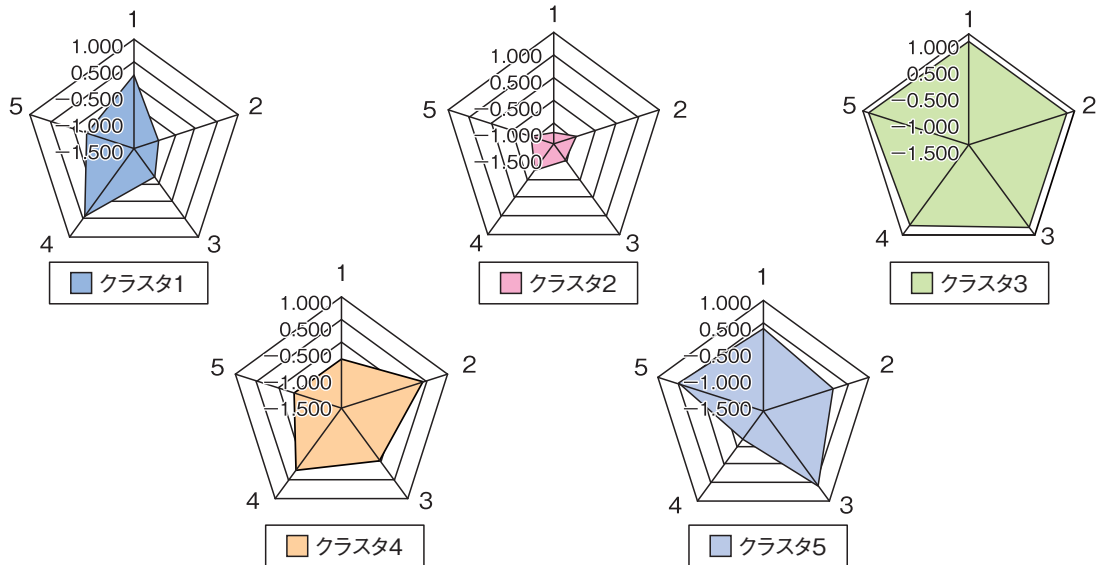


表6－28 各クラスタの特徴

|        |                                         |
|--------|-----------------------------------------|
| クラスタ 1 | 親の生活への充実感が高いが、子どもの生活への充実感が低く、経済的に不安定    |
| クラスタ 2 | 親子ともに生活への充実感なく、不安やストレスがある               |
| クラスタ 3 | 親子ともに生活への充実感があり、安定している                  |
| クラスタ 4 | 子どもの生活への充実感が高いが、親の生活への充実感が低く、不安やストレスがある |
| クラスタ 5 | 親子ともに生活への充実感が高く、経済的にも安定しているが、近所づきあいが薄い  |

図6－40 親子世帯各クラスタの特徴とグループ（レーダーグラフ）



|   |            |   |             |
|---|------------|---|-------------|
| 1 | 親の生活の充実感   | 4 | 近所づきあいへの満足  |
| 2 | 子どもの生活の充実感 | 5 | 不安・ストレスの少なさ |
| 3 | 経済状況への安心感  |   |             |

これら5つのクラスタの特徴を、クロス集計により見ていく。

まずは、仕事についてである。表 6-29 は、クラスタ別に親の仕事の有無の分布を見たものである。親の生活の充実感が高いクラスタ 1 とクラスタ 3 は、親自身が現在も仕事をしている人の数が多い。クラスタ 1 では 55 人中 15 人が、クラスタ 3 では 82 人中 21 人が現在も仕事をしていると回答している。クラスタ 5 も、親の生活の充実感が高いクラスタであり、クラスタ 1、クラスタ 3 と比べるとやや少ないものの、69 人中 13 人が、仕事をしていると回答している。一方、親の生活の充実感が低いクラスタ 2、クラスタ 4 では、仕事をしていない親が圧倒的多数を占めていた。

なお、子どもの仕事の有無については、クラスタ間の違いは認められなかった(付表 2)。

表6－29 親子世帯クラスタ別 親の仕事の有無

|          | クラスタ 1 |        | クラスタ 2 |        | クラスタ 3 |        | クラスタ 4 |        | クラスタ 5 |        |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|          | 実数     | %      | 実数     | %      | 実数     | %      | 実数     | %      | 実数     | %      |
| 仕事をしている  | 15     | 27.3%  | 6      | 9.5%   | 21     | 25.6%  | 8      | 12.1%  | 13     | 18.8%  |
| 仕事はしていない | 40     | 72.7%  | 57     | 90.5%  | 61     | 74.4%  | 58     | 87.9%  | 56     | 81.2%  |
| 合計       | 55     | 100.0% | 63     | 100.0% | 82     | 100.0% | 66     | 100.0% | 69     | 100.0% |

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=10.554$  自由度 4  $p=0.032^*$  \*  $p<0.05$

次に、親の介助の有無について見てみよう。表 6-30 は、クラスタ別に親の介助の必要性の有無を集計したものである。

親の生活の充実感が高いクラスタ 1、クラスタ 3、クラスタ 5 では、介助を必要としていない親の方



が多い。クラスタ1では、介助を必要としない親は55ケース中35人、クラスタ3では85ケース中66人、クラスタ5では、69ケース中44人である。しかし、親の生活の充実感が低いクラスタ2とクラスタ4では、介助を必要としている世帯がそれぞれ半分を超えている。

表6－30 親子世帯クラスタ別 親の介助の必要の有無

|             | クラスタ1 |        | クラスタ2 |        | クラスタ3 |        | クラスタ4 |        | クラスタ5 |        |
|-------------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|
|             | 実数    | %      | 実数    | %      | 実数    | %      | 実数    | %      | 実数    | %      |
| 介助を必要としていない | 35    | 63.6%  | 26    | 41.3%  | 66    | 77.6%  | 30    | 44.1%  | 44    | 63.8%  |
| 介助を必要としている  | 20    | 36.4%  | 37    | 58.7%  | 19    | 22.4%  | 38    | 55.9%  | 25    | 36.2%  |
| 合計          | 55    | 100.0% | 63    | 100.0% | 85    | 100.0% | 68    | 100.0% | 69    | 100.0% |

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=27.791$  自由度 4  $p=0.000^*$  \*  $p<0.05$

表 6-31 は、住宅の種類をクラスタ別に集計したものである。

「持ち家・その他」(その他には、持ちビルの一室などが含まれる)に住む世帯が多いのは、クラスタ3、クラスタ5である。クラスタ3は86ケース中66世帯が「持ち家・その他」に居住している。クラスタ3はすべての因子得点が高く、生活が充実し、安定したグループであり、その居住形態についても、安定していることがうかがえる。また、クラスタ5は、71ケース中61世帯が「持ち家・その他」に住む世帯で、8割半程度を占めている。割合としては5つのクラスタの中で最も高い。クラスタ5は、クラスタ3のように全体的に生活が安定していることのほかに、近所づきあいへの満足感が低いという特徴をもつ。クラスタ5に属する世帯は、持ち家に住む世帯が多いが、近所づきあいは疎遠な傾向にあると考えられる。

「都営・区営住宅」に住む世帯が多いのは、クラスタ1とクラスタ2である。クラスタ1は、57ケース中21世帯、およそ3割半が「都営・区営住宅」に居住している。クラスタ2は、65ケース中18世帯、およそ3割弱が「都営・区営住宅」に居住している。クラスタ1とクラスタ2は、経済状況への安心感が低く、また、子どもの生活の充実感に乏しいことが共通した特徴として挙げられる。

クラスタ4は、「持ち家・その他」が68ケース中46世帯で、5つのクラスタの中で3番目に高い。一方、「民間賃貸・公的賃貸(UR等)住宅」に住む人が9世帯、「都営・区営住宅」に住む人が13ケースで、やや「都営・区営住宅」が多いものの、両者の間に大きな差が見られなかった。

表6－31 親子世帯クラスタ別 住宅の種類

|                  | クラスタ1 |        | クラスタ2 |        | クラスタ3 |        | クラスタ4 |        | クラスタ5 |        |
|------------------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|
|                  | 実数    | %      | 実数    | %      | 実数    | %      | 実数    | %      | 実数    | %      |
| 持ち家・その他          | 31    | 54.4%  | 40    | 61.5%  | 66    | 76.7%  | 46    | 67.6%  | 61    | 85.9%  |
| 民間賃貸・公的賃貸(UR等)住宅 | 5     | 8.8%   | 7     | 10.8%  | 7     | 8.1%   | 9     | 13.2%  | 5     | 7.0%   |
| 都営・区営住宅          | 21    | 36.8%  | 18    | 27.7%  | 13    | 15.1%  | 13    | 19.1%  | 5     | 7.0%   |
| 合計               | 57    | 100.0% | 65    | 100.0% | 86    | 100.0% | 68    | 100.0% | 71    | 100.0% |

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=24.427$  自由度 8  $p=0.002^*$  \*  $p<0.05$

表 6-32 は、クラスタ別に緊急時の支援者の有無を集計したものである。病気やけがなどをして誰かの手助けを必要とする場合に、すぐにつけてくれる人、すなわち緊急時の支援者がいない世帯が多いのは、クラスタ2とクラスタ4であった。クラスタ2は、すべての因子得点の平均値が低く、親子ともに生活に充実感がなく、経済状況への安心感にも乏しい不安定なグループである。このグループでは、65ケース中20世帯が「緊急時の支援者がいない」と回答しており、およそ3割にのぼった。

クラスタ4は、全体的には中庸であるが、親の生活の充実感が低く、不安やストレスが多いグループである。このグループでは、67 ケース中 17 世帯、およそ 4 分の 1 が、緊急時の支援者がいないと回答している。

表 6-30 で見たように、クラスタ2とクラスタ4は、どちらも親が介助を必要としている世帯が多い。このようなグループで、しかも緊急時の支援者がいない世帯が多いことは、注目する必要があるだろう。

表6－32 親子世帯クラスタ別 緊急時の支援者の有無

|         | クラスタ1 |        | クラスタ2 |        | クラスタ3 |        | クラスタ4 |        | クラスタ5 |        |
|---------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|
|         | 実数    | %      | 実数    | %      | 実数    | %      | 実数    | %      | 実数    | %      |
| 支援者がいる  | 48    | 85.7%  | 45    | 69.2%  | 74    | 86.0%  | 50    | 74.6%  | 62    | 87.3%  |
| 支援者はいない | 8     | 14.3%  | 20    | 30.8%  | 12    | 14.0%  | 17    | 25.4%  | 9     | 12.7%  |
| 合計      | 56    | 100.0% | 65    | 100.0% | 86    | 100.0% | 67    | 100.0% | 71    | 100.0% |

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=11.630$  自由度 4  $p=0.020^*$  \*  $p<0.05$

ところで、緊急時の支援者は家族や近しい親族であることが多いが、普段から家族や親族との行き来があるかどうかについて、クラスタ別に集計したものが表 6-33 である。緊急時支援者がいない世帯の多いクラスタ2とクラスタ4について見てみよう。クラスタ4は、「誰ともほとんど行き来がない」と回答した世帯が 67 ケース中 11 世帯で、クラスタ1やクラスタ3よりはやや多い結果であった。クラスタ5とはあまり変わらない程度である。クラスタ5は、近所づきあいへの満足感だけが突出して低いグループであり、近所づきあいだけでなく、家族や親族とも行き来をしない人がやや多いことがわかる。

クラスタ2は、65 ケース中 18 世帯、3 割弱程度が「誰ともほとんど行き来がない」と回答しており、他のクラスタに比べても割合が高かった。

表6－33 親子世帯クラスタ別 家族・親族との行き来

|               | クラスタ1 |        | クラスタ2 |        | クラスタ3 |        | クラスタ4 |        | クラスタ5 |        |
|---------------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|
|               | 実数    | %      | 実数    | %      | 実数    | %      | 実数    | %      | 実数    | %      |
| 行き来がある        | 52    | 91.2%  | 47    | 72.3%  | 79    | 91.9%  | 56    | 83.6%  | 59    | 85.5%  |
| 誰ともほとんど行き来がない | 5     | 8.8%   | 18    | 27.7%  | 7     | 8.1%   | 11    | 16.4%  | 10    | 14.5%  |
| 合計            | 56    | 100.0% | 65    | 100.0% | 86    | 100.0% | 67    | 100.0% | 71    | 100.0% |

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=13.361$  自由度 4  $p=0.010^*$  \*  $p<0.05$

## Ⅶ 自由回答

### 1 区への要望や生活についての自由意見

#### (1) 内容について

世帯主、同居者それぞれの調査票の最後に、区に対する意見や生活での困りごとを自由に記入する欄（問「区に対するご意見や、あなたの生活でお困りのことがあれば何でもご自由に記入して下さい。」）を設けた。この自由記述の回答者数は、世帯主が593人で22.1%、同居者が521人で19.4%であった。

#### (2) 世帯主の自由意見について

##### ア 分類

世帯主の自由意見を分類した項目とケース数は表7-1のとおりである。なお、回答者は593人であるが、1人の回答が複数の分類でカウントされている場合もあるため、ケース数の合計と回答者数は一致しない。

表7-1 自由記述の分類項目とケース数

| 分類項目       | ケース数 | 分類項目         | ケース数 |
|------------|------|--------------|------|
| 行政サービス・区施設 | 141  | 災害           | 32   |
| 税金・保険料・年金  | 99   | 居住環境         | 27   |
| 住宅・介護施設    | 81   | 地域コミュニティ     | 24   |
| 健康・病状・医療費  | 76   | 買い物          | 22   |
| 感謝・満足      | 75   | 交通機関（ちいばす以外） | 13   |
| まちづくり      | 63   | 障害           | 11   |
| 介護         | 46   | その他          | 106  |
| ちいばす       | 35   |              |      |

##### イ 具体的な内容（抜粋）

各項目ごとに、代表的な自由意見をいくつか抜粋して掲載する。なお、極力、回答者が記述した原文のまま記載している。

#### ■行政サービス・区施設に関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                                 |
|----|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 男性 | 75 | 今のところ行政サービス（介護など）を必要としていないので情報を得ることに怠けているが、よく調べれば区はいろいろと考えてくれているのだろうと思っている。（みなと区便り）のようなものは怠け者はよく見ないので、サルでもわかるような情報サービスのやり方を考えてほしい。 |
| 男性 | 78 | 行政サービスに関しては高齢者（元気な）にとっては十分に過ぎるかな…と考えます。                                                                                            |
| 男性 | 77 | 図書館の書籍購入について、もっと厳選して欲しい。「購入希望調査」などでもして欲しい。                                                                                         |
| 男性 | 80 | 区役所の窓口担当で、担当業務に関する必要専門知識に欠ける担当者が少なくない。訓練勉強を要する人がかなり（印象なので間違っているかもしれないが）。                                                           |
| 男性 | 78 | 災害発生の際区の支援体制の情報が不足しています。“広報”など災害版を頻繁に出して欲しいのですが                                                                                    |
| 男性 | 79 | 高齢者に対する港区のサービスがどのようなものがあるのか今のところほとんど知りません。                                                                                         |
| 男性 | 78 | 区役所は窓口等の相談は本館で受け付けてくれるから問題は無いのですが、サービス等の実施窓口がまちまちで、そちらからの連絡が無い限りどのようなことをして頂けるか、といったサービス内容は全くわかりません。                                |
| 男性 | 83 | 総じて港区の行政サービスには感謝しています。区のご補助を頂いてのスポーツ教室はとても役に立っています。昼間の学習講座（教養）がもっとあればいいなと思います。（夜は出にくいので）                                           |
| 男性 | 76 | 多様な福祉サービスを提供されていることに感謝します。更なる充実を願っています。                                                                                            |
| 女性 | 75 | 東京都シルバーパスは大変助っています遠まわり、時間がかかってもチーバス、都バス大江戸線等を特に利用させて頂いています。このサービスがなかったら、ほとんど家から外へ出掛けて行くことはないでしょう。有難く感謝します。                         |

## ■税金・保険料・年金に関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 男性 | 79 | 港区の税金（地方税、不動産税etc）は高いと思う。過剰な住民サービスをやめ、税金を減らして欲しい。                                                                                                                                                                                                                                          |
| 男性 | 82 | 港区に約25年間住み続けそれ相応の諸々の税金を納付して参りましたが港区民として港区の行政には大変満足させて頂いています。今後ともよろしくお願い致します。                                                                                                                                                                                                               |
| 男性 | 80 | 国民年金のみでは苦しい生活です。不況で仕事が減っていますが、少しの仕事でもあれば助っております。                                                                                                                                                                                                                                           |
| 男性 | 76 | 自宅が面している道路が私道ということで、道路整備雨水の処理、下水整備等基本的な生活のためのインフラがなされていない。都市計画税とか区民特別税とか私の生涯高額な税金ばかり獲られてその恩恵には少しもあずかって居ない。こんな不公平な事が在って良いはずはない。                                                                                                                                                             |
| 男性 | 78 | 社会保険料（介護保険料、後期高齢者保険料、国民健康保険）等年々高くなり非常に生活が苦しくなっている。これは困っていることの一部である。                                                                                                                                                                                                                        |
| 男性 | 79 | 都心に住んでいるから、土地評価の high に住んでいるからとして固定資産税が極めて高いのは納得がいかない。住民税も所得があるからとして、高額の税金を課す現状にも大変不満がある。上記については年令に応じた配慮があつて当然だと思う。                                                                                                                                                                        |
| 女性 | 56 | 最近疑問に思うのは、「ねんきん定期便」の通知の事です 60才から頂けるという年金額が、3～4回ぐらゐ来た年金の支給額が来るたびに減っている事です。真面目に働いて、年金も積んだにも関わらず、支給額が減っていくと、将来不安です！                                                                                                                                                                           |
| 男性 | 75 | 公的年金のみで生計している 年金は年毎に減額されており、反面保険料は見直しの度に増額されて生活費に占める割合が大きくなり苦しい生活を強いられる。一部負担金の割合 現役は経済状況にもよるが、大、小の差異はあるが毎年、右肩上りで収入が増加して行くが、年金受給者は右肩下りで収入が減少している。現役は収入（増）、年金者は収入（減）この様に正反対の状況が現状現役並みと同一と、見做すことは出来ない。同じ医療で保険料は個人単位で支払い一部負担金は世帯単位で支払っている。保険料と同じくして個人単位で支払うべきである。差別を強く感じるので後期高齢者医療制度は廃止すべきである。 |
| 男性 | 82 | 年金収入よりも固定資産税の方が高くて、生活費に困っています。                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 男性 | 79 | 後期高令者医療保険の負担が1割から2割になり驚いています。                                                                                                                                                                                                                                                              |

## ■住宅・介護施設に関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                        |
|----|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 男性 | 80 | 要介護の状況になった時には老人ホーム等の紹介斡旋等の相談に乗って欲しい。                                                                                      |
| 男性 | 80 | 現在住居のマンションが建て替え問題があり計画では2年後に転居しなければならない。転居先についてどうするかを悩んでいる。子供達との同居の住まいを考えるかこの際施設に入るか等考えている。                               |
| 男性 | 74 | 都営・区営等の住宅の申込を長い間やっていますが、いつも抽選外れです。区の高齢者用住宅御一考願います。“年寄りだから小さい家”という概念を変えて下さい                                                |
| 男性 | 76 | 家賃の安い所へ引越したい事。都営住宅へできれば入りたい。港区は家賃が高いので暮らしていくのはこれから先大変だと思っています。                                                            |
| 男性 | 88 | 高齢（88才）ですのでねたきりになったら港区の老人ホームに入りたいのですが、なかなか順番まちのようですので是非入れて戴きたい。主人が殆ど書けませんので私（妻）がすべて書きました。                                 |
| 女性 | 78 | 私は55才になる精神障害をもつ息子と同居しております。私が病気になって介護が必要となった時、この息子が一人で生活していくことが出来るのかを考えますと、とても心配になります。どうぞ一日も早い精神障害者の為のグループホームの建設をお願い致します。 |
| 男性 | 77 | 寝たきりになった時に公的施設で最後を迎えられるようにしてもらいたい。家族・同居人に迷惑は掛けたくない。                                                                       |



## 健康・病状・医療費に関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                                                                           |
|----|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 男性 | 81 | 同居者が、脳梗塞・認知症のため全身マヒ・意思不通。入院費が6人室、1割負担でも月18万円かかる。65歳以降の身障者医療費にも配慮がほしい。                                                                                                        |
| 女性 | 53 | 私が現在罹患している病は、肉腫という癌の中でも希少癌と呼ばれ発病率も10万人に1～2人程度なので周りの理解を得るのが難しく、福祉事務所からも「何故手術をして治らないのか」「若いのだから早く自立するように」と厳しい指導を受けてきました。色々な病・状況の人がいる事を御理解下さいます様お願い致します。                         |
| 男性 | 80 | 身障者3級で在宅酸素療法、他に病気もあり妻も胃全摘手術や肝炎etc病が多い。2人共身体が悪く病と介護状態。現在は何とかやっているが、どちらかが寝たきりになったり、認知症になったらどうしよう。直下地震がきたら、まずこの身体では逃げられない等々心配すればきりが無いが…。それまでは前向きに生きたいと思っている!倒れたら相談に行きますのでよろしく!! |
| 男性 | 88 | 町会長を14年続けていますが、88才の現在、やはり足が弱くなり、そろそろ杖を使用するか迷っております。血圧が上が90位になる事も時折あって、歩行中の立ちくらみも時々あります。                                                                                      |
| 男性 | 81 | 税金や医療費が高い。収入が余らないのに医療費3割は高すぎる。現在病院3ヶ所にかかっているが3万円かかる(月)。                                                                                                                      |
| 女性 | 81 | 子供は2人。次男は家族を養っている。長男は独身で同居中。但し、長男が病気を患い会社を退社せざるを得なくなり、現在は無収入。貯蓄もほぼ無くなり現状は自分の年金だけで生計をやりくりしている。長男はほぼ毎日ハローワークで求職活動を行っているものの現実には厳しい。将来、長男がどうなるかを考えると不安である。                       |
| 女性 | 78 | 現在、私は遺族年金で同居(子供)と生活をして居ます。子供は、現在51才ですが、頸椎症のため、働くことができません。現在、通院して居ますが、リスクが大きいので、手術ができないとのことです。飲み薬とシップ薬を頂いて居ますが医療費が高いので困っています。                                                 |

## 区への感謝などに関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                                                                                                                                          |
|----|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 男性 | 89 | 区民センターに向いますと案内の方がおられて訪問者の意向で親切におしえて下さいます。とても心強く安心致します。                                                                                                                                                                                      |
| 男性 | 81 | 区役所の方々がとてもやさしく親切で有難いことと感謝しております。                                                                                                                                                                                                            |
| 男性 | 84 | 港区は福祉対策がご熱心で親切に対応して下さいるので感謝しております。                                                                                                                                                                                                          |
| 女性 | 79 | 昔は区役所と言うと暗いイメージがありましたが、主人が亡くなり私が区役所に行く機会が多くなりましたが、いつも受付の方が親切に教えて下さいますので助かります。これからは年寄が多くなりますのでよろしくお願い致します。                                                                                                                                   |
| 女性 | 56 | 港区役所には、介護用品のサービス(毎月500円)はじめお世話になり、他の区・市に較べて福祉に対して手厚いようですので、本当に有難いです。役所の方も、こちらが何うと殆ど全員の方が親切で、ありがとうございます。私も母も子供の頃から港区に住んでいるので、良い地域に住むことができ本当に嬉しく、他に移る気持ちは全くありません。自分の老後とか不安もありますが、よい方向にいくよう自分も努力すればきっと良い道が開けるとして今の生活を大切に楽しみたいと思います。ありがとうございます。 |
| 男性 | 76 | 老人に対する種々のイベントは有難く思います。イベントが数多くあれば老人に対して家にいるより外へ、よりコミュニケーションがはかれると思います。                                                                                                                                                                      |
| 男性 | 77 | 新しい区長は、3期目になるが際だって港区諸活動が良くなっている変化を感じている。今後の活躍を期待している。地域の高齢者、子供達を見守る諸施策を地域で取り組む体制を築いて欲しい。                                                                                                                                                    |



## ■まちづくりに関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                        |
|----|----|---------------------------------------------------------------------------|
| 男性 | 81 | 現在もマンション新築工事の傍若無人行為と対応していますが、区の行政指導にも期待しています。                             |
| 男性 | 81 | 車の騒音。家の前の通りが車の抜け道になり道巾ないそれらに対応していない。                                      |
| 女性 | 57 | 自転車に乗ってどこを走れば良いのか車道はバスと大型トラックにはさまれ怖い思いを何回もした。歩道は人がいっぱいだし都バスに車イスは乗れない事が多い。 |
| 男性 | 78 | 自転車の通行が多すぎて、歩行者が遠慮して居る。自転車、利用者に対する指導と取締りを徹底してほしい。夜に無灯火もだいたい多い様です。         |
| 女性 | 91 | 車椅子では通行出来ない歩道、電柱や歩道橋で狭い道（車は通行出来るのに）など、車より人が後回しの道路行政には、困っています。             |
| 男性 | 77 | 近くの百代橋、藻塩橋の運河が不潔で夏は異臭が出て閉口している。河川の管理にももう少し力を入れてほしいと願っている。                 |
| 女性 | 76 | 自転車を安心して置ける場所が欲しい。自転車は高齢者にとって自分の体・買物などになくてはならないものなので安心して止めておくところを作って下さい。  |

## ■介護に関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                                                                                                        |
|----|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 男性 | 82 | 配偶者（同居）が病後の要支援I、認定を受けているが、日常その介護に専念して毎日を送っている。                                                                                                                                                            |
| 男性 | 78 | 私は80才に間もなくなります。家内も私よりは若いのですが、従来のようなペースで働くことが出来なくなりつつあります。従って二人にとって介護のニーズが強まりつつあります。介助の必要が強まりつつあります。従来は自分達で出来ることは、自分達だけでやって来ていました。然し段々と難しくなると思います。港区のどなたに相談したらいいか困っています。お知らせ頂ければ幸いです。                      |
| 男性 | 77 | アルツハイマーで家で介護してもらえなくなった時、入院出来る病院があるかどうか心配です。老々介護になった時の事一番心配です。そういう対策がほしいです。                                                                                                                                |
| 男性 | 50 | 同居人の母親と2人暮らしで母親に特病（リウマチ、圧迫骨折、大腿骨の骨折）認知症（アルツハイマー病）を患っており悩み、困っております。介護と家事の両立で、精神的、肉体的にかなりのストレスを感じ私自身も持病があり収入も少ない為生活に困っております。もっと福祉関係、施設等が増えてほしいと思っております。必要だと思います。介護上、知人、友人に会う機会が作れない。介護の関係上、パートの仕事にしか就けない状況。 |
| 女性 | 47 | ・同居者の認知症が進行し、現況の介護に限界が来た際、すぐに施設等に入所できず、退職せざるを得ない状況になるのではないかと不安がある。<br>・現在も仕事に行っている間は同居者のみで自宅におり、その間に、たおれるなどし、発見が遅れないか等、常に不安がある。                                                                           |

## ■ちいばすに関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                                           |
|----|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 女性 | 78 | いつも色々な事を考え、気を使って頂き有りがたく思っています。ちいばすの運行は体の具合わるい時一寸でも乗れることが助かっております。若くて元気な頃は平気で歩いたり、走ったりしましたが病院通いするようになりましたら、いつも感射して乗らせて頂いております。本当に有りがたく思っています。 |
| 男性 | 76 | 坂道が多いのでちいばすの各方面への乗入れを増やしてほしいのとバス停を細かく増やしてほしいです。                                                                                              |
| 男性 | 85 | 家の前の道路には、ちいばすが通っていません。ちいばすをもっと増やして下さい。無料バスは持っていますが使うところがないのです。                                                                               |
| 男性 | 91 | ちいばすの運行について 私は座骨神経痛のため歩きにくく杖を使っています。その為バス亭、地下鉄までは自転車を利用します。どうかちいばすの停留所は歩行障害者のことも充分考慮されるようお願いします。                                             |
| 男性 | 73 | 新設の「プラザ神明」の近くまで、ちいばすを運行してほしい。                                                                                                                |

## ■災害に関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|----|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 男性 | 76 | 広報で防災マイクが建物に反響して聞きとりにくいので何らかの方法、(マンション管理員、町会役員等)に大変なことは知らせて欲しい。                                                                                                                                                                                                    |
| 男性 | 90 | 地震や津波の避難訓練が実施されますが、現在の電柱乱立の状況ではこれが狭い道路に倒れて避難どころではないと思われます。共同溝の計画的推進を切に希望いたします。避難道路を中心に共同溝の整備順位を決めたらどうでしょうか。                                                                                                                                                        |
| 女性 | 77 | 今はテレビで盛んに地震のことで放映されていますがもし最大な地震に遭遇されたとき何丁目によって集まる場所がはっきりしませんので地図上の上で分かりやすく一覧にして回してほしいです。                                                                                                                                                                           |
| 男性 | 80 | コミュニティの組織は、特に災害時などに重要だと思うし、低抗なく入れる団体があれば入りたいと思う。                                                                                                                                                                                                                   |
| 男性 | 77 | 狭い私道に沿って両側に住宅があり、私道に入る場所に住んでいる人は、自分の家に沿って車を止め、車庫としている。又、アパートもあり、その住人が、バイク、自転車を止めていて災害等の非常時や狭い路地で普段の歩行も老人や子供にはとてもあぶない状態です。町内でも注意出来にくく、困っています。非常時の路地の家屋に対して、消防署も把握しているのでしょうか。私道であれ、公道であれ、見守って下さい。私道を車庫代わりにしたり、バイクを止めているのを「消防署」や「区」で環境指導をお願いします。必ず実行して下さい。命にかかわることです。 |

## ■居住環境に関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                                                                                                    |
|----|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 女性 | 80 | 家の周りは店舗が多く夜遅くまで、ドア等空けて営業している、うるさくて困る。                                                                                                                                                                 |
| 男性 | 81 | 1. 車の騒音。家の前の通りが車の抜け道になり道巾ないそれらに対応していない。<br>2. 街をきれいに。程度の差があり、私個人が感じていることです。区の広報を読まない人たちなのか歩きたばこ、たばこのポイ捨て、犬の糞の後仕末等良好とは言えない。ゴミを捨てる人が後を絶たない。毎朝六時に起き出し掃除をしています。隣人、学校関係者も大変協力して頂いていますがいつまで続けられるのか自信はありません。 |
| 男性 | 78 | 港区の開発が進むにつれ、町内の環境の悪化(町内の商店が無くなり、飲食店、深夜営業店が乱立し、治安の悪化等あり)。町会のやるべき事がされていない(公道への駐車、駐輪、タバコのポイ捨て、住民(特に集団住宅)の清掃等啓発をしない)。                                                                                     |
| 女性 | 67 | ・飼いネコも置き去りにして引越しをした方がいる為にノラネコが集まり、現在ネコ4匹になり庭に入りフン・尿に困っています。保健所にも相談しましたが改善されません。<br>・道巾が狭いのなのにそこに(道路上)ゴミ箱から片付けられない枯れた植木等で道をふさいでおり雨の日など見通し悪く防犯上、災害時等に不安。                                                |
| 男性 | 86 | 特に問題なのはゴミの集配の方法である。役所の方で勝手に複雑な方法を決めているが、ゴミを出す高令者の能力には大きな差がありひとり住まいで判断力がない人にはたいへん無理な要求である。ましてや出し方が悪いと残して行くなんて何様だと思っているのか。住民の能力をすべて健常だと考え同じような能力を持っていると考えてゴミの出し方をどんどん面倒にしていることは許せない。                    |

## ■地域コミュニティに関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                                                                                            |
|----|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 男性 | 81 | プライバシー問題の壁があって、町内でひとり暮らし老人の把握が十分できていないのが気になります。町会長に十分情報を提供して欲しい。                                                                                                                              |
| 男性 | 76 | 自治会・町会の創立支援施策。居住中のマンションは、管理組合しかなく建物の保守管理は問題ないが、住民相互の協力意識・コミュニティ形成はできていません。その基本は、自治会などの活動に負う所大です。区として、この様なマンション内コミュニティの形成に対しより強力な施策が必要です。今後予想される災害時の対応など、住民の高齢化も合わせ必要性を強く感じます。積極的な支援策を検討して下さい。 |
| 男性 | 61 | 近所、町内会、いきいきプラザ等、人間関係が既に出来上がっていて、中に入り難い。個人が地域とうまくやっていけるよう、会社を退職した者を対象として、ガイダンスや橋渡しをして欲しい。書類等の広報ではなく、具体的に料理、介護、近所付き合い等、必要な事柄をコースを設けて教えて欲しい。                                                     |

## ■買い物に関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 男性 | 79 | 田町駅東口は人口が急増しているのに、商店街が貧若で、買い物は主に、東京か日本橋に出掛けなくてはならない。                                                                                                                                                                                                                                     |
| 女性 | 59 | 私の住む住域（白金台2）には、現在小型のスーパーすらありません。似たようなコンビニばかりが存在しますが、街として形態を成さず、肉、魚、衣料など、生活に即した商品は得られません。近くには次々と高層マンションが建てられ、古くからの住民を含めて人口は増加していると思うのですが、便利な商店は消えるばかりです。遠くまで赴かなくても、高齢者が楽に入手できるようなスーパーは新開発に行政も介入して考慮しなければならないと思います。高輪台駅周辺は暗い区域です。                                                          |
| 男性 | 89 | 昭和40年代初めまでは、いろいろな商店が立ち並び日常の生活用品（食材を含む）の購入には非常に便利であったが、その後は地域開発が始まり高層ビルがつぎつぎと建設され、日常生活のための品物を近くで買うことができなくなり（勿論・コンビニ、やスーパーはあるが品物の種類が少なくかぎられていて、住民は非常に不便な思いをしている）そのために足・腰が弱り不自由な身体になった私共、高齢者は、往復1時間以上もかかり買物に行かねばならない状態です。これからは、高層ビル・マンション等建築の申請があった場合は近隣住民のことを考えていただき、生活環境の良い街づくりを考えてもらいたい。 |

## ■交通機関（ちいばす以外）に関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                       |
|----|----|------------------------------------------|
| 男性 | 85 | 西麻布に地下鉄の駅は作れないでしょうか、六本木と広尾の間が長くJRにも遠いので。 |

## ■障害に関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|----|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 男性 | 80 | 視力障害者なので、区の情報誌キスポートはCDで送ってもらっているが、他の情報の入手が困難である。（選挙公報も送ってもらっているのがありがたい。）ラジオで、区のおしらせは何時に何放送でやっているのですか。教えて下さい。音声の横断歩道が高輪台駅前に設置されているが、日中昼のみで夕方になると音声は途絶える。押しボタンを押した時ぐらいいは鳴るようにしてほしい。又は視力障害者用に小さな発信器を支給してもらい、そのボタンを押すことにより、音声が出るようにしてもらえたらうれしい。品川駅前から、目黒行のバス停までの点字ブロックは完備されていてうれしいが、目黒駅前の駅からバス停までの点字ブロックは一切ない。バスの行先は白金の森や白金いきいきプラザなど港区内を通過しているので、何とか設置できないか。駅近傍が品川区目黒区、港区の境目にあるので、他の区と協調して設置していただけるとありがたい。 |



### (3) 同居者の自由意見について

#### ア 分類

同居者の自由意見を分類した項目とケース数は表 7-2 のとおりである。なお、回答者は 521 人であるが、1 人の回答が複数の分類でカウントされている場合もあるため、ケース数の合計と回答者数は一致しない。

表7-2 自由記述の分類項目とケース数

| 分類項目       | ケース数 | 分類項目         | ケース数 |
|------------|------|--------------|------|
| 行政サービス・区施設 | 110  | 災害           | 32   |
| 住宅・介護施設    | 99   | 居住環境         | 29   |
| 健康・病状・医療費  | 88   | 買い物          | 27   |
| 介護         | 88   | 地域コミュニティ     | 24   |
| 税金・保険料・年金  | 80   | 交通機関（ちいばす以外） | 11   |
| 感謝・満足      | 66   | 障害           | 9    |
| まちづくり      | 52   | その他          | 57   |
| ちいばす       | 45   |              |      |

#### イ 具体的な内容（抜粋）

各項目ごとに、代表的な自由意見をいくつか抜粋して掲載する。なお、極力、回答者が記述した原文のまま記載している。

#### ■行政サービス・区施設に関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 女性 | 77 | 図書館は便利に利用させて頂いております。麻布図書館の再開を待っています。                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 男性 | 76 | シルバーパスは有難く思っています。                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 女性 | 82 | 介護予防事業はたいへん充実していますが、高齢者といってもかなり元気な人の参加に向いているようです。体力や気力がなくなってきた年代向けがあるのか、知りたいです。                                                                                                                                                                                                                      |
| 女性 | 73 | 港区は交通費（ちいばす）が安く、スポーツセンターは無料、インフルエンザ予防注射は無料と、高齢者に優しく満足しています。包括支援センターの場所など、その都度、広報紙でPRしていただくと安心です。                                                                                                                                                                                                     |
| 女性 | 62 | 将来ひとり暮らしになった場合、必要なサービスを受けるためにはどこに相談すればよいのでしょうか？今は自らいろいろ動いて解決していくことが出来ても、今後更に高齢になったとき救いを求める声を上げられるか不安です。ひとり暮らしになったとわかった（申請等で）時点で区があらゆるサポート情報を提供して戴けたら安心です。                                                                                                                                            |
| 女性 | 78 | 他の区民から港区は財政豊かで恵まれていると云う声を聞きます。例えば敬老の日に頂くお祝い金など他区より多いのは事実です。                                                                                                                                                                                                                                          |
| 女性 | 50 | 我家ではパソコン、インターネットはいっさい利用していないので、そういう世帯でも平等に情報やサービスが伝わるよう「広報みなと」や刊行物を、区の経費の無駄とにならないよう必要な世帯、要望に応えられるシステムづくりお願い致します。特に災害時の強化をお願いします。                                                                                                                                                                     |
| 女性 | 70 | 幸い今のところは元気に暮らしておりますが、体調がいつどうなってゆくのか不安に思うことも多いです。だんだん生活の範囲がせまくなったら（今のところは多忙にしていますが）いきいきプラザのプログラムに参加するのも楽しいかなと思っています。                                                                                                                                                                                  |
| 女性 | 84 | 「広報みなと」に目を通すのですが、全般をみていると疲れます。我々の年令（60才以上とか）に関係のある事柄だけを別紙に記載するとか大きな文字にして連絡して下さいと助かります。近頃は、目を通して判断しなければならないものが多く、つい見逃したり、忘れたりします。「いきいきガイド」「元気づくりガイドブック」等を拝見していますが申込期限等は「広報みなと」にのっているの、つい見のがして、がっかりした事が何度もありました。引っ越して来てよく区の事がわからず「いきいき」も今年の4月頃やっと手に入れ目を通して見ている所です。今後共よろしくお願い致します。老令者へのお気遣い有難く感謝しております。 |
| 女性 | 78 | すぐ近くのいきいきプラザに10年位前から体操等でお世話になりおかげ様で今は元気です。                                                                                                                                                                                                                                                           |



## ■住宅・介護施設に関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                                                                                                                                        |
|----|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 女性 | 81 | 世帯主が特養でお世話になっていますが、介護の人員が不足（定員は確保されている）で重労働なので、すぐやめてしまったり、施設の構造上、朝食を作るなど直接、入所者に対する介護に時間が取れない。入所者の実態が介護度の高い人、認知症のひどい方などが多くなっているの、出来るだけ人員の配置をしてもらわないと困るので、毎日介護に通っているのが大変である。私が入院した時等、体重の減少も著しかった。                                           |
| 女性 | 74 | 都営住宅の老朽化のため、今後転居などにより近所づきあいがなくなること（年令を重ねるため）。新しい友人とのつきあい方。                                                                                                                                                                                |
| 女性 | 78 | 年金で介護施設に入れるような所がほしい。もしあれば元気な内に私達主人と二人で入りたいです。安心です。                                                                                                                                                                                        |
| 女性 | 74 | 私共の住は港区の一番端にありますので、何かにつけて情報が少ないです。大きなマンションですのでも何も情報を得ることが出来ません。                                                                                                                                                                           |
| 女性 | 78 | 特養ホームをはじめとして、誰でもが安心して（経済的負担など）入所出来る介護施設を是非とも増設していただきたい。                                                                                                                                                                                   |
| 女性 | 76 | マンションの中で高齢者が多く、何年後かに管理がうまく行かなくなるのではないかと必要です。今もすでにその様な感じがあり（高齢者のパーセンテージが45%ほど）、どの様に自主管理が出来るのか心配です。政府が高齢者が自立して自分の家、マンションでくらすのをすすめるのなら、管理の方法等アシストして下されば助かります。                                                                                |
| 女性 | 77 | 主人も能力がありながらよい仕事を得られず家賃や公共料金を年金の中から支払うことが、だんだん困難になってきています。今は生活保護よりも低い収入での生活を強いられています。公営住宅も続けて申し込んでいますが、絶望的です。こうした層が増えていることを、行政に関わる皆様によく御認識いただきたいと思います。                                                                                     |
| 女性 | 74 | 今後も港区に住み続けて終りを迎えたいと望みますので、住居の事が心配です。                                                                                                                                                                                                      |
| 女性 | 72 | 高齢者住宅の充実をお願いします。今や、病院から家族に介護をまかされる状況のようですが、それならば病人がしっかり介護してもらえる部屋が必要です。又、老々介護ならば、介護する人が疲れた体を休める部屋もほしいです。協力してくれる子ども（娘や孫など）が休める寝室も必要です。私は今、心臓病の治療を受けています。時々、救急車のお世話になって、夫に心配をかけます。そういう時、マンションの居室がもう1部屋あればいいのになあと、思います。介護者の休息する場があるといいと思います。 |
| 女性 | 75 | 港区に高齢者が安心して住める住宅がもっとほしいと思います。（私事）高齢のため、家賃が高くても借り換える事が出来ず苦しんでいます。今、夫87才の介護をして居ます。年金生活は苦しいです。                                                                                                                                               |

## ■健康・病状・医療費に関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                                                                  |
|----|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 女性 | 70 | 腰痛です。ストレスから右側の腰が痛くなり、最初は注射だけしてもらっていたのですがうつになり、いつの間にか腰の牽引をしていました。私には合わなくて、腰がガクガク、グラグラになり、ケンが切れたのだと言われました。毎日が戦いです。グニャグニャもしています。買物に行く以外は家で寝ています。ずっと座ってられません。           |
| 女性 | 80 | 二人とも80才なので、今の処は主人が病気とつき合いながら過ごしておりますが、もし私が病気になる時が心配です。収入があっても医療費が高いので病院に入院したりする事になったらと思うと、とても心配になります。                                                               |
| 女性 | 76 | 10数年来のリウマチを患っており、又、3年前には大腿骨々折（右脚）もあり、歩行に難がある。又、日常の掃除、風呂場洗浄等も主人に行ってもらっている状況。寝たきり老人にならない様、アルツハイマーにならない様に日常生活で気を張って暮らしている毎日です。                                         |
| 女性 | 52 | 無料で健康診断をうけられることには感謝しています。でも制度が変わって自分で病院の予約をとって受けるのは大変です。予約が集中し、予約をとること自体が大変です。すいている病院をさがせばいいだけのこともかもしれませんが、知らない病院は不安です。病院によっても対応が不親切なところもあります。保健所で受けていた頃のほうがよかったです。 |

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                     |
|----|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 女性 | 73 | 今私はエレベーターもない古い建物（賃貸借）5階に住んでおります。56段を1段1段と上り下りをしなければなりません。両方の膝が痛み通院しています。とてもつらいです。都営、区営住宅を申し込みましても落選落選です。先を考えると悲しくなります。 |
| 女性 | 81 | 老人になりますと、みんなどこか病気を持っています。保健所まで行くのが、おっくうだけれど、支所の中に保健所のお医者さまが月1回出張して、相談にのって頂けたらと思います。                                    |
| 女性 | 80 | 現在友人、趣味等困る事はありません。しかし体力の衰えを感じるこの頃、区健康づくりの活動に参加しなければと考えていますが、なかなかその一歩がふみ出せずにいるこの頃です。                                    |

## ■介護に関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                                                                                                   |
|----|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 女性 | 75 | 現在介護認定4の夫の介護を一人でしています。デイサービス、ショートステイなど利用して、それなりに助かっていますが、自分がたおれた時のことが大変不安です。そんな時の緊急の手助けを区の行政に期待しております。老々介護は二人ともつらいものです。                                                                              |
| 女性 | 79 | 現在は2人共医者に通いながらも健康ですが、いつも心から離れないのは配偶者に倒れられた時、又自分の時、お互い高令でとても家で介護できる状態ではない。その時はどうなるのだろうと考えると気が滅入ります。                                                                                                   |
| 女性 | 82 | 同居者（妻）は、現在要介護5なので、自身あまり物事が判断（認知症）出来ない状態ですので、私（夫）全てをこなして居ります。（代筆）                                                                                                                                     |
| 女性 | 80 | 世帯主（夫）が認知症になって十年余り、週二日はデイサービスでお世話になって大変有難いことと感謝していますが、今後、症状が進行するにつれ家での介護にも限界があると思われ不安になる。                                                                                                            |
| 女性 | 55 | 母91歳の介護と食べて行く為の仕事だけの生活は“生きる力”をなくして行き、私が母の亡くなった後、どの様になるのか不安だけの日々を送っています。日々忙しく外とのコミュニケーションもなく、私の老後の事を考えると不安のみです。                                                                                       |
| 女性 | 72 | 主人は現在入院（病院）中ですが、ほとんど毎日手伝いに行き食事の介助、パジャマ・タオルの交換に行っていますが、自分が今は介護出来るほうですが、在宅介護の時週に4回りハビリとヘルパーさんが出入りして手伝って下さいましたが、やはり時間に追われて結構疲れました。入院出来てほっとした事は夜、自分が寝る時間が出来た事です。長生きしても自分の事が自分で出来なくなった時は、延命はいらないと心から思います。 |
| 女性 | 73 | 介護が必要になった時、保険以外の費用（自費）がない人は払えません。利用出来ないのに毎月保険料は払うのです。私は重い病人になったら自費が払えないので絶食して死にます。日本の税金や介護保険制とは貧しい人の為のものではありません。今後、こういう人、増えますよ。                                                                      |

## ■税金・保険料・年金に関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                                                         |
|----|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 女性 | 75 | 後期高齢者医療保険の保険料が高すぎる。その上高齢になるほど病院にかかる事が多い。医療費と保険料で病気を後まわしにしてしまう。家計を圧迫する。                                                                                     |
| 女性 | 48 | 税金がどう使われているのかわからない。税金が高い。年金をずっと納めているのに、納めていない人も今後もらえるようにするようなことを政府が考えているらしいが、それはおかしい!と思う。納めていても、老後生活できない金額しかもらえないのにそこに払ってない人間にまで与えるとは論外。港区としてもきちんと対応してほしい。 |
| 女性 | 75 | 区の税金が老人の為に使われ過ぎと思う。親の近くで子が親を助けるべく港区内に次の世代を呼び戻す案は作れないか?子供さんのない老人は区民税を納入してきたのだから区が援助してきて当然。子供を港区で育ててきた私達は子等にこの区にリターンしてくることを願う。                               |
| 女性 | 72 | 少ない年金の中から、介護されないのに保険料を引かれることは許せません。お世話（福祉）に成らないで死んだ時は花代を頂きたいですね。                                                                                           |
| 女性 | 87 | 年金生活者に対する社会保険料、所得税（区ではないが）、住民税、固定資産税等々が高額すぎるので考慮してほしい。                                                                                                     |

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                |
|----|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 女性 | 69 | 都区民税、固定資産税、後期高齢者保険、介護保険等の支出金額の多さに驚いて居ります。間違っているのではと…。そして消費税の引き上げ…大変な時代に介護を受けなければならないのが若い方達に申し訳ない様に思います。           |
| 女性 | 75 | 年金生活になり、年々額が少なくなってい、その上税金、住民税等々は年金額から捻出するのが苦しい上、健康保険料も年令と共に病院に行く回数がふえてくるし、高く支払う事がむずかしくなっていました。これから先の事を思うと不安で一杯です。 |

## ■区への感謝などに関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                                                                                    |
|----|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 女性 | 74 | 区の健康診断（年一回）特に難しい病気は2人共持っていないので（成人病有）、これでチェックさせていただいています。ありがとうございます。又、予防注射等、無料だととても受け易く、私達老人、又幼児の孫達も使わせて頂いています。                                                                        |
| 女性 | 77 | 区の職員の方々も大変に良い方が多いので、私は港区の住民になった事に感謝です。                                                                                                                                                |
| 女性 | 83 | 港区に住んでよかったと思っています。都心にしては緑が多く環境がよいことをいつも有難く思っています。                                                                                                                                     |
| 女性 | 77 | 先日は民生委員の方がわざわざ喜寿の祝を届けて下さいました。本当に有り難く感謝しております。今後共どうぞ宜しくお願い申し上げます。                                                                                                                      |
| 女性 | 74 | 70才の時に私はやたらとろんだ。特に駅前（田町駅と浜松町駅）で転んだ時はお岩さんの様な顔になってしまった。その時、区に関する要望のアンケートが来て、私の転んだ場所のことを書いたらきれいに整備していただき、大変有難く思っている。駅前というのは人通りが多いのでどうしてもゆっくり仕事が出来ない事が多かったみたいだが、昼間しっかりと整備し直して下さったみたいに見える。 |
| 女性 | 86 | 広報“みなと”を楽しみに拝見しています。資源回収等は年寄りでも解りやすく、心くばりが出来ていて助かります。催しもの等の参加も致して居ります。私は両ヒザをオペして外出は必ず杖の生活ですが、身障者パス券はタッチして改札を出入り出来本当に感謝して居ります。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。                                   |
| 女性 | 73 | 医療費の助成はとても有難いと思い感謝しています。                                                                                                                                                              |

## ■まちづくりに関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                   |
|----|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 女性 | 83 | 車イス生活なので、世帯主が病気になられたら困るので、ケガをしない様道路整備をしてほしい。                                                                         |
| 女性 | 49 | 住んでいる環境でしかたないとは思っていますが、もう少し公園や緑地が欲しいと思います。                                                                           |
| 男性 | 58 | 高層建築を建て過ぎて風害が非道い。規制が必要。                                                                                              |
| 女性 | 79 | 近隣の小売店がどんどん食堂にかわりました。食堂の多くが道路を私物扱いしているので、歩行通行に不便で困ります。椅子・テーブルを置き、時にはパラソルまで立てていました。私有地以外のところに私物を置かないよう、行き届いた指導を要望します。 |
| 女性 | 72 | 区の公園等の整備にお金をかけ過ぎている様に思う。例えば土の地面をれんがやセメント等に替えたり、まだ花等も充分きれいなのに早く植え変えたりとか、道路も同じ所を度々掘り返したり無駄な事に思える。                      |

## ■ちいばすに関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                               |
|----|----|------------------------------------------------------------------|
| 女性 | 48 | ちいばすをもっと広げてほしい。区民と他民との格差差別化を（区民に申請すれば¥50とか差別化を）。                 |
| 女性 | 77 | ちいばすなどバスがあるので大変助かります。この頃は時間通りに運行されるので良いと思います。                    |
| 女性 | 60 | ちいばすの運転手さんは、とても親切です。バス停に間に合わなくて、かけ出したら止まって待っていて下さいました。有難うございました。 |



| 性別 | 年齢 | 内容                                                                            |
|----|----|-------------------------------------------------------------------------------|
| 女性 | 74 | ちいばすが混雑している時、病人や老人が乗ってきても若い人が絶対席をあけてくれない。放送を小さいバス(小型)も含めもっと徹底してほしい。           |
| 女性 | 81 | ちいばすの止まる支所の中に、100円位で老人が休める場所、本もあったり、週1日は体操の日もあったり、お茶ものめて、時間は自由な部屋があるといいと思います。 |

#### ■災害に関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                                                |
|----|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 女性 | 81 | 災害があった時に区役所へ避難できるのでしょうか？(学校までは遠くて行けません)                                                                                                           |
| 女性 | 75 | ①災害時の避難場所を地区毎に明確に表示を出してほしい。(例えば白金台3丁目の避難場所は〇〇、そしてそこへの道順を示す表示がほしい) そうすれば外出先でも、その地区の避難場所がわかり安心できる。<br>②災害時のための高齢者用の備蓄品のリストがほしい。又、男女別のリストがあれば尚助かります。 |
| 女性 | 71 | 災害の時等に十分な援助が出来る様、食料等備蓄願います。                                                                                                                       |
| 女性 | 78 | 地震や津波の時、近隣の諸施設(慶應三田キャンパス、日本電気等)がどれだけ門戸を開放し、避難者に援助の手を差し伸ばしてくれるか不安です。                                                                               |
| 女性 | 79 | 区の防災無線が全く聞えません。                                                                                                                                   |

#### ■居住環境に関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 女性 | 74 | ゴミの集積所に清掃局のきまりに従わずゴミが捨てられたり置かれたりして不衛生だし、町をきれいにという気持ちを持っていないのかマナーの悪い人がいて困る。お金を支払っても出来るなら個別収集にしていだけるとよいと思います。道路から入った細い道など問題もあると思いますが、私共の家が角にあり、これから先もこの状態で不法投棄の件が続くと思うととてもストレスです。“ゴミ捨てのマナーでわかる人となり”だと思います。(週4～5回の収集日ですから)個別収集になれば少しは良いと思いますが、通行人が捨てたり、車で夜など来て置く人もいと聞いています。“防犯カメラ”を設置していただけたらベストだと思います。 |
| 女性 | 80 | 近所に高層ビルが出来て、日照が失われる。                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 女性 | 83 | 車イス生活なので、世帯主が病気になられたら困るので、ケガをしない様道路整備をしてほしい。駅前のタバコを吸う場所を検討し直してほしい。何で商店街の駅前の道路にしているのか。迷惑きわまりないと娘が言っていた。                                                                                                                                                                                               |
| 女性 | 81 | 道路で煙草を吸いながら歩く人をよく見かけます。区のたばこルールでは物足りなく感じます。今日も信号待ちの時、自転車を止めた人が持つ煙草のけむりが来て困りました。                                                                                                                                                                                                                      |
| 女性 | 69 | 港区は色々手助けや参加型の催しなどあり、とても良いことだと思います。ただゴミの出し方はまだまだ私もふくめて良くわかってなく、もっとアピールをして正しい出し方、それぞれのゴミの出し方など広めなくてはならないと思えます。特に多い、マンション等を利用した事務所の方です。コンビニやスーパーをとり込んでのゴミの出し方のPR、デモンストレーションが必要ではないでしょうか?元氣な高齢者が近くの助けを求めている人のお手伝いなど出来るといいですね。歳をとるのは誰しもやってくるのですから。                                                        |

#### ■買い物に関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                                        |
|----|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 女性 | 74 | 港区のちいばす大変便利に利用させて頂いています。歩いて行くには買い物の荷物が心配ということがなく、目的の店近くまで家の近くから利用できます。                                                                    |
| 女性 | 80 | 周りがコンビニばかりで日常品を購入する店が近くになく、特に港区は物価も高いので生活するのが大変。                                                                                          |
| 女性 | 74 | 昨年までは週1回15分位の所にあるスーパーマーケットに行っていたが、今年に入り月1回になり、あとは家の近くのコンビニエンスストアへ行っている。野菜や豚肉の一部はなんとかなるが、魚は全く売っていないのでカンヅメなどで間にあわせている。もう少しスーパーが近くにあれば良いと思う。 |



## ■地域コミュニティに関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 女性 | 73 | マンションが多く、近所づきあいが大切だが中々出来ず、町会活動に参加する人が少ない。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 女性 | 82 | 大型マンションの住人としては、地域の町内会の集会又は色々な趣味や催し等になじめず出席しにくいことがあります。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 男性 | 60 | 〈隣近所の付き合いについて〉皆年をとってしまって頑固であり、譲りあう気持ちがなくなって来ている。話しあって解決することではなく、必ずどちらかが、折れたり、あきらめたりする結果となる。ストレスや不満がたまり、事あると15年～20年前のことが出て来て、そこから始まる。高齢者を説得することは不可能で、どんどんバラけていく。80歳越えると全くもって難しい。私から見ると訳の分からないことばかり…。話をすればする程、溝は深くなるばかり、意固地になるばかり…。60才の私が若手で、最下年令で地域の治安や、生活協力の体制がないまま、次の世代は不在である。この地に戻ってくるかも分らず、また戻ったり、世襲した子、新たに入ってきた人たちが、ご近所付き合いや、町会等に協力せず、何十年たっても、不思議な町内ではある。また50年住んでも戦前からの人たちからは、新参者に見られるか…。10年、20年先の町内が全くもって見えない。このまま大して変化なく行くとはいえないが…。マンションも増え、この住人たちが、溶け込む気が全くないことが、これが東京なんだとつくづく思うが…。 |

## ■交通機関（ちいばす以外）に関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                                                                             |
|----|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 女性 | 65 | 車椅子で電車・バスにいつでも、どこでも乗れる社会が必要です。ハワイではドライバーは運転席からスロープを操作し、車椅子用スペースの座席の人々に声を掛け“〇〇〇の席の皆さん、立って車椅子の方にスペースを用意して下さい。Thank you”車椅子の人は自身でスロープを通り、所定場所に乗り込みました。港区は国際色豊かな区ですからそうあって欲しいものです。 |

## ■障害に関する意見

| 性別 | 年齢 | 内容                                                                                                                                   |
|----|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 女性 | 39 | 自己申告しないと障害手当など出ないし、なおらない病気なのに、毎年申請しないと、お金が出なかったりするのが煩雑。情報管理はされているのだから自動更新された方がお互い手間も郵便代も紙代も省ける。障害者を持つ家庭にとって日々の介護の他に、手続きをするのもストレスになる。 |

## Ⅷ 調査から言えることーふたり暮らし世帯の生活状況と支援

最後に、本調査の結果を分析し、まとめとしたい。

### 1 結果の要約ー夫婦世帯・親子世帯の生活状況

分析にあたり、まずはこれまで見てきた本調査の結果を要約し、確認しておく。本調査報告書の分析の大きな柱となっている夫婦世帯と親子世帯の2つの世帯類型ごとの特徴を把握することとしたい。

#### (1) 夫婦世帯の生活状況

調査回答者のうち2,021ケース(75.4%)が夫婦世帯であった。夫婦世帯の生活状況について、調査から得られた結果を概観する。

##### ア 夫婦世帯の基本的特徴

##### ①世帯主が夫・同居者が妻の世帯が98.8%

夫婦世帯のうち、世帯主が夫で、同居者が妻である世帯が98.8%を占めた。世帯主のほとんどが夫で、同居者のほとんどが妻である。

##### ②夫(世帯主)の9割半は後期高齢者、妻(同居者)6割半

本調査の対象は、世帯員のどちらかが75歳以上のふたり暮らし世帯である。夫婦世帯の場合、夫の9割半が75歳以上であった。その内訳は、「75歳以上80歳未満」が4割半、「80歳以上85歳未満」が3割、「85歳以上90歳未満」が1割半で、平均年齢は80.3歳であった。妻は、75歳以上の人は6割半程度であった。その内訳は、「75歳以上80歳未満」が4割弱、「70歳以上75歳未満」が2割半、「80歳以上85歳未満」が2割で、平均年齢は76.2歳であった。夫の方が年齢が高い傾向にある。

##### ③ふたり暮らしの年数の平均は40.8年

ふたり暮らしの年数については、40年以上と回答した世帯の割合が6割半を占めた。平均年数は40.8年である。

##### ④持ち家率は73.6%

夫婦世帯の持ち家率は、73.6%。「持ち家(一戸建て)」が3割強、「持ち家(分譲マンション)」が4割、「都営・区営住宅」が1割強である。

##### ⑤夫婦ともに「健康」である人は4割弱

夫婦ともに、健康状態については「良い」と感じている人の割合が37%程度であった。

##### ⑥夫の2割程度、妻の1割半程度は介助が必要、ともに1割前後は介護保険サービスを利用

一部またはすべてに介助が必要な人は、夫の2割程度、妻の1割半程度であった。また、夫の1割強、妻の1割は介護保険サービスを利用している。

##### ⑦夫の3割は仕事をしている、妻の8割は仕事をしていない

仕事については、夫の3割は、自営業やその他の形態で、現在も仕事をしている。自営業は全体の2割である。妻は、仕事をしていない人が8割を占めている。

⑧家事分担は、家のことは妻、手続き等はやや夫が多い

家事の分担については、買い物や炊事、洗濯などの家のことについては、8割から9割を妻が担っている。区役所や銀行等での手続きについては、妻が4割弱から4割半、夫が5割半から6割強担当している。

⑨別居する子どもが「いる」世帯は8割弱

別居する子どもが「いる」と回答した世帯は8割弱であり、「いない」と回答した世帯は18%であった。

⑩最も行き来のある家族・親族は「子ども」が7割

最も行き来のある家族・親族は、「子ども(子どもの配偶者、孫などを含む)」が7割を占め、「兄弟・姉妹」は1割であった。「誰ともほとんど行き来がない」と回答した世帯は7%であった。

子どもの有無別に見ると、別居の子どもがいる世帯では、最も行き来する家族・親族は「子ども」で8割半を占め、「誰ともほとんど行き来がない」世帯はわずか4%であった。子どもがいない世帯の場合、最も行き来する家族・親族は「兄弟・姉妹」が3割を占め、「誰ともほとんど行き来がない」世帯はおおよそ2割にのぼった。

⑪近所づきあいは妻の方が親密

近所づきあいの程度について、夫は「あいさつをかわすくらい」が最も高く半数近くを占めているが、妻は「会ったときに世間話をする」が4割、互いの家を行き来するなど親密につきあう人が2割である。全体的に妻の方が夫よりも親密な近所づきあいをしている。

⑫緊急時の支援者がいない世帯は13%

緊急時の支援者がいる世帯はおおよそ84%、いない世帯は13%程度であった。別居の子どもの有無別に見ると、子どもがいる世帯では、緊急時の支援者がいない世帯の割合は9%であったが、子どもがいない世帯では、3割にのぼった。

⑬正月三が日は4割半が2人で過ごす

また、正月三が日を2人だけで過ごした世帯は、全体の4割半であった。子どもの有無別には、子どもがいる世帯では4割、いない世帯では7割が、正月三が日を2人だけで過ごしている。

⑭外出頻度は夫の3割半、妻の3割が「ほとんど毎日」

外出頻度は、夫の3割半、妻の3割が「ほとんど毎日」と回答した。夫婦ともに、全体の8割程度は、週に2、3日以上は外出している。外出時には、夫の2割半、妻の3割半が「会話をしている」と回答している。

⑮社会的活動へは、夫の5割強、妻の5割半が参加

地域の団体や集まりへは、夫の5割強、妻の5割半が参加している。夫は、2割強が「町会・自治会」に参加していると回答している。妻は、2割強が「健康づくりの活動」、2割が「趣味の会」、2割弱が「町会・自治会」に参加していると回答した。

夫の5割弱、妻の4割半は社会的活動に参加していない。参加しない理由としては、「自分の興味を引くものがない」が夫婦ともに多く、夫の3割半、妻の2割半を占めた。また、妻は「同居相手の世話をしなくてはならない」と回答した人が1割半いた。

今後、地域活動に参加したいとは思わない人の割合は、夫は4割、妻は3割半であった。

⑯区の行政サービス等に関する情報が十分に得られていない人は、夫の2割、妻の2割強

区の行政サービス等に関する情報の充足具合については、夫の8割、妻の8割弱は、おおむね得られていると回答している。夫の2割、妻の2割強は、情報を十分に得られていないと回答した。

⑰年間収入が250万円未満の世帯は2割半、主な収入源は夫婦とも7割前後が年金

夫婦世帯の年間収入については、最も割合が高かったのは「300万円以上500万円未満」で26%であった。一方、収入が250万円未満の世帯は2割半であった。

経済状況については、「余裕はないが暮らしていくには困らない」と回答した世帯が5割半で、生活が苦しいと感じている世帯はおよそ18%であった。

主な収入源としては、夫婦とも7割前後が年金収入である。

⑱家計の負担になっているのは、「税金」が3割強、「医療費・通院費」が2割弱

家計で負担となっている費目としては、「税金（固定資産税など）」と回答した世帯が3割強であり、次いで「医療費・通院費」が2割弱、「社会保険料」と「家賃・住宅ローンの返済」が1割強であった。

⑲妻の方がやや不安やストレスを感じ、妻の方がやや友人・近隣関係に満足している

生活意識については、夫婦で大きく異なることはなかったが、どちらかといえば妻の方が不安やストレスを感じている傾向にある。また、友人・近隣関係については、妻の方がやや満足している傾向にある。

⑳夫婦とも7割半から8割半が将来の病気や介護について心配している

将来の不安や心配ごとについては、夫婦ともに、自身や互いの健康面について心配する人が多かった。夫の7割半は自分の病気や介護について心配し、8割強は妻の病気や介護について心配している。妻は、8割半が夫の病気や介護について心配し、8割が自分の病気や介護について心配している。

イ 夫婦世帯の地域ネットワークの状況

①夫の7割、妻の8割強は親しい友人がいる

「親しい友人がいる」と回答した人は、夫の7割、妻の8割強である。親しい友人の種類は、夫婦ともに「近所の人」が最も多く、夫の3割強、妻の4割が回答した。ほか、夫は「もとの（今の）職場の人」が17%で、妻の7%よりも高い。妻は、「趣味やスポーツ等を通じて知り合った人」が2割半で、夫の2割よりも高かった。「学校時代に知り合った人」については、違いがない。

②親しい友人との行き来は、妻の方がやや頻度が高い

親しい友人との行き来の頻度は、夫婦ともに「月に数回」が最も高く3割前後である。ほか、妻は「週に数回」が24%、「週に1回」が19%で、夫よりも頻度が高い。夫は「年に数回」が26%であった。

③近所づきあいは、夫は半数が「あいさつをかわすくらい」、妻は4割が「世間話をするくらい」

近所づきあいの程度については、夫は「あいさつをかわすくらい」が約半数を占め、「会ったときに世間話をするくらい」が3割弱であった。妻は、「会ったときに世間話をするくらい」が4割で、「あいさつをかわすくらい」が3割弱であり、夫よりやや親密に近所づきあいをする傾向にある。



#### ④外出時によく会話する人は、夫の2割半、妻の3割半

外出時の会話の程度について、夫の2割半、妻の3割半は、よく会話をする傾向にある。あまり会話をしない人の割合は、夫の3割、妻の2割弱であり、全体的に、夫より妻の方が会話をする傾向にある。

#### ⑤夫婦ともに半数程度が社会活動に参加している

地域の社会的活動へは、夫の5割、妻の5割強が参加していると回答している。夫が参加している活動は、「町会・自治会」23%、「趣味の会」14%、「健康づくりの活動」13%であった。妻が参加している活動は、「健康づくりの活動」22%、「趣味の会」20%、「町会・自治会」19%であった。

#### ⑥社会活動に参加しない理由は、夫婦とも「自分の興味を引くものがない」が最も多い

社会的活動に参加していない理由としては、夫婦ともに「自分の興味を引くものがない」が最も高く、夫の34%、妻の27%が回答した。ほか、「体の調子が悪い」(夫婦とも2割前後)、「時間がない」(夫1割半、妻2割)、「参加したくない」(夫2割、妻1割半)が多かった。また、妻は「同居者の世話をしなくてはならないから」が14%で、夫の5%よりも高い割合を示した。

#### ⑦今後地域活動に参加したいと思う人は、夫の31%、妻の34%

地域活動に参加したいと思う人の割合は、夫の31%、妻の34%であった。反対に、参加したくないと思う人の割合は、夫の39%、妻の34%であった。夫の方が、参加したくないと考える人の割合がやや高い。

### ウ 介助の必要性和生活状況

#### ①夫婦世帯のうち、要介助者がいる世帯はおよそ3割

夫婦世帯のうち、2人とも介助を必要としていない世帯は全体の7割であり、夫のみまたは妻のみが要介助の世帯はそれぞれ1割前後、2人とも要介助の世帯は6%であった。

#### ②妻が要介助の場合、買い物・食事の準備・掃除や洗濯を夫が担う

夫が要介助の場合、区役所等での手続き・銀行や郵便局での手続きを妻が担う

妻が要介助の場合、妻が担当することの多い「買い物」「食事の準備」「掃除や洗濯」を夫が担うようになる世帯が多い。反対に、夫が担当していた「区役所等での手続き」「銀行や郵便局での手続き」は、夫が要介助の場合、妻が担う割合が高くなる。

#### ③介助者はストレスや不安を感じやすい

夫婦ともに、同居相手が要介助である場合、不安やストレスを感じている人の割合が高くなる。とくに夫よりも妻の方が、より不安やストレスを感じやすい。

将来の生活への安心感については、介助者がいる人の方が安心感が低い傾向にあるが、その差は小さい。

#### ④介助者はくらしの張り合いや生活の充実感がやや低い

夫婦ともに、同居相手が要介助の場合には、くらしの張り合いや生活の充実感を感じるものがやや少ない傾向にある。

⑤要介助者のいる夫婦世帯は、経済状況が苦しい

世帯に要介助者がいない場合、経済状況が「苦しい」世帯は1割半程度であるが、要介助者が1人いる世帯では2割強、2人とも要介助の世帯では2割半が、経済的に苦しいと感じている。

⑥要介助者のいる夫婦世帯は、「医療費・通院費」に負担感

世帯に要介助者がいない場合、家計で負担の大きい費目は「税金」が4割弱である。要介助者がいる世帯では、「医療費・通院費」が最も高く、要介助者が1人の世帯では3割、2人とも要介助の世帯では4割弱を占めた。

エ 夫婦世帯の生活状況の分類

①夫婦世帯の生活状況を示す5つの因子を抽出

因子分析により、夫婦世帯の生活状況を示す5つの因子を抽出した。第1因子は「妻の生活の充実感」、第2因子は「夫の生活の充実感」、第3因子は「不安・ストレスの少なさ」、第4因子は「近所づきあいの充実」、第5因子は「経済状況への安心感」と解釈できる。

表8-1は、夫の仕事の有無、世帯の介助の状況、住宅の種類ごとに、各因子得点の平均値を比較したものである。

夫が仕事をしている場合には、近所づきあいへの満足感がやや低めであるほかは、全体的に安定傾向にある。

介助の状況については、2人とも介助を必要としていない場合には、生活の充実感や近所づきあいへの満足感、経済状況への安心感が比較的高く、不安やストレスが少ない。介助を必要とする人がいる場合には、全体的に因子得点の平均値が低くなる。夫のみが要介助の場合、とくに夫の生活の充実感と、経済状況への安心感が低い。また、不安やストレスも多い。妻のみが要介助の場合には、妻の生活の充実感がとくに低く、また、近所づきあいへの満足感が最も低くなっている。2人とも要介助の場合には、近所づきあいへの満足感はやや高いものの、そのほかの因子得点の平均値がすべて低い値を示した。

住宅の種類別には、「持ち家」である場合には、「近所づきあいへの満足」を除いたすべての因子得点の平均値が高く、全体的に安定している。「民間賃貸・公的賃貸（UR等）住宅」の場合、すべての因子得点の平均値が低く、とくに妻の生活の充実感や近所づきあいへの満足感に乏しく、不安やストレスを感じやすい。「都営・区営住宅」の場合には、近所づきあいへの満足感が高いものの、経済状況への安心感に乏しく、夫婦とも生活への充実感が薄い。

表8-1 条件別因子得点の平均値

|               |                        | 妻の生活の<br>充実感 | 夫の生活の<br>充実感 | 不安<br>ストレス | 近所づきあい<br>への満足 | 経済状況<br>への安心 |
|---------------|------------------------|--------------|--------------|------------|----------------|--------------|
| 夫の<br>仕事      | 仕事をしている【n=650】         | 0.152        | 0.325        | 0.012      | -0.034         | 0.306        |
|               | 仕事はしていない【n=1,316】      | -0.075       | -0.162       | -0.015     | 0.011          | -0.148       |
| 介助<br>の<br>状況 | 2人ともほとんど自分でできる【n=883】  | 0.196        | 0.180        | 0.147      | 0.048          | 0.089        |
|               | 夫（世帯主）のみ要介助【n=125】     | -0.271       | -0.829       | -0.448     | -0.108         | -0.367       |
|               | 妻（同居者）のみ要介助【n=106】     | -0.865       | -0.115       | -0.313     | -0.269         | -0.143       |
|               | 2人とも要介助【n=49】          | -0.705       | -0.700       | -0.732     | 0.077          | -0.411       |
| 住宅<br>の<br>種類 | 持ち家【n=916】             | 0.060        | 0.080        | 0.036      | -0.009         | 0.141        |
|               | 民間賃貸・公的賃貸（UR等）住宅【n=88】 | -0.369       | -0.067       | -0.235     | -0.302         | -0.460       |
|               | 都営・区営住宅【n=150】         | -0.207       | -0.481       | -0.151     | 0.218          | -0.670       |
|               | その他【n=67】              | 0.088        | 0.009        | 0.096      | 0.005          | 0.152        |

※無回答は集計から除く。

## ②夫婦世帯の生活状況の分類

因子分析で得られた因子得点を用いて、非階層的クラスター分析(K-means 法)を行い、夫婦の生活状況を6つのクラスタに分類した。クラスタごとのケース数と構成割合、および各因子得点の平均値を集計したものが表5-36(再掲)である。

表5-36(再掲) 【夫婦世帯】各クラスタのケース数・割合と因子得点の平均値

|                | クラスタ1  | クラスタ2  | クラスタ3  | クラスタ4  | クラスタ5  | クラスタ6 |
|----------------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| ケース数           | 224    | 107    | 237    | 292    | 193    | 172   |
| %              | 18.3%  | 8.7%   | 19.3%  | 23.8%  | 15.8%  | 14.0% |
| 第1因子 妻の生活の充実感  | -0.171 | -1.547 | 0.462  | 0.183  | -0.717 | 1.042 |
| 第2因子 夫の生活の充実感  | -0.711 | -1.519 | 0.295  | 0.373  | -0.239 | 1.101 |
| 第3因子 不安・ストレス   | -0.710 | -1.133 | 0.724  | -0.143 | -0.161 | 1.056 |
| 第4因子 近所づきあいの充実 | 0.198  | -0.712 | -0.506 | 0.711  | -0.926 | 0.715 |
| 第5因子 経済状況への安心感 | -0.782 | -1.330 | 0.615  | -0.009 | 0.0    | 0.977 |

クラスタ1(224 ケース、18.3%)は、近所づきあいの充実度がやや高めであるほかは、全体的に不安定な傾向を示しているグループである。

クラスタ2(107 ケース、8.7%)は、夫婦ともに生活への充実感に乏しく、経済状況をはじめ生活全般において不安定なグループである。

クラスタ3(237 ケース、19.3%)は、夫婦ともに生活への充実感があり、経済状況への安心感が高いものの、近所づきあいの充実度合いが低いグループである。

クラスタ4(292 ケース、23.8%)は、生活は中庸ながら安定傾向にあり、なかでも近所づきあいが充実しているグループである。

クラスタ5(193 ケース、15.8%)は、近所づきあいへの充実感に乏しい一方で、夫の生活の充実感や経済状況への安心感が普通程度のグループである。

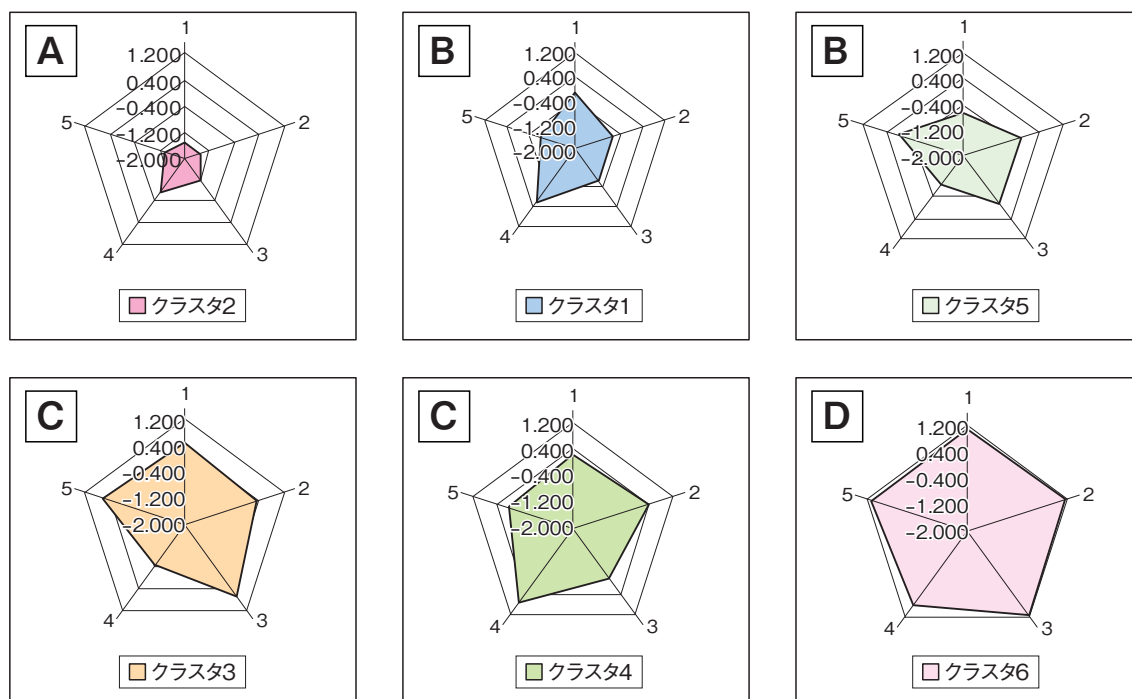
クラスタ6(172 ケース、14.0%)は、夫婦ともに生活が充実し、最も安定しているグループである。

これら6つのクラスタを、その特徴ごとに大きく3つに分類しなおし、表にまとめた(表5-37(再掲))。また、レーダーグラフで図示したものが図5-49(再掲)である。

表5-37(再掲) クラスタの特徴とグループ分け

|            |       |                                 |
|------------|-------|---------------------------------|
| A 生活困難グループ | クラスタ2 | 全般にわたり充実感や安心感に乏しく、不安やストレスが強い    |
| B 低め安定グループ | クラスタ1 | 夫の生活の充実感、経済状況への安心感が低く、不安ストレスがある |
|            | クラスタ5 | 妻の生活の充実感、近所づきあいの充実感が低い、ほかはやや安定  |
| C 高め安定グループ | クラスタ3 | 不安がなく、経済的に安定しているが近所づきあいの充実度が低い  |
|            | クラスタ4 | やや不安があるものの、近所づきあいは充実し、経済状況は中庸   |
| D 生活安定グループ | クラスタ6 | 全般にわたり充実感があり、不安やストレスが少なく安定している  |

図5－49（再掲） 各クラスタの特徴とグループ（レーダーグラフ）



|   |      |          |   |      |           |
|---|------|----------|---|------|-----------|
| 1 | 第1因子 | 妻の生活の充実感 | 4 | 第4因子 | 近所づきあいの充実 |
| 2 | 第2因子 | 夫の生活の充実感 | 5 | 第5因子 | 経済状況への安心感 |
| 3 | 第3因子 | 不安・ストレス  |   |      |           |

これら6つのクラスタ別に、世帯の介助の状況、緊急時の支援者の有無、別居している子どもの有無、住宅の種類のそれぞれについてクロス集計を行い、その特徴を見た(表8-2)。

介助の状況については、A生活困難グループであるクラスタ2は、ひとりまたは2人とも介助を必要としている世帯の割合が6割を占めている。

B低め安定グループであるクラスタ1とクラスタ5は、ひとりまたは2人とも介助を必要としている世帯の割合は3割程度である。そのうち、クラスタ1は、夫のみ要介助の世帯の方が多く、クラスタ5は、妻のみ要介助の世帯が多い。

C高め安定グループであるクラスタ3とクラスタ4は、介助を必要とする人がいる世帯の割合が2割から1割強である。

D生活安定グループであるクラスタ6は、9割以上が「2人ともほとんど自分できる」世帯であり、要介助の人がいる世帯はわずかであった。

緊急時の支援者がいない世帯の割合が高いのは、クラスタ2、クラスタ5でそれぞれ2割を占めた。最も低いのはクラスタ6で7%であった。

別居している子どもが「いない」と回答した世帯の割合が2割を超えたのは、クラスタ5(26.7%)、クラスタ2(22.6%)、クラスタ1(21.1%)であった。最も低かったのはクラスタ6で1割である。

住宅の種類について、持ち家率が高かったのはクラスタ6(83.5%)、クラスタ3(82.2%)、クラスタ5(82.4%)であった。クラスタ4は、持ち家率が7割強、都営・区営住宅の割合が1割半であった。クラスタ1は、持ち家率が6割半程度とやや低く、都営・区営住宅の割合が2割と高かった。クラスタ2は、持ち家率が57%で最も低く、都営・区営住宅に居住する世帯の割合は27%、民間賃貸・公的賃貸(UR等)住宅に住む世帯の割合が13%で、それぞれ最も高い割合を示した。



表8－2 クラスタ別クロス集計

|                 |                      | クラスタ 1 |        | クラスタ 2 |        | クラスタ 3 |        | クラスタ 4 |        | クラスタ 5 |        | クラスタ 6 |        |
|-----------------|----------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|                 |                      | 実数     | %      | 実数     | %      | 実数     | %      | 実数     | %      | 実数     | %      | 実数     | %      |
| 介助<br>の<br>状況   | 2人とも自分でできる           | 143    | 67.8%  | 39     | 39.0%  | 195    | 87.4%  | 225    | 80.9%  | 126    | 68.1%  | 155    | 93.4%  |
|                 | 世帯主のみ要介助             | 36     | 17.1%  | 29     | 29.0%  | 13     | 5.8%   | 24     | 8.6%   | 19     | 10.3%  | 4      | 2.4%   |
|                 | 同居者のみ要介助             | 18     | 8.5%   | 18     | 18.0%  | 11     | 4.9%   | 18     | 6.5%   | 35     | 18.9%  | 6      | 3.6%   |
|                 | 2人とも要介助              | 14     | 6.6%   | 14     | 14.0%  | 4      | 1.8%   | 11     | 4.0%   | 5      | 2.7%   | 1      | 0.6%   |
|                 | 合計                   | 211    | 100.0% | 100    | 100.0% | 223    | 100.0% | 278    | 100.0% | 185    | 100.0% | 166    | 100.0% |
| 緊急時<br>の<br>支援者 | いる                   | 190    | 85.6%  | 83     | 78.3%  | 208    | 88.5%  | 261    | 90.3%  | 152    | 79.6%  | 158    | 92.9%  |
|                 | いない                  | 32     | 14.4%  | 23     | 21.7%  | 27     | 11.5%  | 28     | 9.7%   | 39     | 20.4%  | 12     | 7.1%   |
|                 | 合計                   | 222    | 100.0% | 106    | 100.0% | 235    | 100.0% | 289    | 100.0% | 191    | 100.0% | 170    | 100.0% |
| 別居<br>の<br>子ども  | いる                   | 172    | 78.9%  | 82     | 77.4%  | 193    | 82.1%  | 240    | 83.9%  | 137    | 73.3%  | 152    | 89.9%  |
|                 | いない                  | 46     | 21.1%  | 24     | 22.6%  | 42     | 17.9%  | 46     | 16.1%  | 50     | 26.7%  | 17     | 10.1%  |
|                 | 合計                   | 218    | 100.0% | 106    | 100.0% | 235    | 100.0% | 286    | 100.0% | 187    | 100.0% | 169    | 100.0% |
| 住宅<br>の<br>種類   | 持ち家                  | 145    | 64.7%  | 61     | 57.0%  | 194    | 82.2%  | 215    | 73.9%  | 159    | 82.4%  | 142    | 83.5%  |
|                 | 民間賃貸・公的賃貸<br>(UR等)住宅 | 18     | 8.0%   | 14     | 13.1%  | 17     | 7.2%   | 16     | 5.5%   | 19     | 9.8%   | 4      | 2.4%   |
|                 | 都営・区営住宅              | 47     | 21.0%  | 29     | 27.1%  | 9      | 3.8%   | 43     | 14.8%  | 8      | 4.1%   | 14     | 8.2%   |
|                 | その他                  | 14     | 6.3%   | 3      | 2.8%   | 16     | 6.8%   | 17     | 5.8%   | 7      | 3.6%   | 10     | 5.9%   |
|                 | 合計                   | 224    | 100.0% | 107    | 100.0% | 236    | 100.0% | 291    | 100.0% | 193    | 100.0% | 170    | 100.0% |

## (2) 夫婦世帯の生活状況の分析

これまでに得られた結果を用いて、夫婦世帯の生活状況について、介助の有無、家族・親族ネットワーク、地域ネットワーク、経済状況、情報の充足、の5つの視点から分析する。

## ア 介助の必要性和夫婦世帯の生活

夫婦世帯のうち、介助を必要とする人がいる世帯はおよそ3割である。介助を要する人がいる夫婦世帯の生活状況を、いくつかの視点から分析していきたい。

まずは年齢である。表8-3は、世帯の介助の必要性別に夫婦の平均年齢を集計したものである。

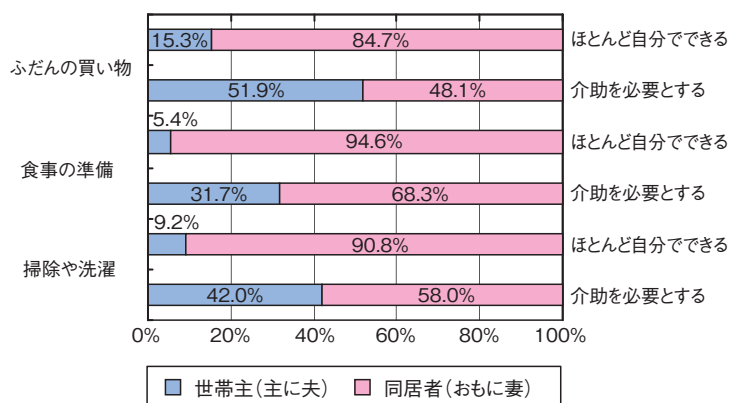
夫のみ要介助の世帯では、夫の平均年齢は81.9歳、妻の平均年齢は76.6歳であった。また、妻のみが要介助の世帯では、夫の平均年齢は81.3歳、妻の平均年齢は79.2歳である。夫が何らかの介助を要する場合には、年下の妻が家庭内で世話をしていると考えられる。一方で、妻のみが要介助の世帯では、同年代あるいは年下の妻の世話を、80代の夫が見ているというケースが多いのではないだろうか。

夫婦世帯では、家事分担は、買い物や食事の準備、洗濯・掃除といったいわゆる「家事」については、ほと

表8－3 世帯の介助の必要性別 夫婦の平均年齢

|                | 世帯主（おもに夫） | 同居者（おもに妻） |
|----------------|-----------|-----------|
| 2人ともほとんど自分でできる | 79.6      | 75.3      |
| 世帯主（おもに夫）のみ要介助 | 81.9      | 76.6      |
| 同居者（おもに妻）のみ要介助 | 81.3      | 79.2      |
| 2人とも要介助        | 84.2      | 80.3      |
| 全体             | 80.3      | 76.2      |

図8－1 妻の介助の有無別 夫婦の家事分担



んどの場合妻が担い、役所や銀行等での手続きなどのように対外的なことがらについては、夫が担うケースが多い。しかし、夫婦のどちらかが要介助になれば、片方が家事全般を担わなければならない場合もあろう。たとえば、妻が要介助の世帯では、夫が、買い物や食事の準備、洗濯・掃除などを担う割合が高くなる。図 8-1 は、妻の介助の必要の有無別に、夫婦の家事分担の割合を見たものである。妻がなんらかの介助を必要としている世帯では、夫が家事を担う割合が高くなっていることがわかる。先に述べたように、妻のみが要介助の世帯の夫の平均年齢は、80 歳を超えている。高齢になってから、それまでおそらくはあまり担うことのなかった家事についても担わなければならないことは、夫にとっても負担が大きいのではないかと推測される。

次に、介助を要する人がいる世帯の経済状況に注目したい。図 8-2 は、経済状況の感じ方と世帯の介助の必要性をクロス集計した表 5-16 をグラフ化したものである。世帯内に介助を必要とする人がいる場合、経済状況を「苦しい」と感じる世帯の割合が、2 割から 2 割半程度となることがわかる。また、先の因子分析によっても、夫や妻のどちらかあるいは両方が要介助である場合には、「経済状況への安心感」を示す因子得点が低いことがわかっている(表 8-4)。

図8－2 世帯の介助の必要性別 経済状況の感じ方

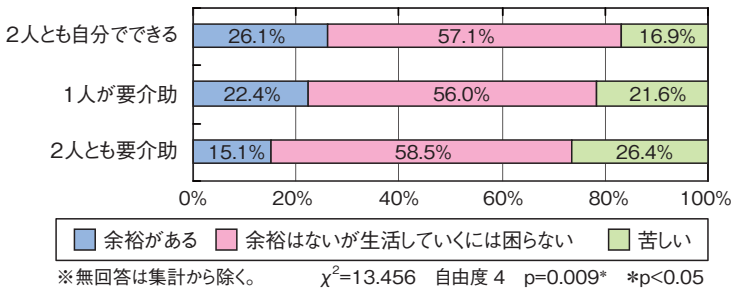


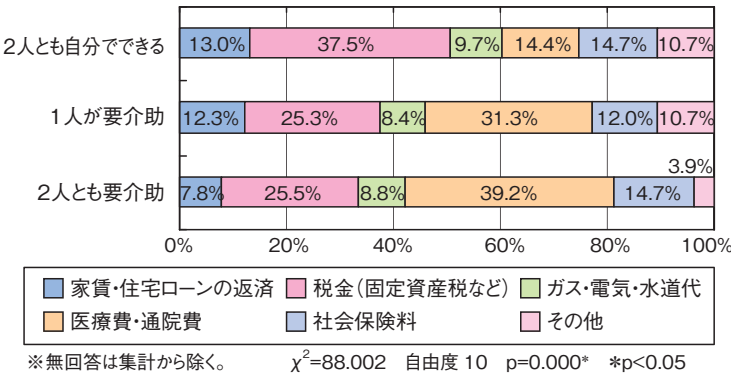
表8－4 介助の状況別 因子得点の平均値

|                       | 妻の生活の充実感 | 夫の生活の充実感 | 不安ストレス | 近所づきあいへの満足 | 経済状況への安心 |
|-----------------------|----------|----------|--------|------------|----------|
| 2人ともほとんど自分で行える【n=883】 | 0.196    | 0.180    | 0.147  | 0.048      | 0.089    |
| 夫(世帯主)のみ要介助【n=125】    | -0.271   | -0.829   | -0.448 | -0.108     | -0.367   |
| 妻(同居者)のみ要介助【n=106】    | -0.865   | -0.115   | -0.313 | -0.269     | -0.143   |
| 2人とも要介助【n=49】         | -0.705   | -0.700   | -0.732 | 0.077      | -0.411   |

※無回答は集計から除く。

夫婦世帯は、夫婦ともに年齢が高く、おもな収入源は年金である世帯が多い。また、年間収入には大きな違いがないことから、要介助者が世帯内にいることで経済状況が苦しく感じられるようになるのは、収入が減るといよりも、支出が増えることの方が大きな要因となっているのではないだろうか。本調査では、支出についてたずねる質問項目は置いていない。しかし、家計の負担になる費目についてたずねた質問項目への回答から、家計の様子的一端を知ることができる。図 8-3 は、家計の負担の大きい費目を、世帯の介助の必要性別に集計した表 5-17 をグラフ化したものである。このグラフからは、ひとりまたは 2 人とも介助が必要である世帯では、「医療費・通院費」を家計負担の大きい費目として挙げる人が多くなることがわかる。実際にかかる金額の多寡はわからないが、要介助の人がいない世帯と比べると、医療費や通院費への負担感が増していることがうかがえよう。

図8－3 世帯の介助の必要性別 家計負担の大きい費目



次に、地域とのつながりについて見ていきたい。夫婦世帯では、夫より妻の方がやや親密に近所づきあいをする傾向にあることはすでに見たとおりである。では、夫や妻が要介助になった場合には、近所づきあいのあり方はどのように変化するのだろうか。

図 8-4 は、世帯の介助の必要性別に夫の近所づきあいの程度を集計したものである。夫のみ介助が必要な場合には、夫自身の近所づきあいは「あいさつをかわすくらい」や「まったくつきあいがいい」の割合が高くなり、近所づきあいがやや希薄になることがわかる。カイ二乗検定の結果、統計的にも 5%水準で有意である ( $\chi^2=23.698$ 、自由度 12、 $p=0.022$ )。妻のみが要介助である場合は、「あいさつをかわすくらい」や「まったくつきあいがいい」と回答した夫の割合は、2 人とも介助を必要としない場合と比べても、あまり変わりがないが、「ときどき行き来するくらい」に親密につきあう人の割合が少し増えている。

では、妻の場合はどうか。図 8-5 は、世帯の介助の必要性別に妻の近所づきあいの程度を集計したものである。妻のみが介助を必要とする場合には、一部あるいはほとんどすべてに介助が必要な状態であれば、近所づきあいの程度、あるいは頻度が低下するのは仕方がない面がある。ここで注目したい点は、妻の近所づきあいの希薄化が世帯にもたらす影響である。夫は、もともと近所づきあいの程度は疎遠な傾向にあり、自身が要介助となった場合により疎遠になるとはいえ、大幅に希薄化するわけではない。そして、おそらくはその分を、妻の近所づきあいでカバーしていると考えられる。妻は、もともと夫よりも親密に近所づきあいをする傾向にあり、妻が地域との接点、窓口になっていると考えられる。その妻自身が要介助になると、近所づきあいの程度は大きく低下し、疎遠になってしまう。図 8-4 にあるように、妻のみが要介助であっても、夫の近所づきあいの程度はやや親密になるものの、妻ほどの近所づきあいの程度に近づくわけではない。妻が要介助となることは、夫婦世帯の近所づきあい、地域とのつながりに影響を与えるものと考えられる。

因子分析によって抽出された 5 つの因子のうち、第 4 因子は世帯全体の「近所づきあいへの満足」を示すものである。表 8-5 より、世帯の介助の必要性別に「近所づきあいへの満足」を示す第 4 因子の因子得点の平均値を抜粋した (表 8-5)。夫あるいは妻が介助を必要とする場合、近所づきあいへの満足度は低くなる。とくに妻のみが要介助の場合には、

図8－4 世帯の介助の必要性別 世帯主（おもに夫）の近所づきあい

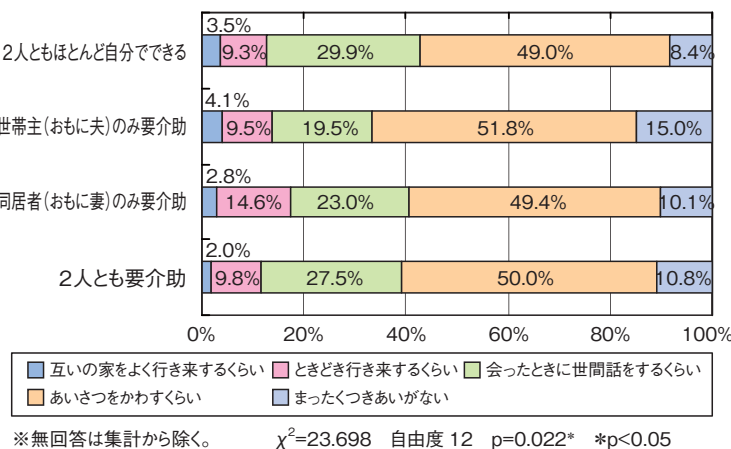


図8－5 世帯の介助の必要性別 同居者（おもに妻）の近所づきあい

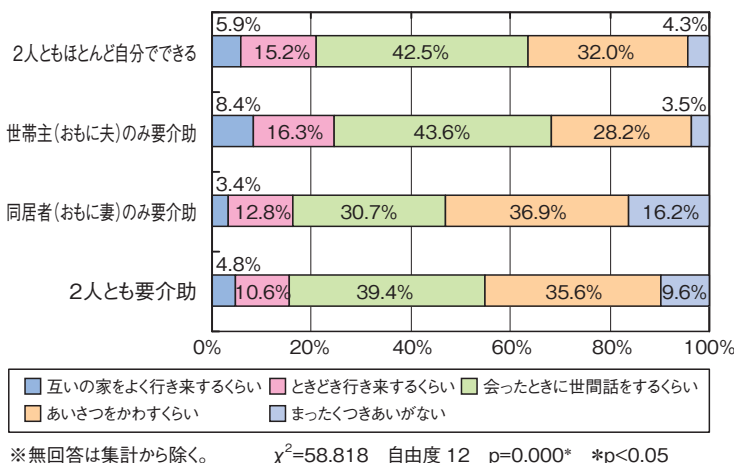


表8－5 世帯の介助の必要性別 近所づきあいへの満足

|                         | 近所づきあいへの満足 |
|-------------------------|------------|
| 2 人ともほとんど自分でできる 【n=883】 | 0.048      |
| 夫（世帯主）のみ要介助 【n=125】     | -0.108     |
| 妻（同居者）のみ要介助 【n=106】     | -0.269     |
| 2 人とも要介助 【n=49】         | 0.077      |

※無回答は集計から除く。

-0.269 で最も低くなることから、やはり妻が要介助となることが世帯全体の近所づきあいにも影響していることがうかがえよう。

## イ 夫婦世帯と家族・親族ネットワーク

夫婦世帯では、病気やけがなどですぐに手助けを必要とする緊急時に支援してくれる人について、「いない」と回答した世帯は全体の 13.1%であった。その割合は、世帯に介助の必要な人がいるかどうかや、経済状況の違いなどによって大きく変わるものではない。しかし、先のクラスター分析によって分類した 6 つのクラスター別に集計すると、その割合に差が見られた（表 8-6）。クラスター 2 とクラスター 5 は、緊急時の支援者が「いない」世帯の割合が高く、ともに 2 割を超えた。反対に、クラスター 4 とクラスター 6 は、緊急時の支援者が「いない」世帯の割合が低く、1 割弱であった。

表8－6 夫婦クラスター別 緊急時の支援者の有無

|         | クラスター 1 |        | クラスター 2 |        | クラスター 3 |        | クラスター 4 |        | クラスター 5 |        | クラスター 6 |        |
|---------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|
|         | 実数      | %      | 実数      | %      | 実数      | %      | 実数      | %      | 実数      | %      | 実数      | %      |
| 支援者がいる  | 190     | 85.6%  | 83      | 78.3%  | 208     | 88.5%  | 261     | 90.3%  | 152     | 79.6%  | 158     | 92.9%  |
| 支援者はいない | 32      | 14.4%  | 23      | 21.7%  | 27      | 11.5%  | 28      | 9.7%   | 39      | 20.4%  | 12      | 7.1%   |
| 合計      | 222     | 100.0% | 106     | 100.0% | 235     | 100.0% | 289     | 100.0% | 191     | 100.0% | 170     | 100.0% |

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=24.838$  自由度 5  $p=0.000$  \* \*  $p<0.05$

緊急時の支援者の内訳は、別居の子どもが圧倒的に多く、およそ 8 割を占めている（表 8-7）。緊急時の支援者を得られるかどうかは、子どもの有無とかかわりが強い。そこで、クラスター別に別居子の有無を集計した（表 8-8）。

夫婦世帯全体では、別居の子どもがいない世帯は 18.6%であるが、その平均値よりも割合が高かったのは、クラスター 5（26.7%）、クラスター 2（22.6%）、クラスター 1（21.1%）であった。

表8－7 夫婦世帯の緊急時の支援者の種類

|                     | 実数    | %     |
|---------------------|-------|-------|
| 子ども（子どもの配偶者、孫を含む）   | 1,367 | 80.5% |
| 兄弟・姉妹               | 103   | 6.1%  |
| 親戚                  | 64    | 3.8%  |
| 近所の人                | 43    | 2.5%  |
| 友人・知人               | 34    | 2.0%  |
| ケアマネジャーやヘルパーなど介護事業者 | 58    | 3.4%  |
| その他                 | 29    | 1.7%  |
| 合計                  | 1,698 | 100.0 |

表8－8 夫婦クラスター別 別居の子どもの有無

|         | クラスター 1 |        | クラスター 2 |        | クラスター 3 |        | クラスター 4 |        | クラスター 5 |        | クラスター 6 |        |
|---------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|
|         | 実数      | %      | 実数      | %      | 実数      | %      | 実数      | %      | 実数      | %      | 実数      | %      |
| 子どもがいる  | 172     | 78.9%  | 82      | 77.4%  | 193     | 82.1%  | 240     | 83.9%  | 137     | 73.3%  | 152     | 89.9%  |
| 子どもはいない | 46      | 21.1%  | 24      | 22.6%  | 42      | 17.9%  | 46      | 16.1%  | 50      | 26.7%  | 17      | 10.1%  |
| 合計      | 218     | 100.0% | 106     | 100.0% | 235     | 100.0% | 286     | 100.0% | 187     | 100.0% | 169     | 100.0% |

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=19.521$  自由度 5  $p=0.000$  \* \*  $p<0.05$

また、子どもや兄弟姉妹など、家族・親族と普段行き来があるかどうかについても、クラスター別に集計した（表 8-9）。家族・親族との行き来がほとんど「ない」と回答した世帯の割合が最も高かったのはクラスター 2 で、17.5%であった。次いで、クラスター 5 では 9.1%、クラスター 1 では 8.6%であった。緊急時の支援者がいない世帯の割合が高いクラスターで、普段から家族や親族との行き来がない世帯の割合が高いことがわかる。



表8－9 夫婦クラスタ別 家族や親族との行き来の有無

|        | クラスタ 1 |        | クラスタ 2 |        | クラスタ 3 |        | クラスタ 4 |        | クラスタ 5 |        | クラスタ 6 |        |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|        | 実数     | %      | 実数     | %      | 実数     | %      | 実数     | %      | 実数     | %      | 実数     | %      |
| 行き来がある | 202    | 91.4%  | 85     | 82.5%  | 216    | 93.5%  | 275    | 96.2%  | 169    | 90.9%  | 167    | 97.7%  |
| 行き来がない | 19     | 8.6%   | 18     | 17.5%  | 15     | 6.5%   | 11     | 3.8%   | 17     | 9.1%   | 4      | 2.3%   |
| 合計     | 221    | 100.0% | 103    | 100.0% | 231    | 100.0% | 286    | 100.0% | 186    | 100.0% | 171    | 100.0% |

※無回答は集計から除く。 $\chi^2=29.658$  自由度 5  $p=0.000^*$   $*p<0.05$

続いて、日常生活上の支援者について、同居相手（＝配偶者）以外に手伝ってくれる人の有無を、夫婦それぞれについてクラスタ別に集計した（表 8-10）。夫婦ともに「配偶者以外にいない」と回答した人の割合が高かったのはクラスタ 2 で、夫の 32.4%、妻の 23.8%を占めた。次いで、クラスタ 5 でも夫婦ともに割合が高く、夫の 27.8%、妻の 20.9%を占めた。クラスタ 1 は、夫は「妻以外に（手伝ってくれる人が）いない」と回答した人の割合が 26.2%と高かったが、妻は 16.5%で平均値程度であった。

表8－10 夫婦クラスタ別 配偶者以外に手伝ってくれる人の有無

|            |         | クラスタ 1 |        | クラスタ 2 |        | クラスタ 3 |        | クラスタ 4 |        | クラスタ 5 |        | クラスタ 6 |        |
|------------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|            |         | 実数     | %      | 実数     | %      | 実数     | %      | 実数     | %      | 実数     | %      | 実数     | %      |
| 世帯主<br>(夫) | 妻以外にいる  | 158    | 73.8%  | 71     | 67.6%  | 175    | 80.3%  | 226    | 82.2%  | 130    | 72.2%  | 132    | 84.6%  |
|            | 妻以外にいない | 56     | 26.2%  | 34     | 32.4%  | 43     | 19.7%  | 49     | 17.8%  | 50     | 27.8%  | 24     | 15.4%  |
|            | 合計      | 214    | 100.0% | 105    | 100.0% | 218    | 100.0% | 275    | 100.0% | 180    | 100.0% | 156    | 100.0% |
| 同居者<br>(妻) | 夫以外にいる  | 177    | 83.5%  | 80     | 76.2%  | 191    | 83.0%  | 238    | 85.0%  | 148    | 79.1%  | 147    | 90.2%  |
|            | 夫以外にいない | 35     | 16.5%  | 25     | 23.8%  | 39     | 17.0%  | 42     | 15.0%  | 39     | 20.9%  | 16     | 9.8%   |
|            | 合計      | 212    | 100.0% | 105    | 100.0% | 230    | 100.0% | 280    | 100.0% | 187    | 100.0% | 163    | 100.0% |

※無回答は集計から除く。

【世帯主】 $\chi^2=19.452$  自由度 5  $p=0.002^*$   $*p<0.05$

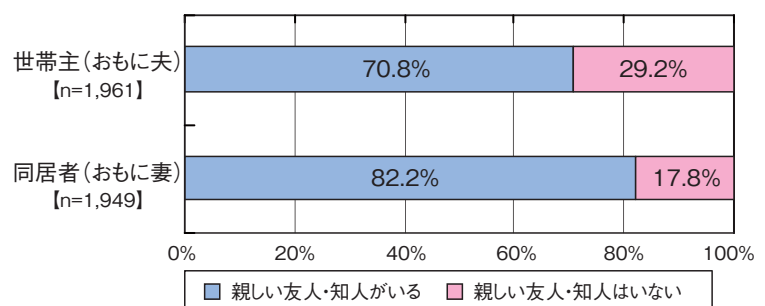
【同居者】 $\chi^2=12.314$  自由度 5  $p=0.031^*$   $*p<0.05$

以上のことから、クラスタ 2 とクラスタ 5 では、緊急時の支援者がいない世帯の割合が高いこと、その背景として、子どもがいない世帯の割合が高かったり、いても、日常的に家族や親族と行き来がない世帯が多いことがわかった。緊急時はそれこそ突然に訪れるものであり、そうした際にすぐに支援してくれる人を頼むためには、ふだんからの行き来やつながりが重要であろう。しかし、クラスタ 2 やクラスタ 5 のように、子どもがいなかったり、普段からつながりが薄かったりする世帯が多いグループでは、日常的にも互いが頼みであることがわかった。

## ウ 夫婦世帯と地域ネットワーク

夫婦世帯では、夫より妻の方が比較的近所づきあいが親密であったり、外出時によく会話をする傾向にある。それは、性別による特性の違いともいうことができる。平成 23 年度に港区政策創造研究所で実施した「港区におけるひとり暮らし高齢者の生活と意識に関する調査」においては、性別により近所づきあいや社会参加などの傾向が異なっていることがわかっていて。そこで、ひとり暮らし世帯の特徴との比較を行いながら、夫婦それぞれの地域ネットワークの様相をとらえてみたい。

図8－6 夫婦別 親しい友人・知人の有無



親しい友人・知人の有無から見ていく。図 8-6 は、夫婦それぞれの親しい友人・知人の有無を集計したものである。夫は、親しい友人・知人が「いない」と回答した人が 29.2%で、妻の 17.8%に比べて高い割合を示している。

図 8-7 は、ひとり暮らし高齢者調査の結果から、親しい友人・知人の有無を男女別に集計したものである。これによれば、ひとり暮らしの男性の場合、親しい友人・知人がいない人の割合が 29.7%で、女性の場合には 13.5%であった。

これらのことから、夫婦世帯でも、ひとり暮らしの世帯でも、女性よりも男性の方が、親しい友人がいない人の割合が高く、どちらも 3 割程度を占めていることがわかった。

では、近所づきあいの程度については、どうであろうか。夫婦それぞれの近所づきあいの程度を集計したものが図 8-8 である。「あいさつをかわすくらい」と「まったくつきあいがない」を合わせて、近所づきあいが疎遠な傾向にあるのは、夫の 58.9%、妻の 37.6%であり、夫の方が 21 ポイント程度高い割合を示した。ひとり暮らし高齢者の場合には（図 8-9）、男性の 61.0%、女性の 34.1%が近所づきあいが疎遠な傾向であった。こちらも、男性の方が疎遠であり、27 ポイント程度の差が見られた。夫婦世帯でも、ひとり暮らしの世帯でも、男性の 6 割は、近所づきあいが疎遠な傾向にあることがわかる。

図8－7 男女別 親しい友人・知人の有無【ひとり暮らし調査】

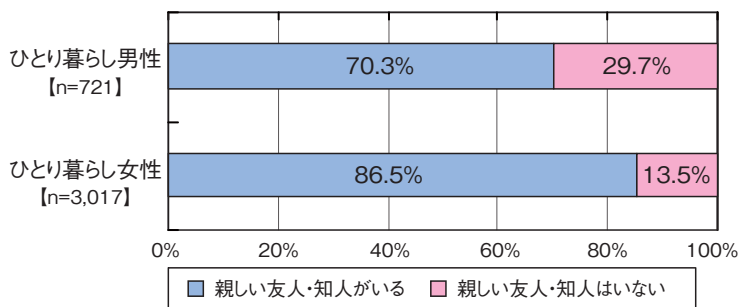


図8－8 夫婦別 近所づきあいの程度

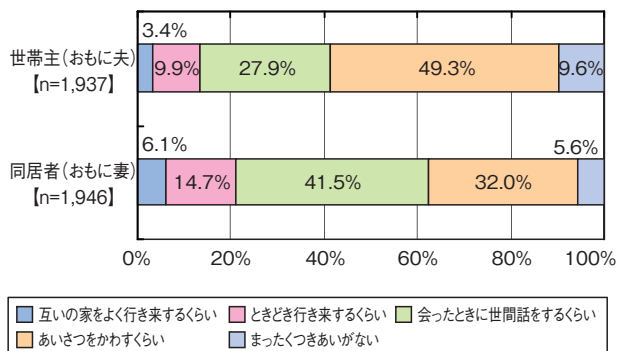
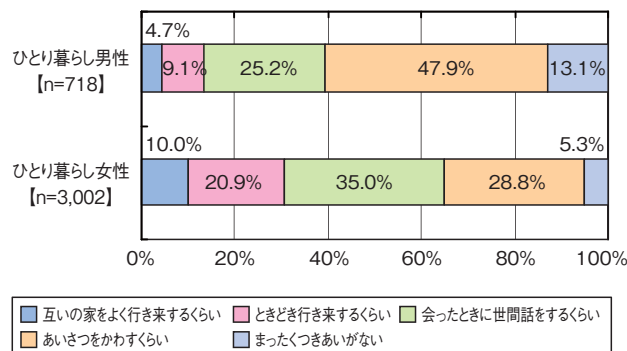


図8－9 男女別 近所づきあいの程度【ひとり暮らし調査】



続いて、社会参加の有無を見てみよう。図 8-10 は、夫婦それぞれの社会参加の有無を集計したものである。夫婦ともに「町会・自治会」が多く、そのほか「趣味の会」や「健康づくりの活動」が多かった。町会・自治会を挙げている人の割合は、夫の方が高い。一方で、趣味の会や健康づくりの活動については、妻の方が高い割合を示した。夫婦とも、「参加していない」人の割合は 4 割半から 5 割弱程度で、大きな差は見られなかった。

ひとり暮らし高齢者の場合はどうか。図 8-11 は、男女別にひとり暮らし高齢者の参加している活動を集計したものである。夫婦世帯と比較して、まず特徴的であるのは、町会・自治会への参加である。ひとり暮らし高齢者の場合には、男女とも、町会・自治会に参加していると回答した人の割合が 1 割程度であり、夫婦世帯よりも低い割合を示していた。これは夫婦世帯とひとり暮らし世帯の違いとして着目すべき点であろう。「趣味の会」や「健康づくりの活動」については、ひとり暮らし高齢者の女性の場合には、夫婦世帯の女性とほぼ同じ程度の割合を示している。しかし、男性の場合には、参加しているのはどちらも 1 割程度であり、夫婦世帯の夫と比べても低い割合を示している。反面、「参

図8－10 夫婦別 参加している社会活動(複数回答)

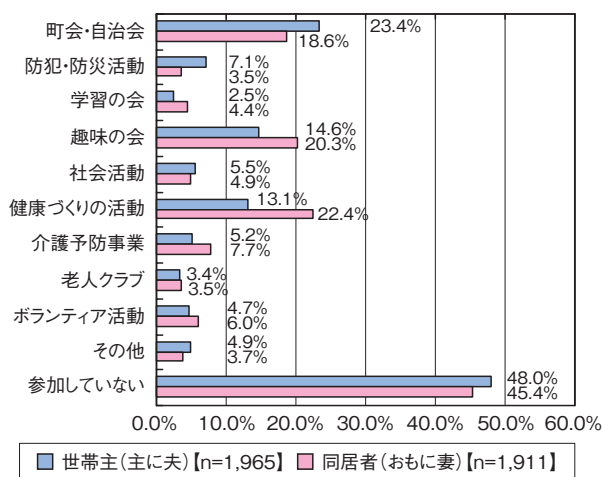
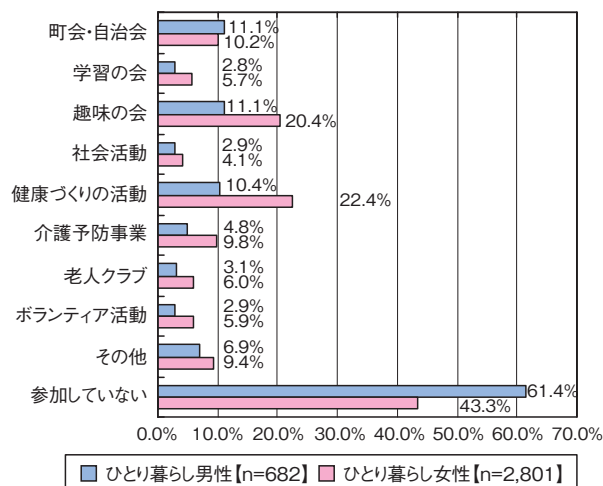


図8－11 男女別 参加している社会活動(複数回答)【ひとり暮らし調査】



加していない」と回答した人の割合は、ひとり暮らし高齢者男性の場合には6割にのぼり、夫婦世帯の夫と比べて高い割合を示している。なお、ひとり暮らし高齢者の女性の場合には、「参加していない」人の割合が43.3%で、夫婦世帯の妻とほぼ同程度である。

夫婦世帯の特徴は、夫婦とも町会・自治会に参加している人の割合が高いこと、活動に参加していない人の割合が夫婦でさほど大きく変わらないことが挙げられる。それと比較して、ひとり暮らし高齢者の場合には、男女ともに町会・自治会に参加している人が少ないこと、また、女性は比較的活動に参加しているが、男性は参加していない人が多いことが特徴として見られた。

ところで、先のクラスター分析によって、夫婦世帯を6つのクラスターに分類しているが、そのクラスター別に夫婦それぞれの社会参加の有無を集計したものが表8-11である。夫婦ともに「参加していない」人の割合が高いのは、クラスター2で、夫の63.2%、妻の66.0%が参加していない。また、クラスター5も次に高く、夫の56.3%、妻の65.1%が参加していない。夫婦のどちらかでも参加していることで、社会との接点が一定程度保たれると考えられるが、夫婦ともに社会活動に参加していないグループでは、世帯ごと孤立してしまう可能性が否定できない。このクラスター2とクラスター5に共通するのは、世帯内に要介助者がいる割合が高いことである(前掲表8-2)。クラスター2は、2人とも介助を必要としない世帯の割合が6つのクラスター中最も低く、6割は夫婦のどちらかあるいは2人とも要介助の世帯である。自分自身が要介助の状態であれば、社会活動への参加が少なくなるのは当然ともいえよう。

クラスター5は、介助を必要とする人がいる世帯は3割強である。クラスター1も、要介助者がいる割合が3割強で同程度であるが、こちらは、夫の社会活動への参加率は低いものの(50.4%)、妻が参加している割合が高く(68.6%)、クラスター5とは異なっている。クラスター1は、夫が要介助である世帯が多く、夫自身の社会活動への参加率が低くなっているが、要介助ではない妻の社会活動への参加率が高い。一方、クラスター5は、妻が要介助である世帯の割合が高く、妻自身の社会活動への参加率が低くなることに加えて、夫のほうも、社会活動への参加率が低くなっている。

表8-11 夫婦クラスタ別 世帯主（おもに夫）の社会活動への参加有無

|            |         | クラスタ 1 |        | クラスタ 2 |        | クラスタ 3 |        | クラスタ 4 |        | クラスタ 5 |        | クラスタ 6 |        |
|------------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|            |         | 実数     | %      | 実数     | %      | 実数     | %      | 実数     | %      | 実数     | %      | 実数     | %      |
| 世帯主<br>(夫) | 参加している  | 111    | 49.6%  | 39     | 36.8%  | 107    | 45.5%  | 193    | 67.0%  | 83     | 43.7%  | 111    | 64.9%  |
|            | 参加していない | 113    | 50.4%  | 67     | 63.2%  | 128    | 54.5%  | 95     | 33.0%  | 107    | 56.3%  | 60     | 35.1%  |
|            | 合計      | 224    | 100.0% | 106    | 100.0% | 235    | 100.0% | 288    | 100.0% | 190    | 100.0% | 171    | 100.0% |
| 同居者<br>(妻) | 参加している  | 153    | 68.6%  | 36     | 34.0%  | 115    | 49.1%  | 198    | 68.3%  | 67     | 34.9%  | 116    | 67.8%  |
|            | 参加していない | 70     | 31.4%  | 70     | 66.0%  | 119    | 50.9%  | 92     | 31.7%  | 125    | 65.1%  | 55     | 32.2%  |
|            | 合計      | 223    | 100.0% | 106    | 100.0% | 234    | 100.0% | 290    | 100.0% | 192    | 100.0% | 171    | 100.0% |

※無回答は集計から除く。

【世帯主】 $\chi^2=56.580$  自由度 5  $p=0.000^*$  【同居者】 $\chi^2=102.025$  自由度 5  $p=0.000^*$  \*  $p<0.05$

先述のとおり、夫は妻よりも社会活動に参加しない人が多い傾向にある。しかし、妻は比較的社会活動にも参加し、近所づきあいが親密な傾向にあり、そのバランスによって、世帯全体が社会とのつながりを保っている。しかし、世帯の状況によっては、夫婦ともに社会参加が少なくなる層が存在する。夫婦ともに社会活動への参加が少ないクラスタ 2 とクラスタ 5 は、「近所づきあいへの満足」を示す因子得点の平均値も低い（表 5-36）。社会的孤立の視点からも、夫婦ともに社会との接点が狭まっている世帯の傾向には注目していきたい。

## エ 夫婦世帯の生活と経済状況

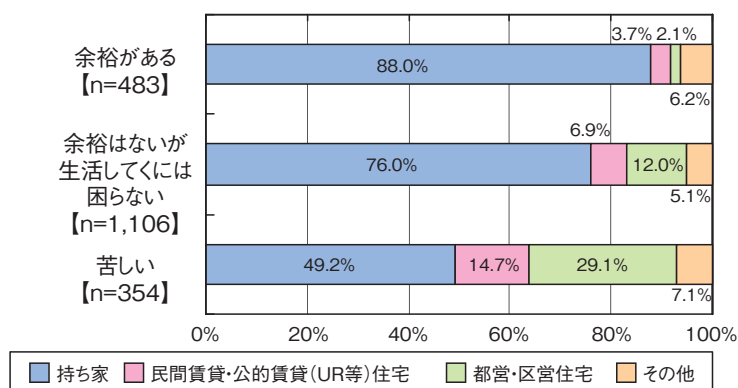
次に、夫婦世帯の生活を経済状況の視点から見ていきたい。生活を安定させる基盤となるのは、経済状況、そして住宅である。住宅と経済状況との関連は深く、図 8-12 に見るように、経済的に余裕があると感じているグループの方が、持ち家率が 88.0% と高く、苦しいと感じているグループは、持ち家率が 5 割程度と低くなることがわかる。

また、経済状況は生活意識にもか

かわってくる。夫婦の生活意識を示す 10 項目を、経済状況別に集計し、その平均値を比較したところ（付表 3）、どの意識についても、経済状況が良い方が平均値が高く安定しており、経済状況が苦しい場合には、平均値が低くなっている。また、この平均値の差については、分散分析を行い、その有意差を確認している（付表 5）。

表 8-12 は、夫の生活意識を経済状況別に集計したものの一部を抜粋したものである。また、図 8-13 と図 8-14 は、それらをエラーバーにより図示したものである。

図8-12 経済状況（3区分）別 住宅の種類



※無回答は集計から除く。  $\chi^2=197.768$  自由度 6  $p=0.000^*$  \*  $p<0.05$



表8－12 世帯主（夫）の生活意識と経済状況の感じ方（3区分） 記述統計（抜粋）

|                |          | 実数    | 平均値  | 標準偏差  | 標準誤差  | 平均値の 95% 信頼区間 |      |
|----------------|----------|-------|------|-------|-------|---------------|------|
|                |          |       |      |       |       | 下限            | 上限   |
| 今の暮らしには張り合いがある | 余裕がある    | 474   | 3.90 | 0.919 | 0.042 | 3.82          | 3.98 |
|                | 生活には困らない | 1,078 | 3.62 | 0.870 | 0.026 | 3.57          | 3.67 |
|                | 苦しい      | 348   | 3.11 | 0.983 | 0.053 | 3.00          | 3.21 |
|                | 合計       | 1,900 | 3.59 | 0.939 | 0.022 | 3.55          | 3.64 |
| 将来の生活は安心できる    | 余裕がある    | 466   | 3.70 | 0.875 | 0.041 | 3.62          | 3.78 |
|                | 生活には困らない | 1,069 | 3.10 | 0.889 | 0.027 | 3.05          | 3.16 |
|                | 苦しい      | 343   | 2.18 | 0.953 | 0.051 | 2.08          | 2.28 |
|                | 合計       | 1,878 | 3.08 | 1.024 | 0.024 | 3.04          | 3.13 |

図8－13 【世帯主（おもに夫）】今の暮らしには張り合いがある

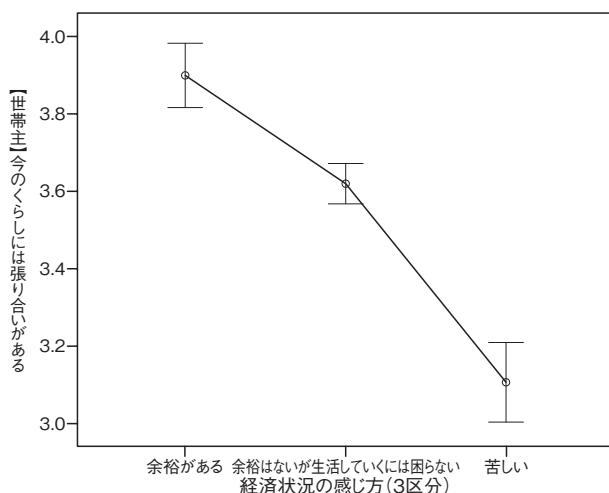
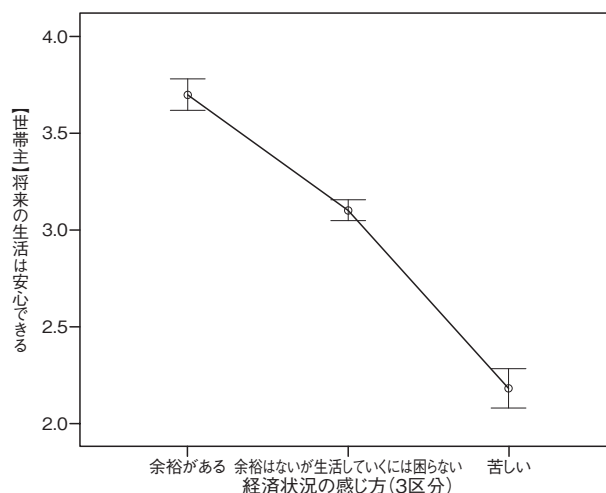


図8－14 【世帯主（おもに夫）】将来の生活は安心できる



「今の暮らしには張り合いがある」について、「余裕がある」グループの平均値は 3.90 で、「生活していくには困らない」グループの平均値は 3.62、「苦しい」グループの平均値は 3.11 である。経済状況が苦しい方が平均値が低いことがわかる。同様に、「将来の生活は安心できる」についても、「余裕がある」グループの平均値は 3.70、「生活していくには困らない」グループでは 3.10、「苦しい」グループでは 2.18 であり、経済状況が苦しいグループほど、将来の生活への安心感に乏しいことがわかる。なお、これらの結果についても、多重比較の検定（Bonferroni 法）において、5%水準で有意であることが認められている。

同様に、妻の生活意識についても経済状況別に集計し、その平均値を比較した。その結果、夫と同じように、どの意識も経済状況が良い方が平均値が高く、苦しいグループの方が平均値が低かった（付表 6）。なお、この平均値の差についても、分散分析によって統計的にその有意差を確認している（付表 8）。

表 8-13 は、妻の生活意識を経済状況別に集計したものの一部を抜粋したものである。また、図 8-15 と図 8-16 は、それらをエラーバーにより図示したものである。

表8－13 同居者（妻）の生活意識と経済状況の感じ方（3区分） 記述統計（抜粋）

|                |          | 実数    | 平均値  | 標準偏差  | 標準誤差  | 平均値の 95% 信頼区間 |      |
|----------------|----------|-------|------|-------|-------|---------------|------|
|                |          |       |      |       |       | 下限            | 上限   |
| 今の暮らしには張り合いがある | 余裕がある    | 453   | 3.85 | 0.900 | 0.042 | 3.77          | 3.93 |
|                | 生活には困らない | 1,018 | 3.63 | 0.863 | 0.027 | 3.58          | 3.68 |
|                | 苦しい      | 335   | 3.19 | 0.962 | 0.053 | 3.08          | 3.29 |
|                | 合計       | 1,806 | 3.60 | 0.917 | 0.022 | 3.56          | 3.65 |
| 将来の生活は安心できる    | 余裕がある    | 452   | 3.54 | 0.896 | 0.042 | 3.46          | 3.63 |
|                | 生活には困らない | 1,019 | 3.05 | 0.907 | 0.028 | 3.00          | 3.11 |
|                | 苦しい      | 332   | 2.32 | 0.978 | 0.054 | 2.22          | 2.43 |
|                | 合計       | 1,803 | 3.04 | 1.000 | 0.024 | 2.99          | 3.09 |

「今の暮らしには張り合いがある」について、「余裕がある」グループの平均値は 3.85 で、「生活していくには困らない」グループの平均値は 3.63、「苦しい」グループの平均値は 3.19 である。経済状況が苦しい方が平均値が低いことがわかる。同様に、「将来の生活は安心できる」についても、「余裕がある」グループの平均値は 3.54、「生活していくには困らない」グループでは 3.05、「苦しい」グループでは 2.32 であり、経済状況が苦しいグループほど、将来の生活への安心感に乏しいことがわかる。なお、これらの結果についても、多重比較の検定（Bonferroni 法）において、5%水準で有意であることが認められている。

図8－15 【同居者（おもに妻）】今の暮らしには張り合いがある

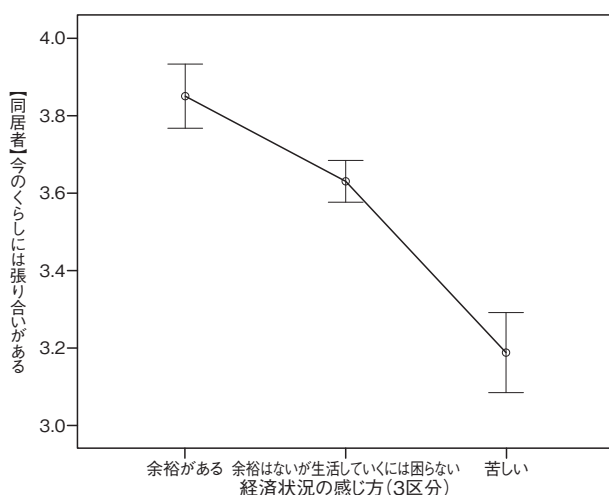
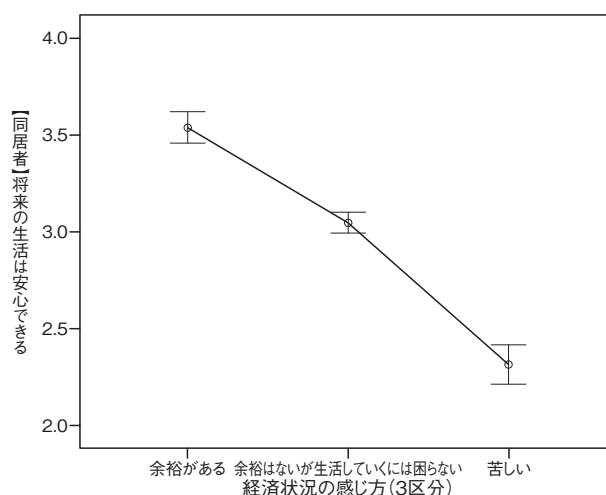


図8－16 【同居者（おもに妻）】将来の生活は安心できる



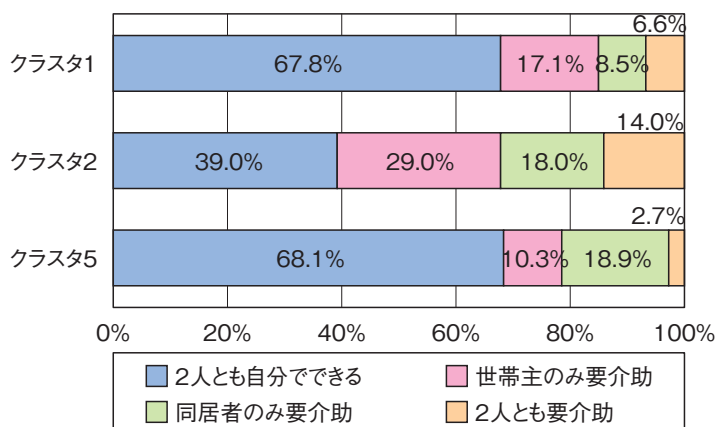
将来への不安や心配ごとについては、自分や同居相手が病気になること、介護を必要とする状態になることを挙げている人の割合が高かった。それ以外に、「生活のための収入のこと」を選択している人を経済状況別に集計したところ、経済状況が苦しいグループほど、「生活のための収入について」を選択している割合が高いことがわかった。夫婦とも同様の傾向を示している（表 8-14）。

表8－14 経済状況の感じ方（3区分）別「生活のための収入について」選択の有無

|               |         | 余裕がある |        | 生活していくには困らない |        | 苦しい |        |
|---------------|---------|-------|--------|--------------|--------|-----|--------|
|               |         | 実数    | %      | 実数           | %      | 実数  | %      |
| 世帯主<br>(おもに夫) | 選択した    | 17    | 3.6%   | 183          | 16.7%  | 199 | 56.5%  |
|               | 選択していない | 460   | 96.4%  | 910          | 83.3%  | 153 | 43.5%  |
|               | 合計      | 477   | 100.0% | 1,093        | 100.0% | 352 | 100.0% |
| 同居者<br>(おもに妻) | 選択した    | 22    | 4.7%   | 236          | 22.1%  | 189 | 55.1%  |
|               | 選択していない | 447   | 95.3%  | 831          | 77.9%  | 154 | 44.9%  |
|               | 合計      | 469   | 100.0% | 1,067        | 100.0% | 343 | 100.0% |

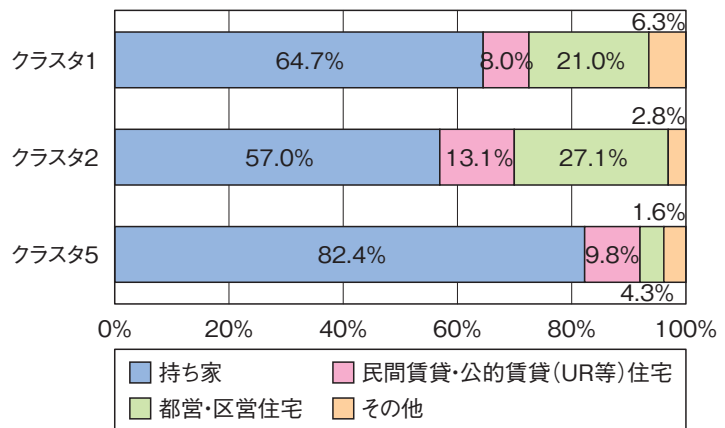
ところで、先のクラスター分析によって分類した6つのクラスターのうち、クラスタ1とクラスタ2は、経済状況への安心感を示す因子得点の平均値が低く、経済的に不安をかかえるグループである。その生活状況を見てみると、まず、クラスタ1とクラスタ2は、ともに要介助者がいる世帯であることがわかる（図 8-17）。クラスタ1は、夫婦のどちらかあるいは2人とも介助を

図8－17 クラスター別 世帯の介助の状況



要する世帯が 32.2%、クラスタ 2 は 61.0%であり、要介助者のいる割合が高い。介助を必要とする人がいることにより、通院費や介護費用などの出費が加わり、経済状況をそれまでよりも苦しいと感じる人が増えるからではないかと考えられる。しかし、要介助者がいることだけで、経済状況が苦しくなるというわけではない。クラスタ 5 も、要介助者のいる世帯の割合が 31.9%と高いが、経済状況への安心感を示す因子得点の平均値は、クラスタ 1 やクラスタ 2 よりも高い。その違いの背景には、住宅の種類の違いが挙げられる。クラスタ 5 の持ち家率は 82.4%であるが、クラスタ 1 は 64.7%、クラスタ 2 は 57.0%と低い（図 8-18）。住宅の種類と経済の安定性については先に述べたとおりである。クラスタ 1、クラスタ 2 が経済状況への安心感に乏しいのは、要介助者がいることに加え、生活基盤である住宅の不安定性が影響していると考えられる。

図8－18 クラスタ別 住宅の種類



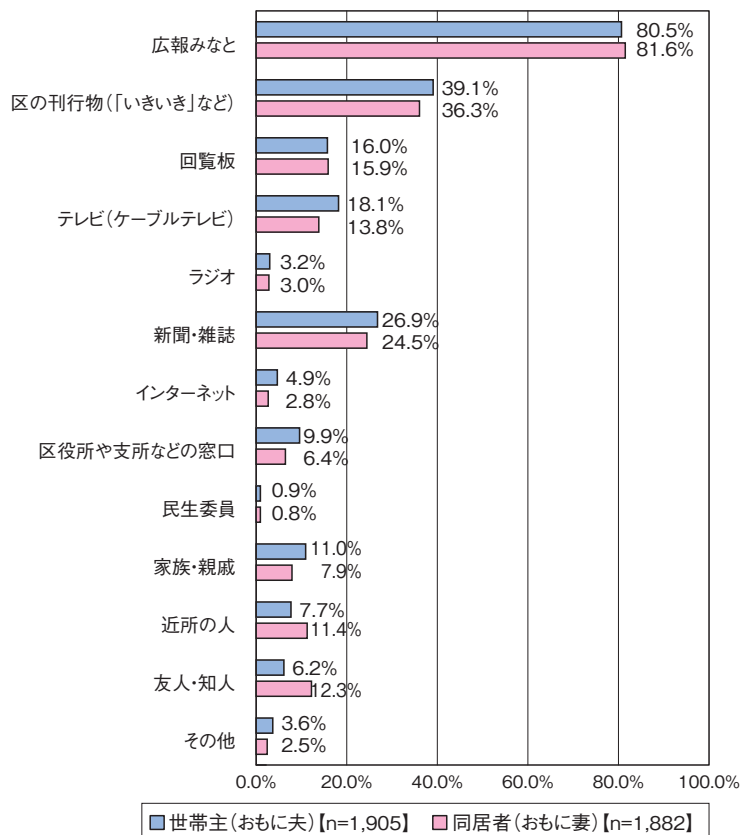
#### オ 夫婦世帯の生活と情報の充足

最後に、夫婦世帯の生活状況別に、区の行政サービス等に関する情報の充足について見ていく。

夫婦ともに、区の行政サービスについては、「充分得られている」と「まあまあ得られている」を合わせて、8割以上の人が、情報を得られていると感じている。その情報源は、夫婦とも「広報みなど」が8割を超えて最も高く、次いで「区の刊行物」（夫：39.1%、妻：36.3%）、「新聞・雑誌」（夫：26.9%、妻 24.5%）であった（図 8-19）。

区の行政サービスなど生活にかかわる情報については、いわゆる「口コミ」によって情報が広まることもある。夫は、「家族・親戚」から情報を得ると回答した人が 11.0%、妻の 7.9%よりもやや高い割合を示した。一方、「近所の人」や「友人・知人」から情報を得ている人は、夫は 6.2%であったが、妻は 1 割を超え、やや高い割合を示した。

図8－19 夫婦のおもな情報源（複数回答）



その情報の充足度合いを、クラスター別に集計したものが図 8-20 と図 8-21 である。図 8-20 は、夫の情報の充足度合いをクラスター別に集計したものであるが、このうち、クラスター 2 とクラスター 5 が、突出して「情報が十分ではない」と回答している人の割合が 3 割から 4 割程度で、高いことがわかる。同様に、図 8-21 は、妻の情報の充足度合いをクラスター別に集計したものであるが、こちらも、クラスター 2 とクラスター 5 について、「情報が十分ではない」と回答している人の割合が高く、4 割を占めている。クラスター 2 は、要介助の人がいる世帯の割合が高く、経済的にも不安定なグループである。クラスター 5 は、要介助者がいる世帯の割合が比較的高く、なかでも、妻が要介助である世帯の割合が高いグループである。こうした層へ、行政サービスに関する情報を確実に届けていくことが求められよう。

図8－20 クラスター別 世帯主（夫）の情報充足

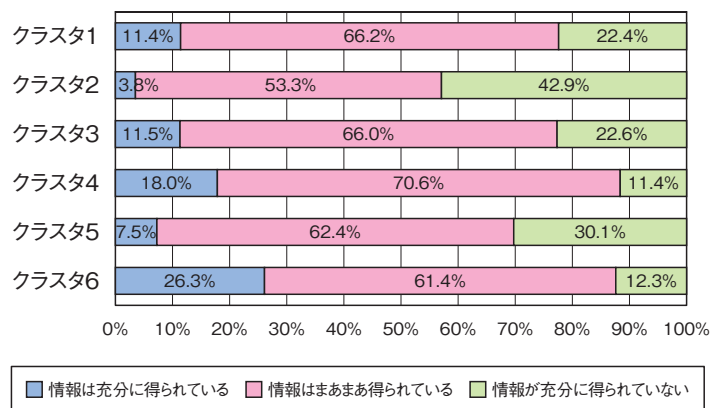
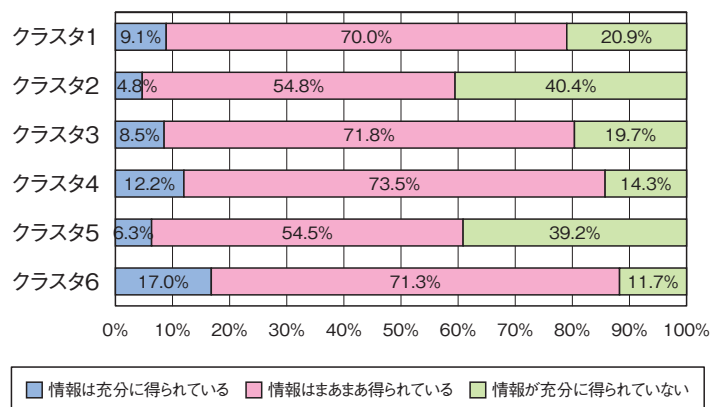


図8－21 クラスター別 同居者（妻）の情報充足





### (3) 親子世帯の生活状況

調査回答者のうち、518 ケース（19.3%）が親子世帯であった。親子世帯の生活状況について、調査から得られた結果を概観する。

#### ア 親子世帯の基本的特長

##### ①親の 8 割半が女性、子どもの 6 割が女性

親子世帯の親の性別は、1 割強が男性で 8 割半が女性である。子どもの性別は、男性が 4 割、女性が 6 割であった。

##### ②親は全員が 75 歳以上、子どもの 8 割半が 65 歳未満

本調査の対象は、世帯員のどちらかが 75 歳以上であることから、親は全員が 75 歳以上である。その内訳は、「75 歳以上 80 歳未満」が 3 割、「80 歳以上 85 歳未満」が 3 割弱、「85 歳以上 90 歳未満」が 2 割半であった。子どもは、「50 歳以上 55 歳未満」が 2 割、「45 歳以上 50 歳未満」、「55 歳以上 60 歳未満」、「60 歳以上 65 歳未満」が、それぞれ 17 ～ 18%を占めた。なお、平均年齢は、親が 83.6 歳、子どもが 54.8 歳であった。

##### ③ふたり暮らしの年数の平均は 27.5 年

ふたり暮らしの年数については、10 年未満の比較的短い世帯が 2 割半程度を占めた。平均年数は 27.5 年である。

##### ④持ち家率は 66.2%

親子世帯の持ち家率は、「持ち家（一戸建て）」が 3 割半、「持ち家（分譲マンション）」が 3 割、「都営・区営住宅」が 2 割弱である。

##### ⑤親は健康ではない人が 4 割、子どもは 4 割強が健康

健康状態が良いと感じている親は、全体のおよそ 2 割半程度で、4 割の親は健康ではないと感じている。子どもは、健康であると感じている人の割合が 4 割強で、健康ではないと回答した人は 2 割弱であった。

##### ⑥何らかの介助を必要とする親は 4 割、2 割半が介護保険サービスを利用

一部またはすべてに介助を必要としている親はおよそ 4 割である。また、親の 4 割は要支援または要介護認定を受けており、2 割半は介護保険サービスを利用している。子どもは、9 割半が介助を必要としていない。

##### ⑦親の 8 割は仕事をしていない、子どもの 6 割半は仕事をしている

仕事については、親の 8 割が現在は仕事をしていない。子どもは、全体で 6 割半が仕事をしている。また、子どもが 60 歳未満の場合には、およそ 7 割半が仕事をしており、60 歳以上でも、4 割半が仕事をしていると回答している。

##### ⑧家事分担は、親子で半々

家事については、買い物や炊事、洗濯、役所等での手続きなど、どの項目についても、親と子どもで半々程度の分担をしている。

⑨近所づきあいは親の方がやや親密 親子ともに男性より女性の方が親密な傾向

近所づきあいについては、子どもに比べて、親の方がやや親密な付き合いをする傾向にある。親の8割半を占める女性の場合、親密に近所づきあいをしている人はおよそ2割、「会った時に世間話をする」人は4割弱である。一方、男性(父親)の場合には、「あいさつをかわすくらい」が6割を占め、女性(母親)に比べて近所づきあいは希薄である。

子どもの近所づきあいは、親よりもやや希薄な傾向にある。女性の場合、「会ったときに世間話をする」人が3割強で、「あいさつをかわすくらい」と「まったくつきあいがいい」を合わせた5割半は近所づきあいが希薄である。男性の場合にはそれが7割弱にものぼり、女性よりも近所づきあいが希薄であることがわかる。

⑩緊急時の支援者がいない世帯は17% 正月三が日は6割が2人で過ごす

緊急時の支援者がいる世帯は8割、いない世帯は17%であった。また、正月三が日を2人だけで過ごした世帯は、全体の6割を占めた。

⑪外出頻度は子どもの方が高い 仕事をしている人の方が外出頻度が高い

外出頻度は、全体的に、親よりも子どもの方が高い。仕事をしている親は、仕事をしていない親に比べて外出頻度が高い。仕事をしている子どもは、「毎日」外出する人が6割半を占めている。

外出時の会話の程度は、親子とも同程度で、「普通」が4割半、会話する人が3割、会話しない人が2割半であった。

⑫社会的活動へは、親の5割、子どもの3割が参加

地域の団体や集まりへは、親の5割、子どもの3割が参加している。親が参加している活動は、「町会・自治会」が18%、「趣味の会」が14%、「健康づくりの会」が13%程度であった(複数回答)。子どもは「町会・自治会」が13%程度であった。

親の5割、子どもの7割が活動に参加していない。参加しない理由は、親は「体の調子が悪い」が2割強、子どもは「時間がない」が3割弱であった。また、子どものおよそ1割は、「親の世話をしなくてはならない」ことを社会活動に参加しない理由として挙げている。

今後、地域活動に参加したいとは思わない人の割合は、親子ともに4割前後であった。

⑬区の行政サービス等に関する情報が十分に得られていない人は、親の3割、子どもの3割半

区の行政サービス等に関する情報の充足度合いについては、親の7割、子どもの6割半は、おおむね得られていると回答している。親の3割、子どもの3割半は、情報を十分に得られていないと回答した。

⑭年間収入が250万円未満の世帯は4割

親の収入源は7割弱が年金、子どもの収入源は5割半が仕事による収入

親子世帯の年間収入については、最も割合が高かったのは「300万円以上500万円未満」で18%であった。一方、収入が250万円未満の世帯は4割であった。

経済状況については、「余裕はないが暮らしていくには困らない」と回答した世帯が5割強で、生活が苦しいを感じている世帯はおよそ4分の1程度であった。

主な収入源としては、親は7割弱が年金収入であり、子どもは5割半が仕事による収入である。

⑮家計の負担になっているのは、「税金」が3割、「家賃・住宅ローン」が2割

家計で負担となっている費目としては、「税金（固定資産税など）」と回答した世帯が3割であり、次いで「家賃・住宅ローンの返済」が2割、「ガス・電気・水道代」が1割半であった。

⑯将来の生活への安心感は親の方が高く、今のくらしのストレスは子どもの方が感じている

将来の生活について、親の3割強が安心できると感じており、子どもの2割弱との差が見られた。また、今のくらしについて、ストレスが多いと感じている親は2割程度であったが、子どもは4割半にのぼった。親の方が生活への安心感が高く、子どもの方がストレスをより感じている傾向にある。

⑰親子とも6割から7割半が将来の病気や介護について心配している

子どもは生活のための収入について心配する人が4割半

将来の不安や心配ごとについては、親子ともに、自身や互いの健康面について心配する人が多い。親の7割は自分の病気や介護について心配し、親の6割強は子どもの病気や介護について心配している。子どもの7割半は自分の病気や介護について心配し、子どもの7割弱は親の病気や介護について心配している。

また、子どもは生活のための収入について心配する人が4割半で、親の3割弱を大きく上回った。

## イ 介助の必要性と生活状況

①親子世帯のうち、親が要介助の世帯は4割

親子世帯のうち、親子ともに介助を必要としない世帯は全体の5割半であり、親のみが要介助の世帯は38%、子どものみが要介助の世帯および2人とも要介助の世帯はそれぞれ3%程度であった。

②親が要介助の世帯では、子どもの4割半が仕事をしていない

親が要介助の場合、親子ともに仕事をしている人の割合が低くなる。親は、介助を必要としない場合には、仕事をしていない人の割合は8割であるが、要介助の場合には9割弱であった。子どもは、親が介助を必要としない場合には、仕事をしていない人は2割半であったが、親が要介助の場合には4割半であった。

③親が要介助の世帯では、子どもの主な収入源は「仕事以外」が6割弱

子どもの主な収入源は、親が介助を必要としない場合には「仕事による収入」が6割強であるが、親が要介助の場合には4割強と低くなる。

④親が要介助の場合、親の近所づきあいはやや希薄化するが、子どもの近所づきあいはやや親密化する

親が要介助の場合、親自身の近所づきあいの程度は、互いの家を行き来するような比較的親密に付き合う人の割合が2割半から1割強に低下し、あいさつをかわす程度の付き合いをする人が3割強から4割強に増えている。子どもは、互いの家を行き来するような親密な付き合いをする人の割合は、親の介助の有無にかかわらずあまり変わらないが、「会ったときに世間話をするくらい」の人の割合は、親が介助を必要としない場合は2割であったものが、親が要介助の場合には3割半に増加する。また、あいあいさつをかわす程度の付き合いをする人が5割半から4割半に低下し、まったくつきあいがいない人は1割強から5%に低下している。

⑤親が要介助の場合、社会参加していない親は 6 割半、不参加の理由は 5 割が「体の調子が悪い」

親が要介助の場合には、親自身の社会活動への参加率が低くなり、およそ 6 割半は参加していないと回答している。参加しない理由は、介助を必要としない場合には「自分の興味を引くものがない」と「参加したくない」がそれぞれ 3 割を占めているが、要介助の場合には、「体の調子が悪い」と回答した人が 5 割で、「自分の興味を引くものがない」は 2 割、「参加したくない」は 3 割弱であった。

⑥親が要介助の場合、社会参加していない子どもの不参加の理由は 4 割が「親の世話」

子どもは、親の介助の要否にかかわらず、7 割前後が社会活動に参加していない。ただし、不参加の理由については、親が介助を必要としない場合には「時間がない」が 4 割強、「自分の興味を引くものがない」が 3 割半であったが、親が要介助の場合には、「時間がない」が 4 割のほかに、「親の世話をしなくてはならない」が 4 割であった。

⑦親が要介助の場合、外出頻度・外出時の会話の程度が少なくなる

親が要介助の場合には、親自身の外出頻度は少なくなり、外出頻度が週に 1 回以下の人の割合は 4 割にのぼる。また、外出時の会話の程度も少なくなり、会話が少ない人の割合は 3 割半を占め、介助を必要としない場合の 2 割弱に比べて高くなる。

子どもは、親の介助の有無にかかわらず、外出頻度や外出時の会話の程度には変わらない。

⑧親が要介助の場合、子どもは生活への不安やストレスを感じ、生活の充実感が低くなる

親が要介助の場合、親自身の生活意識は、全般的にマイナスの傾向を示す。生活への張り合いや充実感が少なく、近所づきあいや友人関係への満足感が低く、不安やストレスを感じる傾向にある。ただし、将来の生活への安心感については、介助の有無による差はない。

子どもは、親が要介助の場合には、生活への不安やストレス、充実感の度合いなどについて、マイナスの傾向を示すが、それ以外の意識面では親の介助の有無による影響は見られなかった。

⑨親が要介助の場合、親の将来の心配ごとは子どもの病気・介護が 7 割半

親が要介助の場合、親の将来の不安や心配ごととして、最も多くの人々が回答したのは「同居者(子ども)が病気になったり介護が必要となること」で、7 割半の人が回答した。親が介助を必要としない場合には、その割合は 5 割半程度であり、その差は大きい。ほかに、「頼れる人がいなくなること」についても、親が介助を必要としない場合には 2 割半程度であったが、親が要介助の場合には、4 割強にのぼった。ほか、「生活のための収入」と回答した人は、親が要介助の場合には 3 割であった。

⑩親が要介助の場合、子どもの将来の心配ごとは自分の病気・介護が 8 割半

親が要介助の場合、子どもの将来の不安や心配ごととして、最も多くの人々が回答したのは「自分が病気になったり介護が必要となること」で、8 割半の人が回答し、次いで「同居者(親)が病気になったり介護が必要となること」が 6 割であった。親が介助を必要としない場合には、その割合は 7 割弱であり、親の病気や介護を心配する人が 7 割強であった。そのほか、「生活のための収入」を心配ごととして挙げた人が、親が要介助の場合には 4 割半、介助を必要としない場合には 4 割強であった。



## ウ 親子世帯の生活状況の分類

### ①親子世帯の生活状況を示す5つの因子を抽出

因子分析により、親子世帯の生活状況を示す5の因子を抽出した。

表8-15は、親子の性別、親子の仕事の有無、親の介助の必要有無、住宅の種類ごとに、各因子得点の平均値を比較したものである。

親が男性である場合には、経済状況への安心感が高いが、女性の場合には、親自身の生活の充実感が高く、世帯全体の近所づきあいが安定傾向にある。

子どもが男性である場合には、世帯全体の不安やストレスは少ないものの、そのほかの因子得点の平均値はすべて低い。子どもが女性の場合、世帯全体で不安やストレスを感じやすい傾向にあるが、そのほかは安定傾向である。

親が仕事をしている世帯では、全体的に安定傾向にある。子どもが仕事をしていない世帯では、「近所づきあい」以外の因子得点が低い。とくに「子どもの生活の充実」が低く、経済状況への安心感も低い。

親が介助を必要としている世帯では、すべての因子得点の平均値が低い。

住宅の種類別には、「持ち家」である場合には、近所づきあいへの満足感を除いてすべての因子得点の平均値が高い。「民間賃貸・公的賃貸（UR等）住宅」に住む世帯は、すべての因子得点の平均値が低く、とくに「経済状況への安心感」が低い。「都営・区営住宅」に住む世帯の因子得点は、「近所づきあいへの満足」以外の因子得点が低い。

表8－15 条件別因子得点の平均値

|               |                        | 【親】<br>生活の充実 | 【子ども】<br>生活の充実 | 経済状況へ<br>の安心 | 近所づきあい<br>への満足 | 不安・ストレス<br>の少なさ |
|---------------|------------------------|--------------|----------------|--------------|----------------|-----------------|
| 親の<br>性別      | 男性【n=51】               | -0.071       | 0.023          | 0.248        | -0.327         | 0.005           |
|               | 女性【n=296】              | 0.014        | -0.001         | -0.039       | 0.052          | 0.000           |
| 子の<br>性別      | 男性【n=141】              | -0.074       | -0.146         | -0.108       | -0.054         | 0.017           |
|               | 女性【n=207】              | 0.051        | 0.099          | 0.074        | 0.037          | -0.012          |
| 親の<br>仕事      | 仕事をしている【n=63】          | 0.421        | -0.008         | 0.284        | 0.096          | 0.140           |
|               | 仕事はしていない【n=272】        | -0.104       | 0.001          | -0.070       | -0.033         | -0.049          |
| 子の<br>仕事      | 仕事をしている【n=236】         | 0.039        | 0.123          | 0.066        | -0.030         | 0.003           |
|               | 仕事はしていない【n=102】        | -0.107       | -0.286         | -0.190       | 0.076          | -0.029          |
| 親の<br>介助      | 介助を必要としていない【n=201】     | 0.267        | 0.092          | 0.116        | 0.086          | 0.171           |
|               | 介助を必要としている【n=139】      | -0.370       | -0.106         | -0.153       | -0.112         | -0.250          |
| 住宅<br>の<br>種類 | 持ち家【n=225】             | 0.093        | 0.103          | 0.226        | -0.012         | 0.091           |
|               | 民間賃貸・公的賃貸（UR等）住宅【n=33】 | -0.121       | -0.025         | -0.470       | -0.066         | -0.105          |
|               | 都営・区営住宅【n=70】          | -0.302       | -0.324         | -0.550       | 0.112          | -0.297          |
|               | その他【n=19】              | 0.183        | 0.016          | 0.133        | -0.159         | 0.169           |

※無回答は集計から除く。

### ②親の生活状況の分類

因子分析で得られた因子得点を用いて、非階層的クラスター分析（K-means法）を行い、親の生活状況を5つのクラスターに分類した。クラスターごとのケース数と構成割合、および各因子得点の平均値を集計したものが表6-27（再掲）である。

表6－27（再掲） 【親子】 各クラスターのケース数と因子得点の平均値

|                  | クラスタ1  | クラスタ2  | クラスタ3 | クラスタ4  | クラスタ5  | 合計     |
|------------------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|
| ケース数             | 57     | 65     | 86    | 68     | 72     | 348    |
| %                | 16.4%  | 18.7%  | 24.7% | 19.5%  | 20.7%  | 100.0% |
| 第1因子 親の生活の充実     | 0.168  | -1.254 | 0.850 | -0.393 | 0.355  | 0.000  |
| 第2因子 子どもの生活の充実   | -0.892 | -0.941 | 0.837 | 0.410  | 0.169  | 0.000  |
| 第3因子 経済状況への安心    | -0.677 | -1.029 | 0.781 | -0.039 | 0.568  | 0.000  |
| 第4因子 近所づきあいへの満足  | 0.412  | -0.763 | 0.738 | 0.245  | -0.750 | 0.000  |
| 第5因子 不安・ストレスの少なさ | -0.381 | -0.940 | 0.854 | -0.381 | 0.491  | 0.000  |

クラスタ1（57 ケース）は、親は生活への充実感があり、近所づきあいへの満足感も高いが、子どもの生活の充実感に乏しく、経済状況への不安があるグループである。

クラスタ2（65 ケース）は、すべての因子得点の平均値が低く、親子ともに生活への充実感がなく、不安やストレスを感じている不安定なグループである。

クラスタ3（86 ケース）は、すべての因子得点の平均値が高く、安定しているグループである。

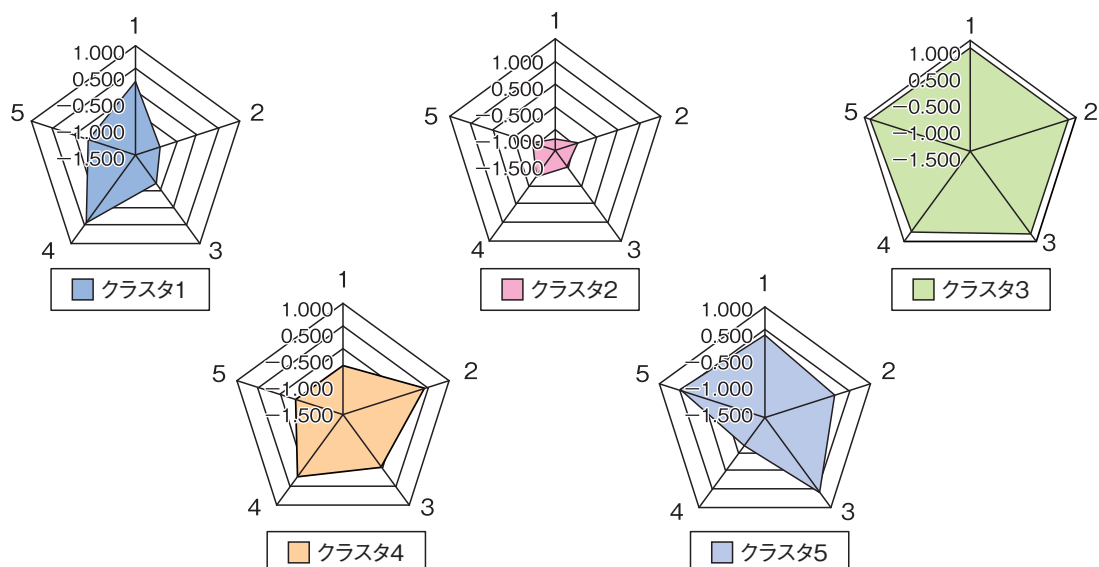
クラスタ4（68 ケース）は、子どもの生活は比較的充実しており、近所づきあいへの満足感もあるが、親の生活の充実感がやや低く、不安やストレスを感じているグループである。

クラスタ5（72 ケース）は、近所づきあいへの満足感が低い以外は安定しているグループである。

表6－28（再掲） 各クラスタの特徴

|       |                                         |
|-------|-----------------------------------------|
| クラスタ1 | 親の生活への充実感が高いが、子どもの生活への充実感が低く、経済的に不安定    |
| クラスタ2 | 親子ともに生活への充実感がなく、不安やストレスがある              |
| クラスタ3 | 親子ともに生活への充実感があり、安定している                  |
| クラスタ4 | 子どもの生活への充実感が高いが、親の生活への充実感が低く、不安やストレスがある |
| クラスタ5 | 親子ともに生活への充実感が高く、経済的にも安定しているが、近所づきあいが薄い  |

図6－40（再掲） 親子世帯各クラスタの特徴とグループ（レーダーグラフ）



|   |            |   |             |
|---|------------|---|-------------|
| 1 | 親の生活の充実感   | 4 | 近所づきあいへの満足  |
| 2 | 子どもの生活の充実感 | 5 | 不安・ストレスの少なさ |
| 3 | 経済状況への安心感  |   |             |

これら5つのクラスタ別に、親子の性別、親子の仕事、親の介助の有無、住宅の種類、緊急時支援者の有無、家族・親族との行き来の有無のそれぞれについてクロス集計を行い、その特徴を見た(表8-16)。

親の性別は、どのクラスタも女性が圧倒的に多く、男性が少ない。構成割合に差はあるものの、統計上は各クラスタ間に差があるとはいえない。一方、子どもの性別については、クラスタ間に有意な差が見られる。なかでも、クラスタ2とクラスタ5は、男性が比較的多く、クラスタ4は女性の割合が高いことが特徴である。

親が現在も仕事をしている世帯の割合は、クラスタ1とクラスタ3で高く、クラスタ2は最も低い。子どもの仕事の有無については、クラスタ間に差は見られなかった。

親が介助を必要としている世帯の割合が高いのは、クラスタ2とクラスタ4である。クラスタ3は、親が介助を必要としている世帯の割合がもっとも低い。

持ち家率が最も高かったのは、クラスタ5で、最も低かったのはクラスタ1である。クラスタ1は、「都営・区営住宅」に居住する世帯が多い。また、クラスタ2とクラスタ4は、民間賃貸・公的賃貸(UR等)住宅に居住する人が他のクラスタより多かった。

緊急時の支援者がいない世帯が多いのは、クラスタ2とクラスタ4である。クラスタ5は、緊急時の支援者がいない世帯数が12.7%で、最も少なかった。

家族や親族との普段の行き来の有無については、クラスタ2が「誰ともほとんど行き来をしていない」世帯の割合が最も高く、クラスタ4、クラスタ5がそれに続いた。

表8-16 クラスタ別クロス集計

|               |                  | クラスタ1 |        | クラスタ2 |        | クラスタ3 |        | クラスタ4 |        | クラスタ5 |        |
|---------------|------------------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|
|               |                  | 実数    | %      | 実数    | %      | 実数    | %      | 実数    | %      | 実数    | %      |
| 親の性別          | 男性               | 5     | 8.9%   | 10    | 15.4%  | 13    | 15.1%  | 7     | 10.3%  | 16    | 22.2%  |
|               | 女性               | 51    | 91.1%  | 55    | 84.6%  | 73    | 84.9%  | 61    | 89.7%  | 56    | 77.8%  |
|               | 合計               | 56    | 100.0% | 65    | 100.0% | 86    | 100.0% | 68    | 100.0% | 72    | 100.0% |
| 子の性別          | 男性               | 21    | 36.8%  | 34    | 52.3%  | 33    | 38.4%  | 18    | 26.5%  | 35    | 48.6%  |
|               | 女性               | 36    | 63.2%  | 31    | 47.7%  | 53    | 61.6%  | 50    | 73.5%  | 37    | 51.4%  |
|               | 合計               | 57    | 100.0% | 65    | 100.0% | 86    | 100.0% | 68    | 100.0% | 72    | 100.0% |
| 親の仕事          | 仕事をしている          | 15    | 27.3%  | 6     | 9.5%   | 21    | 25.6%  | 8     | 12.1%  | 13    | 18.8%  |
|               | 仕事はしていない         | 40    | 72.7%  | 57    | 90.5%  | 61    | 74.4%  | 58    | 87.9%  | 56    | 81.2%  |
|               | 合計               | 55    | 100.0% | 63    | 100.0% | 82    | 100.0% | 66    | 100.0% | 69    | 100.0% |
| 子の仕事          | 仕事をしている          | 33    | 60.0%  | 42    | 64.6%  | 61    | 73.5%  | 49    | 75.4%  | 51    | 72.9%  |
|               | 仕事はしていない         | 22    | 40.0%  | 23    | 35.4%  | 22    | 26.5%  | 16    | 24.6%  | 19    | 27.1%  |
|               | 合計               | 55    | 100.0% | 65    | 100.0% | 83    | 100.0% | 65    | 100.0% | 70    | 100.0% |
| 親の介助          | 介助を必要としていない      | 35    | 63.6%  | 26    | 41.3%  | 66    | 77.6%  | 30    | 44.1%  | 44    | 63.8%  |
|               | 介助を必要としている       | 20    | 36.4%  | 37    | 58.7%  | 19    | 22.4%  | 38    | 55.9%  | 25    | 36.2%  |
|               | 合計               | 55    | 100.0% | 63    | 100.0% | 85    | 100.0% | 68    | 100.0% | 69    | 100.0% |
| 住宅の種類         | 持ち家・その他          | 31    | 54.4%  | 40    | 61.5%  | 66    | 76.7%  | 46    | 67.6%  | 61    | 85.9%  |
|               | 民間賃貸・公的賃貸(UR等)住宅 | 5     | 8.8%   | 7     | 10.8%  | 7     | 8.1%   | 9     | 13.2%  | 5     | 7.0%   |
|               | 都営・区営住宅          | 21    | 36.8%  | 18    | 27.7%  | 13    | 15.1%  | 13    | 19.1%  | 5     | 7.0%   |
|               | 合計               | 57    | 100.0% | 65    | 100.0% | 86    | 100.0% | 68    | 100.0% | 71    | 100.0% |
| 緊急時<br>有無     | いる               | 48    | 85.7%  | 45    | 69.2%  | 74    | 86.0%  | 50    | 74.6%  | 62    | 87.3%  |
|               | いない              | 8     | 14.3%  | 20    | 30.8%  | 12    | 14.0%  | 17    | 25.4%  | 9     | 12.7%  |
|               | 合計               | 56    | 100.0% | 65    | 100.0% | 86    | 100.0% | 67    | 100.0% | 71    | 100.0% |
| 家族<br>行き<br>来 | 行き来がある           | 52    | 91.2%  | 47    | 72.3%  | 79    | 91.9%  | 56    | 83.6%  | 59    | 85.5%  |
|               | 誰ともほとんど行き来がない    | 5     | 8.8%   | 18    | 27.7%  | 7     | 8.1%   | 11    | 16.4%  | 10    | 14.5%  |
|               | 合計               | 57    | 100.0% | 65    | 100.0% | 86    | 100.0% | 67    | 100.0% | 69    | 100.0% |

#### (4) 親子世帯の生活状況の分析

これまでに得られた結果を用いて、親子ふたり暮らしの世帯の生活状況について、親の介助の有無、経済状況、情報の充足の3点から分析したい。

##### ア 親の介助の有無と親子世帯の生活

親子世帯のうち、親が介助を必要とする世帯は4割程度である。夫婦世帯の場合に比べて、介助を要する人がいる世帯の割合が高い。ふたり暮らしの年数が比較的短い世帯が多いことから、親が要介助の状態になったことをきっかけに、親子で暮らすようになった世帯があるのではないかと推測できる。

さて、親が要介助となると、多くの場合子どもがその生活支援をしていると考えられる。それにより、子どもの生活状況がどのように変化し、また、親子世帯の生活状況にどのような影響をもたらすのか、以下分析していく。

たとえば子どもの仕事である。全体では、子どもの65.6%は現在もなんらかのかたちで仕事をしていると回答しているが、親が要介助の場合にはどうだろうか。図8-22は、親の介助の有無別に子どもの仕事の有無を集計したものである。親が要介助である場合、子どもは仕事をしていない人の割合が高くなることがわかる。

その背景には、親が要介助の世帯の子どもの高年齢化がある。一般に、会社等の定年は60歳であることから、60歳をめやすに子どもの年齢を大きく2つに区分すると、子どもの7割弱が60歳未満で、3割程度が60歳以上であることがわかる。それを、さらに親の介助の有無別に集計すると、親が介助を必要としない場合には、子どもの8割が60歳未満で若いが、親が要介助の場合には、子どものおよそ半分が60歳以上となる。60歳以上の子どもの53%は、現在仕事をしていないと回答している。親が介助を必要とするような年齢になるころには、子ども自身も高齢化している。親の介助の有無をきっかけにというよりは、子ども自身が一般的な定年の年齢（60歳）を超えていることから、仕事をしていない人の割合が高くなるのではないかと考えられる。

仕事をしていない場合、気にかか

図8-22 親の介助有無別 子どもの仕事の有無

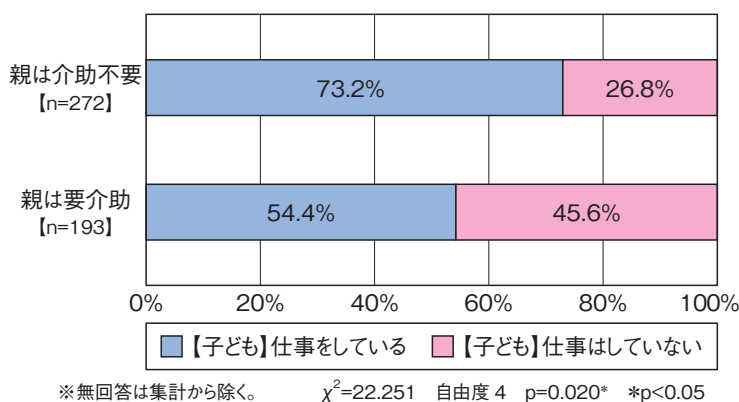


図8-23 子どもの仕事の有無別 子どもの主な収入源

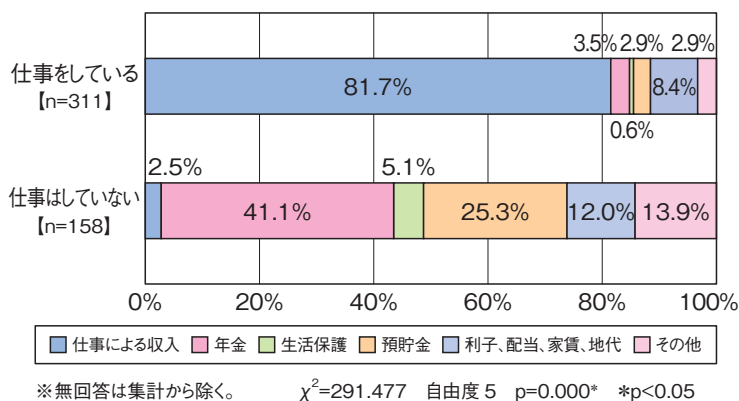
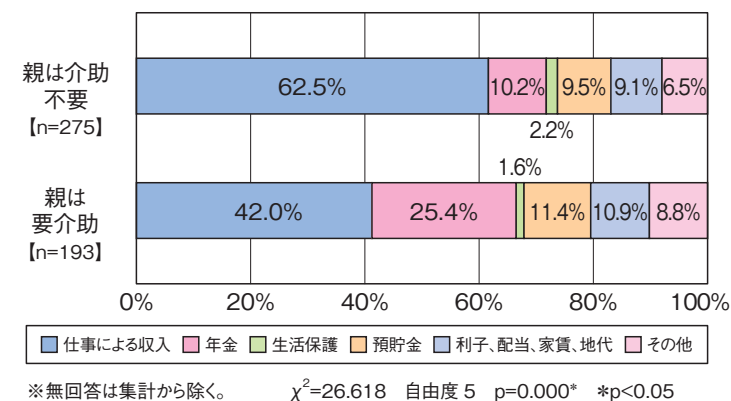


図8-24 親の介助の有無別 子どもの主な収入源





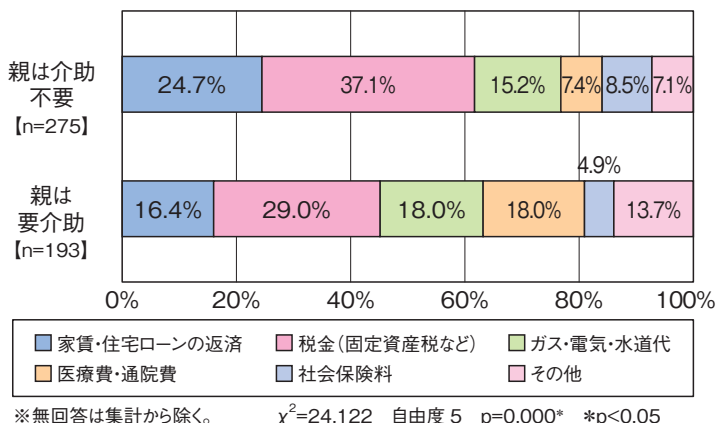
るのは収入についてである。子どもの主な収入源は(図 8-23)、仕事をしていれば「仕事による収入」が最も多く、8 割を占める。しかし、仕事をしていない場合には、「仕事による収入」はわずか 2.5% となり、大半を「年金」(41.1%)が占めるようになる。次いで、「預貯金」が 25.3%を占めている。

親の介助の有無別に、子どもの主な収入源を集計した図 8-24 を見ると、親が介助を必要としない場合には、子どもの主な収入源は 62.5%が「仕事による収入」であり、「年金」は 10.2%であった。しかし、親が要介助の場合には、「仕事による収入」は 42.0%に下がり、「年金」が 25.4%を占めている。親が要介助の世帯の子どもは、半数以上が仕事をしていないことから、収入源にも変化が生じていることがわかる。

では支出の面ではどうであろうか。

図8－25 親の介助の有無別 家計の負担の大きい費目

図 8-25 は、家計の負担の大きい費目について、親の介助の有無別に集計したものである。親が介助を必要としない場合には、最も割合が高かったのは「税金(固定資産税など)」で 37.1%を占め、次いで「家賃・住宅ローンの返済」が 24.7%、「ガス・電気・水道代」が 15.2%であった。親が要介助の場合には、「税金」29.0%で最も高く、次いで「ガス・電気・水道代」と「医療費・通院費」がそれぞれ



18.0%を占めており、「家賃・住宅ローンの返済」が 16.4%で、全体に分散した。この調査項目は、家計の中で負担に感じる費目を 1 つ選択してもらうスタイルでたずねているもので、実際にかかった費用の多寡をたずねているのではない。年金収入が限られているなかで、親が要介助の世帯では、家賃などの固定費のほかに、医療費・通院費の負担が大きくなっていることがうかがえる。

ところで、世帯の経済状況の感じ方については、親の介助の有無による違いは見られなかった。しかし、因子分析により抽出された因子のうち、「経済状況への安心」を示す第 3 因子については、親の介助の有無により違いが見られる。表 8-17 は、親の介助の有無別に、各因子得点の平均値を集計したものである。このうち、「経済状況への安心」を見ると、親が介助を必要としない場合には、その平均値は 0.116 であるが、親が要介助の場合には -0.153 と低い。親の介助により、世帯の経済状況の将来的な安心感に、少なからず影を落としていることがわかる。

表8－17 親の介助の必要有無別 因子得点の平均値

|             | 【親】<br>生活の充実 | 【子ども】<br>生活の充実 | 経済状況への<br>安心 | 近所づきあいへの<br>満足 | 不安・ストレス<br>の少なさ |
|-------------|--------------|----------------|--------------|----------------|-----------------|
| 介助を必要としていない | 0.267        | 0.092          | 0.116        | 0.086          | 0.171           |
| 介助を必要としている  | -0.370       | -0.106         | -0.153       | -0.112         | -0.250          |
| 全体          | 0.007        | 0.011          | 0.006        | 0.005          | -0.001          |

さて、先のクラスター分析により、親子世帯を 5 つのクラスタに分類することができた。そのうち、最も生活が安定しているクラスタ 3 は、親が要介助である世帯数が最も少なく、85 世帯中 19 世帯である。反対に、すべての因子得点の平均値が低いクラスタ 2 は、親が要介助である世帯が半数を超えている。親が要介助であるということが、親子世帯の生活状況に影響を与えるひとつの要因となっていることがわかる。

しかし、親が要介助であるだけで、すべての親子世帯の生活状況が困難になるわけではない。た

例えば、クラスタ4は親が要介助の世帯が半数を超え、クラスタ2と同程度である。親の生活への充実感はクラスタ2に次いで低く、また、不安やストレスも感じやすい傾向にある。しかし、子どもの生活の充実感や、経済状況への安心感、近所づきあいへの満足度は平均かそれ以上に高く、安定している。その背景には、生活基盤としての住宅の安定性や、生活を支える人的ネットワークの充実の程度があるのではないだろうか。住宅の種類を比較すると、クラスタ2は「都営・区営住宅」に居住する世帯数がクラスタ4よりもやや多く、また、家族や親族との行き来が「ほとんどない」と回答している世帯がやや多い。また、近所づきあいについて、「近所づきあいをしている」（「互いの家を行き来する」と「ときどき行き来する」を合わせたもの）、「会えば世間話をする」、「あまり付き合いがない」（「あいさつをかわすくらい」「まったくつきあいがない」を合わせたもの）の3つに区分したものを、クラスタ別に集計した表8-18を見ると、クラスタ2は「あまり付き合いがない」世帯が多く、クラスタ4は少ないことがわかる。

図8-26 クラスタ2・3・4の比較

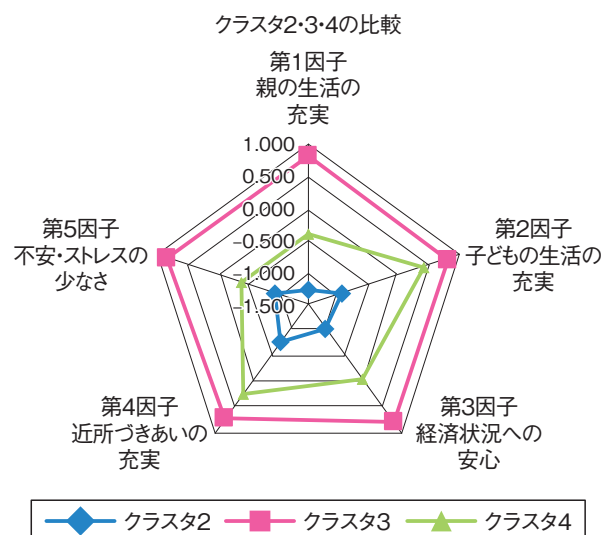


表8-18 クラスタ別 近所づきあいの程度（3区分）

|                 | クラスタ1 |        | クラスタ2 |        | クラスタ3 |        | クラスタ4 |        | クラスタ5 |        |
|-----------------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|
|                 | 実数    | %      | 実数    | %      | 実数    | %      | 実数    | %      | 実数    | %      |
| 近所づきあいをしている     | 7     | 12.3%  | 3     | 4.6%   | 11    | 12.8%  | 12    | 17.6%  | 0     | 0.0%   |
| 会ったときに世間話をするくらい | 15    | 26.3%  | 16    | 24.6%  | 35    | 40.7%  | 19    | 27.9%  | 11    | 15.3%  |
| あまり付き合いがない      | 35    | 61.4%  | 46    | 70.8%  | 40    | 46.5%  | 37    | 54.4%  | 61    | 84.7%  |
| 合計              | 57    | 100.0% | 65    | 100.0% | 86    | 100.0% | 68    | 100.0% | 72    | 100.0% |

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=34.809$  自由度 8  $p=0.000^*$  \*  $p<0.05$

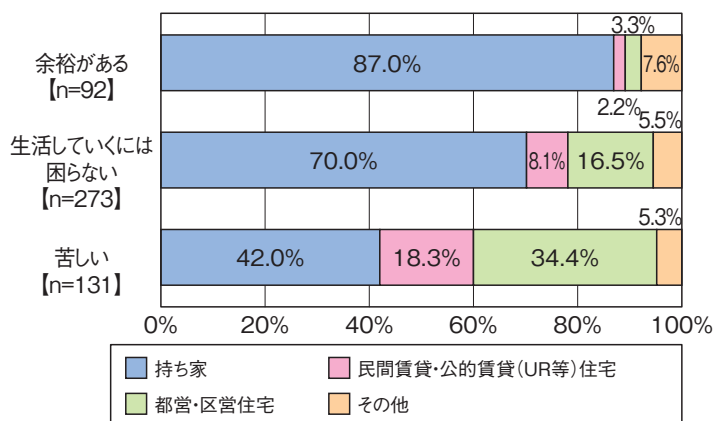
以上のことから、親が要介助であることに加え、住宅の種類や、家族・親族とのつながり、近所とのつながりなど、生活を支える条件や基盤の弱さなどが複合的に関係しあうことで、より生活の困難さを抱えやすくなると考えられる。

## イ 親子世帯の生活と経済状況

次に、親子世帯の生活を経済状況の視点から見ていきたい。生活を安定させる基盤となるのは、住宅や経済状況である。住宅と経済状況との関連は深く、親子世帯の場合においても、図8-27に見るように、経済状況に余裕があると感じているグループのほうが、持ち家率が高いことがわかる。

また、経済状況の違いは、生活意識にもかかわってくる。子どもの生活

図8-27 経済状況（3区分）別 住宅の種類



※無回答は集計から除く。  $\chi^2=64.622$  自由度 6  $p=0.000^*$  \*  $p<0.05$

意識を示す 10 項目を、経済状況別に集計し、その平均値を比較したところ（付表 9）、どの意識についても、経済状況が良い方が平均値が高く安定しており、経済状況が苦しい場合には、平均値が低くなっており、分散分析の結果、すべての意識について、このグループ間の差は統計的に有意であることが認められている（付表 11）。また、等分散性の仮定を満たさない項目もあったことから、ノンパラメトリック検定（Kruskal-Wallis の検定）を行い、それによっても有意差が認められている。

表 8-19 は、子どもの生活意識を経済状況別に集計したものの一部を抜粋したものである。また、図 8-28 と図 8-29 は、それらをエラーバーにより図示したものである。

表 8-19 子どもの生活意識と経済状況の感じ方（3区分） 記述統計（抜粋）

|                |          | 度数  | 平均値  | 標準偏差  | 標準誤差  | 平均値の 95% 信頼区間 |      |
|----------------|----------|-----|------|-------|-------|---------------|------|
|                |          |     |      |       |       | 下限            | 上限   |
| 今の暮らしには張り合いがある | 余裕がある    | 90  | 3.84 | 0.718 | 0.076 | 3.69          | 3.99 |
|                | 生活には困らない | 265 | 3.45 | 0.956 | 0.059 | 3.33          | 3.56 |
|                | 苦しい      | 122 | 2.81 | 0.982 | 0.089 | 2.64          | 2.99 |
|                | 合計       | 477 | 3.36 | 0.987 | 0.045 | 3.27          | 3.45 |
| 将来の生活は安心できる    | 余裕がある    | 90  | 3.24 | 0.987 | 0.104 | 3.04          | 3.45 |
|                | 生活には困らない | 263 | 2.66 | 0.927 | 0.057 | 2.55          | 2.77 |
|                | 苦しい      | 121 | 1.73 | 0.856 | 0.078 | 1.57          | 1.88 |
|                | 合計       | 474 | 2.53 | 1.057 | 0.049 | 2.44          | 2.63 |

「今の暮らしには張り合いがある」について、「余裕がある」グループの平均値は 3.84 で、「生活していくには困らない」グループの平均値は 3.45、「苦しい」グループの平均値は 2.81 である。経済状況が苦しい方が平均値が低いことが見て取れる。同様に、「将来の生活は安心できる」についても、「余裕がある」グループの平均値は 3.24、「生活していくには困らない」グループでは 2.66、「苦しい」グループでは 1.73 であり、経済状況が苦しいグループほど、将来の生活への安心感に乏しいことがわかる。なお、これらの結果についても、多重比較の検定（Bonferroni 法）において、5%水準で有意であることが認められている。

図 8-28 【子ども】今の暮らしには張り合いがある

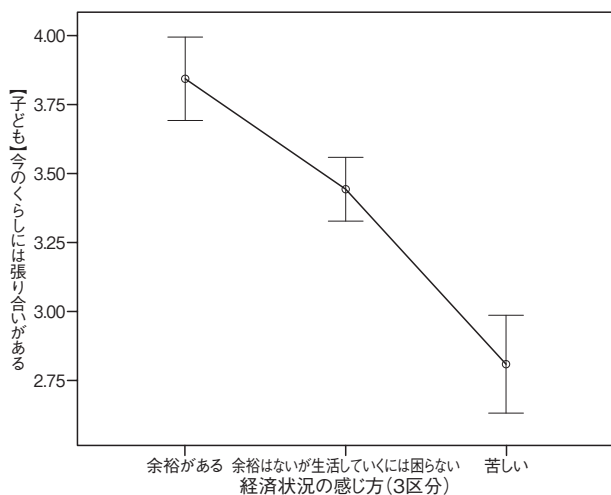
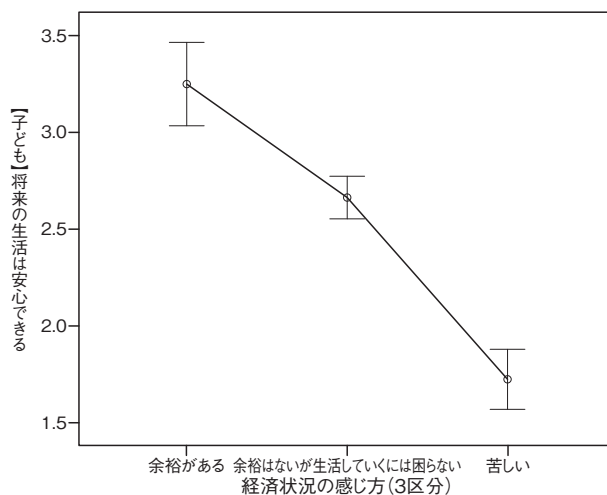


図 8-29 【子ども】将来の生活は安心できる



子どもは、将来の心配ごととして「生活のための収入」を挙げる人が多い（44.6%）。とくに、現在の経済状況が良くないと感じている世帯の子どもほど、心配ごととして「生活のための収入」を挙げている人の割合が高い（表 8-20）。経済基盤の安定性が、現在および将来の生活の安定に連なっていることがわかる。

表8-20 経済状況の感じ方（3区分）別「生活のための収入について」選択の有無

|         | 余裕がある |        | 生活していくには困らない |        | 苦しい |        |
|---------|-------|--------|--------------|--------|-----|--------|
|         | 実数    | %      | 実数           | %      | 実数  | %      |
| 選択していない | 76    | 84.4%  | 162          | 60.7%  | 30  | 23.4%  |
| 選択した    | 14    | 15.6%  | 105          | 39.3%  | 98  | 76.6%  |
| 合計      | 90    | 100.0% | 267          | 100.0% | 128 | 100.0% |

ところで、クラスター分析により分類した5つのクラスターのうち、クラスター1とクラスター2は、「経済状況への安心感」の値が低い。どちらのクラスターも、持ち家率が他のクラスターよりも低く、「現在仕事をしていない」子どもが比較的多い。その背景には、子どもの健康状態がある。表8-21は、クラスター別に子どもの健康状態を集計したものである。クラスター1とクラスター2は、健康状態が「良くない」（「あまり良くない」と「良くない」を合わせたもの）と回答した人がそれぞれ19人、23人で、他のクラスターに比べて多い。子どもの健康状態が仕事の有無にかかわり、そして経済状況にも影響を及ぼしていると考えられる。

表8-21 クラスター別 子どもの健康状態（3区分）

|      | クラスター1 |        | クラスター2 |        | クラスター3 |        | クラスター4 |        | クラスター5 |        |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|      | 実数     | %      | 実数     | %      | 実数     | %      | 実数     | %      | 実数     | %      |
| 良い   | 14     | 24.6%  | 12     | 18.5%  | 61     | 70.9%  | 29     | 42.6%  | 41     | 56.9%  |
| 普通   | 24     | 42.1%  | 30     | 46.2%  | 21     | 24.4%  | 32     | 47.1%  | 23     | 31.9%  |
| 良くない | 19     | 33.3%  | 23     | 35.4%  | 4      | 4.7%   | 7      | 10.3%  | 8      | 11.1%  |
| 合計   | 57     | 100.0% | 65     | 100.0% | 86     | 100.0% | 68     | 100.0% | 72     | 100.0% |

※無回答は集計から除く。  $\chi^2=34.809$  自由度8  $p=0.000^*$  \*  $p<0.05$

## ウ 親子世帯の生活と情報の充足

親子世帯の親について、区の保健福祉サービスの利用有無を集計したものが表8-22である。この表によれば、区の保健福祉サービスを「利用している」と回答した人は22.1%で、77.9%は「利用していない」と回答している。これを、ひとり暮らし高齢者の場合と比較したい。表8-23は、平成23年に実施した「港区におけるひとり暮らし高齢者の生活と意識に関する調査」（港区政策創造研究所）の結果を用いて、65歳以上75歳未満と、75歳以上の大きく2つの年齢区分ごとに、区の保健福祉サービスの利用有無を集計したものである。これによれば、ひとり暮らしの場合には、65歳以上75歳未満の前期高齢者のうち、22.8%がサービスを「利用している」、77.2%がサービスを「利用していない」と回答している。また、75歳以上の後期高齢者の場合には、サービスを「利用している」人の割合は46.2%である。

親子世帯の親は全員が75歳以上の後期高齢者である。ひとり暮らしの後期高齢者に比べて、サービスを利用している人の割合が低いことがわかる。

ここでいう「区の保健福祉サービス」の一覧は表8-24のとおりである。これらのサービスは2人世帯の高齢

表8-22 【親】区の保健福祉サービスの利用有無

|              | 実数  | %      |
|--------------|-----|--------|
| サービスを利用している  | 102 | 22.1%  |
| サービスを利用していない | 359 | 77.9%  |
| 合計           | 461 | 100.0% |

※無回答は集計から除く。

表8-23 【ひとり暮らし高齢者】年齢別サービス利用の有無（参考）

|         | 65歳以上75歳未満 |        | 75歳以上 |        |
|---------|------------|--------|-------|--------|
|         | 実数         | %      | 実数    | %      |
| 利用している  | 303        | 22.8%  | 975   | 46.2%  |
| 利用していない | 1,028      | 77.2%  | 1,134 | 53.8%  |
| 合計      | 1,331      | 100.0% | 2,109 | 100.0% |

※無回答は集計から除く。

$\chi^2$ 値=192.438 自由度1  $p$ 値=0.000\* \*  $p<0.05$



者も対象となっており、たとえば、日中は子どもが仕事に出かけているなどしてひとりになってしまう、いわゆる「日中独居」の高齢者もサービスを利用することができる。2人世帯の親は、子どもとの同居であることから、これらのサービスの利用の必要を感じていないか、あるいは、ニーズはあってもサービス対象であることを知らなかったり、サービスそのものの情報を得ていない場合もあると考えられる。

このような情報をどこから得ているのかについて、親子別に集計したものが図 8-30 である。親子ともに「広報みなと」の割合が高く、そのほかに「区の刊行物」や「回覧板」、「テレビ」、「新聞・雑誌」と続いている。また、親は「家族・親族」から情報を得ることも多く、子どもは「インターネット」から情報得ている人が2割いる。ほか、生活に密着した情報は、人づてに、いわゆる口コミで得られることも多いが、「近所の人」や「友人・知人」からも情報を得ている人は、親の場合にはそれぞれ1割程度いた。

こうした情報の充足度合いについては、親の3割、子どもの3割半が「充分ではない」と感じていることはすでに見た。情報を発信する媒体は多数あるものの、情報が行き届いていない面もあるのではないかと考えられる。

この情報の充足度合いを、親子のクラスタ別に集計した(表 8-25)。

表8－24 区の保健福祉サービス（調査票記載のもの）

|    |                            |
|----|----------------------------|
| 1  | 緊急通報システム                   |
| 2  | 配食サービス                     |
| 3  | 訪問電話                       |
| 4  | 会食サービス                     |
| 5  | 家事援助サービス                   |
| 6  | 救急情報の活用支援（救急医療情報キット）       |
| 7  | 災害時要援護者登録                  |
| 8  | 孫の手サービス【シルバー人材センター提供】      |
| 9  | ひとり暮らし高齢者等見守り事業【社会福祉協議会提供】 |
| 10 | その他                        |

図8－30 親子別 主な情報源（複数回答）

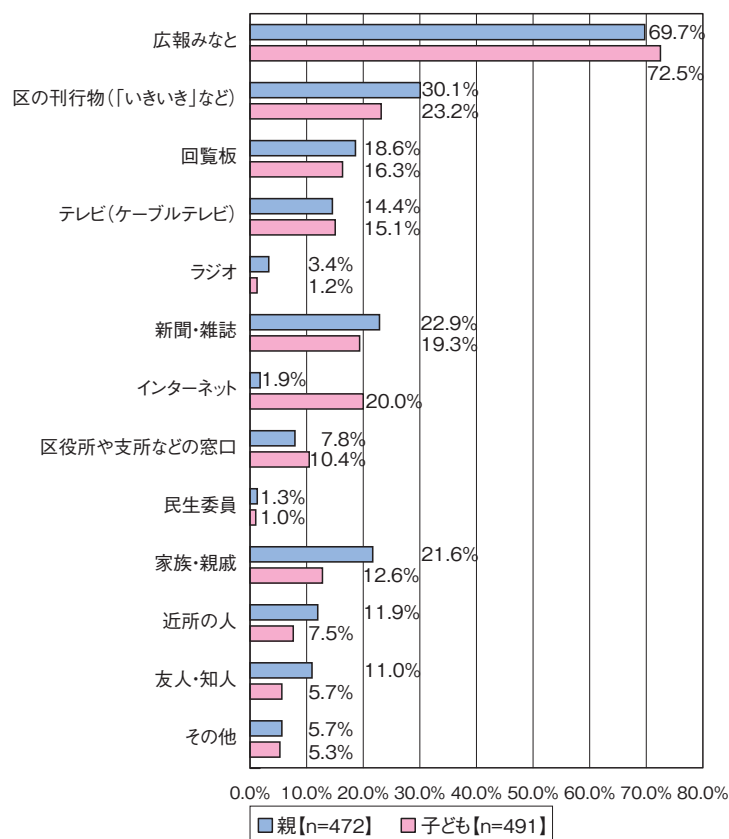


表8－25 クラスタ別クロス集計

|        |               | クラスタ 1 |        | クラスタ 2 |        | クラスタ 3 |        | クラスタ 4 |        | クラスタ 5 |        |
|--------|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|        |               | 実数     | %      | 実数     | %      | 実数     | %      | 実数     | %      | 実数     | %      |
| 親の情報充足 | 情報は得られている     | 45     | 78.9%  | 28     | 44.4%  | 71     | 82.6%  | 42     | 65.6%  | 53     | 75.7%  |
|        | 情報が十分に得られていない | 12     | 21.1%  | 35     | 55.6%  | 15     | 17.4%  | 22     | 34.4%  | 17     | 24.3%  |
|        | 合計            | 57     | 100.0% | 63     | 100.0% | 86     | 100.0% | 64     | 100.0% | 70     | 100.0% |
| 子の情報充足 | 情報は得られている     | 28     | 49.1%  | 29     | 45.3%  | 63     | 73.3%  | 48     | 72.7%  | 53     | 73.6%  |
|        | 情報が十分に得られていない | 29     | 50.9%  | 35     | 54.7%  | 23     | 26.7%  | 18     | 27.3%  | 19     | 26.4%  |
|        | 合計            | 57     | 100.0% | 64     | 100.0% | 86     | 100.0% | 66     | 100.0% | 72     | 100.0% |

このうち、クラスタ2は、親子ともに情報が充分ではないと回答している人が半数を超えている。また、クラスタ1は、子どもの半数が、情報が充分に得られていないと回答している。クラスタ1とクラスタ2に共通しているのは、子どもの健康状態が良くないということである。クラスタ2は、それに加えて、親が要介助の状態である。健康状態が悪くなったり、介助を必要とする状態であることにより、たとえば近所づきあいが疎遠になったり、行政サービスに関する情報を得るために役所に出向いたり、インターネットなどを活用することが困難になっていることも考えられる。

この分析結果からは、親が要介助であったり、子どもの健康状態が悪くない場合など、より行政サービスを必要としているのにもかかわらず、そうした情報を収集することが難しくなっているというジレンマに陥っている世帯があるという可能性も指摘できるだろう。こうした層に対して、その状況を把握すること、そしていかに情報を届けるのかを検討することが重要となる。

## 2 75歳以上高齢者を含む世帯の社会的孤立リスクについて

つづいて、今回の調査対象世帯における社会的孤立のリスクについて分析を行う。急病等の危険性がある高齢者を含む世帯にとって、社会的に孤立した状況を回避し、まわりからの支援が得られる環境を構築していくことは、安定した生活を送っていくために重要であると言える。しかし、調査の結果、夫婦世帯の13.1%、親子世帯の17.0%が緊急時の支援者がいないと回答するなど、社会的孤立の可能性のある世帯が一定数存在していることがわかった。これらのことから、どのような生活状況が世帯の社会的孤立リスクの有無を規定しているかを検討するため、社会的孤立リスク変数を2値変数で作成し、それらに影響を持つと思われる生活状況を説明変数としてロジスティック回帰分析を行った。その分析過程及び結果について記述をしていく。

### (1) 社会的孤立リスク変数の作成

世帯の社会的孤立リスクの有無を判断する変数を作成するため、「世帯の日常の困りごとを手伝ってもらふ人の有無」、「緊急時支援者の有無」、「正月三が日は同居者と2人で過ごしたか否か」の3つの変数を用いた。日常的に困りごとの支援をしてくれる人がいない世帯は、家族や近隣とのつながりが弱いことが懸念される。また、緊急時の支援者がいない世帯の場合、子どもなどの家族がいないか、いても交流が少ないことが多い。正月三が日をふたりで過ごす世帯は、子どもがないなど別居の家族がいない場合が多い。こうした状況がすなわち社会的孤立状態であるとは言いきれないが、周囲とのつながりが弱く、孤立のおそれはあると考えられる。そこで、ここではこれら3つの変数に1つでも該当する場合を「社会的孤立リスク有」、1つも該当しない場合を「社会的孤立リスク無」とし、世帯が社会的孤立状態となるリスクの有無を判断する変数とした。その世帯別のケース数は、表8-26、表8-27のとおりである。

表8-26 【夫婦世帯】

|        | 実数    | パーセント |
|--------|-------|-------|
| 孤立リスク無 | 839   | 49.9  |
| 孤立リスク有 | 843   | 50.1  |
| 合計     | 1,682 | 100.0 |

表8-27 【親子世帯】

|        | 実数  | パーセント |
|--------|-----|-------|
| 孤立リスク無 | 153 | 35.0  |
| 孤立リスク有 | 284 | 65.0  |
| 合計     | 437 | 100.0 |

### (2) 社会的孤立リスク変数に影響を持つと思われる変数との関係

つづいて、この社会的孤立リスク変数とそれに影響を持つと思われる変数との関係をカイ二乗検定を用いて調べた。結果は表8-28、表8-29のとおりである。

表8－28【夫婦世帯】

| No. | 変数            | 5%有意水準あり | P 値   | 尺度  |
|-----|---------------|----------|-------|-----|
| 1   | 世帯の介助の有無      | ×        | 0.359 | 2 値 |
| 2   | 別居の子どもの有無     | ○        | 0.000 | 2 値 |
| 3   | 行き来家族・親族有無    | ○        | 0.000 | 2 値 |
| 4   | 世帯主の友人・知人有無   | ○        | 0.000 | 2 値 |
| 5   | 同居者の友人・知人有無   | ○        | 0.001 | 2 値 |
| 6   | 世帯主の近所づきあいの程度 | ○        | 0.000 | 順序  |
| 7   | 同居者の近所づきあいの程度 | ○        | 0.000 | 順序  |
| 8   | 世帯主の社会参加有無    | ○        | 0.013 | 2 値 |
| 9   | 同居者の社会参加有無    | ○        | 0.013 | 2 値 |
| 10  | 経済状況の感じ方      | ○        | 0.015 | 順序  |

表8－29【親子世帯】

| No. | 変数            | 5%有意水準あり | P 値   | 尺度  |
|-----|---------------|----------|-------|-----|
| 1   | 世帯の介助の有無      | ×        | 0.784 | 2 値 |
| 2   | 行き来家族・親族有無    | ○        | 0.000 | 2 値 |
| 3   | 親の友人・知人有無     | ×        | 0.087 | 2 値 |
| 4   | 子どもの友人・知人有無   | ○        | 0.001 | 2 値 |
| 5   | 親の近所づきあいの程度   | ○        | 0.015 | 順序  |
| 6   | 子どもの近所づきあいの程度 | ×        | 0.467 | 順序  |
| 7   | 親の社会参加有無      | ×        | 0.876 | 2 値 |
| 8   | 子どもの社会参加有無    | ×        | 0.192 | 2 値 |
| 9   | 経済状況の感じ方      | ○        | 0.033 | 順序  |

### (3) 社会的孤立リスク変数を従属変数とするロジスティック回帰分析

そして、社会的孤立リスクを示す変数を従属変数とし、上記(2)の関連が考えられる変数を独立変数として、2 項ロジスティック回帰を実行した。その結果を、夫婦世帯と親子世帯のそれぞれについてみていく。

#### ①夫婦世帯の結果

表8－30【夫婦世帯】各変数ごとのオッズ比と有意確率

|                     | B          | 標準誤差   | Wald  | 自由度    | 有意確率(P) | Exp(B) | EXP(B) の 95% 信頼区間 |              |
|---------------------|------------|--------|-------|--------|---------|--------|-------------------|--------------|
|                     |            |        |       |        |         |        | 下限                | 上限           |
| ステップ 1 <sup>a</sup> | 世帯主の年齢     | 0.020  | 0.014 | 2.030  | 1       | 0.154  | 1.020             | 0.992 1.049  |
|                     | 同居者の年齢     | -0.024 | 0.013 | 3.496  | 1       | 0.062  | 0.977             | 0.953 1.001  |
|                     | 生存子の有無     | 1.334  | 0.160 | 69.126 | 1       | 0.000  | 3.794             | 2.771 5.196  |
|                     | 世帯主の近所づきあい | 0.256  | 0.060 | 18.179 | 1       | 0.000  | 1.292             | 1.149 1.454  |
|                     | 行き来する家族の有無 | 1.802  | 0.332 | 29.517 | 1       | 0.000  | 6.060             | 3.164 11.609 |
|                     | 定数         | -4.155 | 1.072 | 15.021 | 1       | 0.000  | 0.016             |              |

a. ステップ 1: 投入された変数 世 Q1B 年齢, 同 Q1B 年齢, Q20A 生存子, 世 Q23 近隣付合, 行来家族親族有無

まずは夫婦世帯についてである(表 8-30)。有意確率(P)が 0.05 を下回っており、5%水準で有意であることが認められた「生存子の有無」、「世帯主の近所づきあいの程度」、「行き来する家族・親族の有無」の 3 つの変数について、オッズ比を見ていく。最も高いオッズ(Exp(B))になっているのは、「行き来する家族・親族の有無」であり(Exp(B)=6.060、P=0.000)、社会的孤立リスク変数に対して最も影響が大きい。このオッズは、行き来する家族・親族がいない夫婦世帯は、いる夫婦世帯に比べて、社会的孤立リスクが有になる確率が 6.06 倍になることを示している。つまり、行き来をする家族・親族がいない、同居者以外の誰ともほとんど行き来がない世帯は、日常生活で困ったときや緊急時に助けてくれる人がおらず、正月三が日も 2 人きりで過ごす傾向にあり、社会的孤立のリスクが非常に高くなると言える。

次に影響がある変数は、「生存子の有無」(Exp(B)=3.794、P=0.000)であった。別居の子どもがいない夫婦世帯は、いる夫婦世帯に比べて、社会的孤立リスクが有になる確率が 3.794 倍になることを示している。子どもは、普段からもっとも連絡を取る可能性が高い家族であり、いなければ必然的に社会的孤立のリスクは高くなるということを意味している。

「世帯主の近所づきあいの程度」については、オッズ(Exp(B))は 1.292、有意確率(P)は 0.000 であった。夫婦世帯の夫の近所づきあいの程度が 1 ランク下がると(「互いの家をよく行き来するくらい」～「まったくつきあいがいい」の 5 段階)、夫婦世帯の社会的孤立リスクが有になる確率が 1.292 倍になることがわかった。

## ②親子世帯の結果

つづいて、親子世帯について、二項ロジスティック回帰分析の結果を見てみよう(表 8-31)。

表8－31 【親子世帯】 各変数ごとのオッズ比と有意確率

|              | B      | 標準誤差  | Wald   | 自由度 | 有意確率(P) | Exp(B) | EXP(B) の 95% 信頼区間 |        |
|--------------|--------|-------|--------|-----|---------|--------|-------------------|--------|
|              |        |       |        |     |         |        | 下限                | 上限     |
| ステップ 1 a     |        |       |        |     |         |        |                   |        |
| 親の性別         | 0.029  | 0.325 | 0.008  | 1   | 0.929   | 1.029  | 0.545             | 1.946  |
| 子どもの性別       | 0.439  | 0.223 | 3.871  | 1   | 0.049   | 1.551  | 1.002             | 2.401  |
| 親の年齢         | -0.003 | 0.029 | 0.010  | 1   | 0.919   | 0.997  | 0.942             | 1.055  |
| 子どもの年齢       | 0.001  | 0.021 | 0.001  | 1   | 0.974   | 1.001  | 0.961             | 1.042  |
| 行き来する家族の有無   | 2.120  | 0.533 | 15.811 | 1   | 0.000   | 8.332  | 2.930             | 23.692 |
| 子どもの親しい友人の有無 | 0.871  | 0.277 | 9.863  | 1   | 0.002   | 2.388  | 1.387             | 4.112  |
| 定数           | -3.330 | 1.991 | 2.798  | 1   | 0.094   | 0.036  |                   |        |

a. ステップ 1: 投入された変数 世 Q1B 年齢, 同 Q1B 年齢, Q20A 生存子, 世 Q23 近隣付合, 行来家族親族有無

ロジスティック回帰分析に用いた変数のうち、有意確率が 0.05 を下回って 5%水準で有意であることが認められた「行き来する家族・親族の有無」と「子どもの親しい友人の有無」の 2 つについてオッズ比を見る。オッズが高いのは、「行き来する家族・親族の有無」であり (Exp (B) =8.332、P=0.000)、社会的孤立リスク変数に対して最も影響が大きい。これは、行き来する家族・親族がいない親子世帯は、いる親子世帯に比べて、社会的孤立リスクが有になる確率が 8.332 倍になることを示している。つまり、行き来をする家族・親族がいない、同居者以外の誰ともほとんど行き来がない世帯は、日常生活で困ったときや緊急時に助けてくれる人がおらず、正月三が日も 2 人きりで過ごす傾向にあり、社会的孤立のリスクが非常に高くなると言える。

次に影響がある変数は、子どもの親しい友人・知人の有無については、オッズと有意確率は Exp (B) =2.388、P=0.002 であった。子どもに親しい友人・知人がいない親子世帯は、いる親子世帯に比べて、社会的孤立リスクが有になる確率が 2.388 倍になることがわかった。

以上の結果から、夫婦世帯では、「行き来する家族・親族の有無」、「生存子の有無」、「世帯主の近所づきあいの程度」の順で、社会的孤立のリスクに対して影響が強いことがわかった。親子世帯では、「行き来する家族・親族の有無」、「子どもの親しい友人・知人の有無」の順で、社会的孤立のリスクに対する影響が強い。高齢者を含む 2 人世帯の社会的孤立をとらえていく際に、夫婦世帯・親子世帯ともに、別居しているほかの家族や親族とのつながりの状況への視点を欠かさないことと併せて、近所づきあいや親しい友人の有無など、地域とのつながりにも目を配っていくことが重要であることがわかった。

## 3 調査から言えることーふたり暮らし世帯の生活状況と支援

最後に、本調査の結果を分析し、本調査のまとめとしたい。

### (1) 世帯類型による生活状況の違いー夫婦世帯と親子世帯

本調査の対象となった世帯は、75 歳以上の高齢者を含むふたり暮らし世帯である。そのうち 75.4%が夫婦世帯、19.3%が親子世帯である。これまでも見てきたように、夫婦世帯と親子世帯では、生活状況に違いが見られる。そこで、ここでは、いくつかの項目について、夫婦世帯と親子世帯の違いをまとめて分析したい。

夫婦世帯は、2 人で暮らしている年数が 40 年以上である世帯が 6 割半を占め、平均 40.8 年であったのに対して、親子世帯の平均ふたり暮らし年数は 27.5 年と短く、10 年未満の世帯が 2 割半を占めた。



日常生活でなんらかの介助を必要とする人の割合について、夫婦世帯では夫の2割程度、妻の1割半程度が要介助の状態であり、介護保険サービスを1割前後の人が利用している。親子世帯の場合には、親の4割が要介助の状態であり、2割半が介護保険サービスを利用している。なお、子どもは9割半が介助を必要としない状態である。

仕事について、夫婦世帯では、夫の3割は仕事をしていると回答し、妻の8割は仕事をしていないと回答している。親子世帯では、親の8割は仕事をしていないが、子の6割半は仕事をしている。

近所づきあいについては、夫婦世帯では夫より妻のほうがやや親密に近所づきあいをしており、親子世帯では子どもより親のほうが親密に近所づきあいをしている。また、男性よりも女性のほうが親密な傾向にある。

緊急時支援者がいない世帯の割合は、夫婦世帯では13%、親子世帯では17%であった。

地域の社会活動には、夫婦世帯では夫の5割強、妻の5割半が参加しており、夫婦ともに町会・自治会には2割前後が参加している。親子世帯では、親の5割が参加しており、町会・自治会には18%が参加している。一方、子どもは、活動に参加しているのは3割で、町会・自治会への参加は13%であった。親子世帯よりも夫婦世帯のほうが、社会活動に参加している傾向にある。

区の行政サービスなどに関する情報の充足度合いについては、夫婦世帯では、夫婦とも2割前後が「充分ではない」と回答し、親子世帯では、親の3割、子どもの3割半が、「充分ではない」と感じている。

住宅については、夫婦世帯の73.6%が持ち家に住み、都営・区営住宅に住む世帯は1割強であった。親子世帯は、持ち家率が夫婦世帯よりも低く66.2%で、都営・区営住宅には2割弱が居住している。

年間収入について、250万円未満の世帯の割合は、夫婦世帯では2割半であったが、親子世帯では4割にのぼっており、親子世帯のほうが収入が少ない世帯の割合が高い。また、おもな収入源については、夫婦世帯では夫婦ともに年金収入である人が7割半程度である。親子世帯では、親の7割半は年金収入、子どもの5割半は仕事による収入が主たる収入源であると回答している。

家計で負担の大きい費目についても、夫婦世帯と親子世帯では違いがみられた。どちらの世帯でも最も多かった回答は「税金」で、3割前後の世帯が税金への負担が大きいと感じていることがわかる。次に、夫婦世帯では「医療費・通院費」が2割弱を占めて多かったのに対して、親子世帯では「家賃・住宅ローン」が2割を占めた。

将来の不安や心配について、夫婦世帯では、夫婦ともに7割半から8割半が「自分や相手が病気になったり介護が必要となること」を挙げている。親子世帯も、親子ともに6割から7割半が、「自分や相手が病気になったり介護が必要となること」を挙げているほか、子どもは、4割半が「生活のための収入のこと」を挙げていることが特徴である。

## (2) 世帯ごとの生活状況とニーズ調査からわかったことと今後の課題

最後に、本調査から得られた結果と今後の課題について述べていきたい。

本調査は、港区内の75歳以上の高齢者を含むふたり暮らし世帯を対象に行ったものである。高齢者を含むふたり暮らし世帯は、大きくは夫婦世帯と親子世帯に分類され、そのほか、兄弟姉妹や祖父母と孫のみで構成される世帯が、わずかではあるが存在する。高齢者のみでのふたり暮らしと高齢者と現役世代のふたり暮らしでは、その抱える生活課題もおのずと異なったものとなる。本報告書では、とくに夫婦世帯と親子世帯についてを取り上げて、その生活状況を分析してきた。その結果、見えてきたことをまとめる。

夫婦世帯と親子世帯に共通する課題として、まず、介助の問題が挙げられる。一般に、高齢になるに従って有病率が高くなり、生活になんらかの介助を必要とするようになる人は多くなる。夫婦世

帯の場合、夫の平均年齢が80.3歳、妻の平均年齢が76.2歳であり、夫婦ともに後期高齢者である世帯も少なくない。そして、夫婦のどちらか、あるいは両方が介助を必要としている世帯はおおよそ3割を占めている。とくに、妻が要介助である場合には、高齢の夫が慣れない家事を担わなければならず、この世代の男性にとっては大きな負担ではないかと推測される。また、近所づきあいなどを通して、世帯と地域とをつなぐ窓口の役割を担っている妻が要介助となることにより、地域とのつながりが弱くなる可能性も指摘できる。介助を必要とする人がいる夫婦世帯への生活支援を考える際には、生活そのものへの支援や経済面への視点、地域とのつながりへの視点が重要となるだろう。その場合、「誰が要介助なのか」によっても課題が異なることにも、目を配る必要がある。

親子世帯の場合には、親の介助の問題として現れる。親が要介助である親子世帯は、全体の4割にのぼる。親子世帯では、子どもの収入源の多くは仕事による収入であるが、親が要介助である世帯の場合には、仕事をしていない子どもの割合が高くなり、収入も年金でまかなう世帯が多くなる。親が要介助であることは、親子世帯の生活基盤の安定性に影響を及ぼしていると考えられる。

次に、夫婦世帯・親子世帯ともに、複合的に生活課題を抱える世帯の存在が浮かび上がったことを挙げたい。本報告書では、クラスター分析を用いて、夫婦世帯を6つのクラスタに、親子世帯を5つのクラスタに分類し、その特徴を見てきた。それにより、要介助の人の存在や持ち家率の低さ、家族・地域と野つなぐの弱さなど、複合的に生活課題を抱えたグループの存在が浮かび上がってきた。緊急時の支援者がなく、地域とのつながりも弱く、経済的にも安定した基盤を持ちえない世帯には、行政サービスを活用した生活支援のニーズが高いと考えられる。しかし、そうしたグループほど、行政サービスに関する情報が「充分ではない」と感じている人が多い状況にある。必要な世帯に必要なサービス・資源を届けるためには、どのように情報を発信していくのか、また、こうした層を、行政としてどのようにとらえていくのかが重要である。世帯ごと地域社会から孤立させず、必要な支援を届けるための仕組みづくりが求められる。

ほかに、夫婦世帯については、緊急時支援者と生活支援ネットワークの状況について特徴が見られた。高齢者のふたり暮らしを支えているのは、安定した経済基盤とともに、生活を支える人的ネットワークである。夫婦世帯では、緊急時の支援者がいない世帯の割合が13%程度である。緊急時支援者の多くは子どもであり、子どもの有無、そして子どもとの日常的な行き来や交流の有無が、緊急時支援者を得られるかどうかにかかわってくる。家族や親族とのつながりの動向を把握することは、高齢者夫婦世帯の生活支援を考える際に、ひとつ重要な鍵を握るといえる。また、ふだん生活している地域とのつながりも、同じように重要である。近所づきあいの程度や社会活動への参加は、妻のほうが多い傾向にはある。このような夫婦の差があったとしても、世帯全体として見れば、地域との接点を保っていることになる。加えて、夫婦世帯では、地域の活動に参加している人が夫も妻も半分を超えており、地域ネットワークの素地はある程度保たれていると考えられる。今後、夫婦とも高年齢化していくなかで、どのようなかたちで地域との接点を保っていくのかを検討することが求められよう。また、世帯の状況によっては、夫婦ともに社会参加が少ない層が存在する。社会的孤立の視点からも、夫婦ともに社会との接点が狭まっている世帯の傾向にはより目を向けていく必要があるだろう。

また、親子世帯については、子どもの収入の問題が浮かび上がった。子どもの4割は、将来の心配ごととして、「生活のための収入」を挙げている。親も子も高年齢化していくなかで、親の介助リスクは高まり、医療費や通院費の負担が大きくなる。また、多くの子どもは定年を迎える年齢にさしかかり、収入源が稼働所得から年金にシフトしていく。子ども自身が健康を害し、仕事を辞めて収入が不安定になるケースもある。子どもは、将来ひとり暮らしになり、その生活が何十年と続く可能性がある。持ち家ではない場合などはとくに、将来の生活に対して、経済状況の面から不安を感じるのは当然であろう。表面化しにくいのが、親子世帯の子どもへの支援方策も検討の余地があるだろう。

本調査は、港区の75歳以上高齢者を含む2人世帯の生活実態を把握することを目的として実施した。数の上では夫婦世帯が圧倒的であり、本調査の設計も高齢者夫婦世帯を念頭に置いて設計されている。しかし、回答者の2割は親子世帯であり、夫婦世帯と親子世帯とではその生活状況や課題が大きく異なっていることがわかった。世帯の特性に合わせた支援方策を構築することが今後重要な課題となるだろう。それは必ずしも新たなサービスを展開するというもののみを意味するのではない。新たなサービスの可能性を探りながら、既存のサービスをいかに組み合わせしていくのかも検討の余地があるだろう。また、複合的なニーズを抱え、支援をより必要としていると考えられる層ほどに情報が届きにくい実態も見えた。行政サービスなどに関する情報をどのように届け、活用につなげるのかということも、重要な課題の1つである。また、ごくわずかではあるが、その他世帯として、兄弟姉妹で暮らしたり、祖父母のどちらかと孫世代が2人で暮らしている世帯も存在する。そこには、夫婦世帯や親子世帯とはまた異なるニーズがあると考えられる。高齢者のいる世帯を支援していく際には、類型別の特徴を踏まえながらも、個別的支援をいかに柔軟に構築していけるのかがカギとなるだろう。

高齢化の伸展と核家族化の広がり、家族形態の多様化を生んでいる。「平成24年度高齢社会白書」(内閣府)によれば、平成22年度の65歳以上の高齢者のいる世帯は、全世帯の4割を占めている。そのうち、高齢者夫婦世帯は全体の3割を占め、親と未婚の子の世帯は18%で増加傾向にある。港区でも、今後、家族形態が多様化していくと考えられる。高齢者とその家族が、社会から孤立せずに安心・安全に暮らしていけるよう支援していくために、世帯類型による生活課題の違いを念頭に入れながら、総合的に生活をとらえる視点が重要となると考える。

## Ⅸ 資料

### 資料 1 付表

付表 1 親の介助の必要有無×子どもの外出時の会話の程度

|           | 介助を必要としていない |        | 介助を必要としている |        |
|-----------|-------------|--------|------------|--------|
|           | 実数          | %      | 実数         | %      |
| とてもよく話をする | 37          | 12.9%  | 23         | 11.9%  |
| よく話をする    | 52          | 18.1%  | 31         | 16.0%  |
| 普通        | 135         | 47.0%  | 87         | 44.8%  |
| あまり話をしない  | 27          | 9.4%   | 25         | 12.9%  |
| ほとんど話をしない | 36          | 12.5%  | 28         | 14.4%  |
| 合計        | 287         | 100.0% | 194        | 100.0% |

※無回答は集計から除外  $\chi^2=2.134$  自由度 4  $p=0.711$

付表 2 親子世帯クラス×子どもの現在の仕事の有無

| 【子ども】<br>現在の仕事の有無 | クラス 1 |        | クラス 2 |        | クラス 3 |        | クラス 4 |        | クラス 5 |        |
|-------------------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|
|                   | 実数    | %      | 実数    | %      | 実数    | %      | 実数    | %      | 実数    | %      |
| 仕事をしている           | 33    | 60.0%  | 42    | 64.6%  | 61    | 73.5%  | 49    | 75.4%  | 51    | 72.9%  |
| 仕事はしていない          | 22    | 40.0%  | 23    | 35.4%  | 22    | 26.5%  | 16    | 24.6%  | 19    | 27.1%  |
| 合計                | 55    | 100.0% | 65    | 100.0% | 83    | 100.0% | 65    | 100.0% | 70    | 100.0% |

※無回答は集計から除外  $\chi^2=5.146$  自由度 4  $p=0.272$



付表3 世帯主（夫）の生活意識と経済状況（3区分） 記述統計

|                  |                    | 実数    | 平均値   | 標準偏差  | 標準誤差  | 平均値の 95% 信頼区間 |       |
|------------------|--------------------|-------|-------|-------|-------|---------------|-------|
|                  |                    |       |       |       |       | 下限            | 上限    |
| 今の暮らしには張り合いがある   | 余裕がある              | 474   | 3.899 | 0.919 | 0.042 | 3.816         | 3.982 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 1,078 | 3.619 | 0.870 | 0.026 | 3.567         | 3.671 |
|                  | 苦しい                | 348   | 3.106 | 0.983 | 0.053 | 3.003         | 3.210 |
|                  | 合計                 | 1,900 | 3.595 | 0.939 | 0.022 | 3.552         | 3.637 |
| 今の暮らしにはストレスが多い   | 余裕がある              | 457   | 3.663 | 1.056 | 0.049 | 3.566         | 3.760 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 1,058 | 3.516 | 1.025 | 0.032 | 3.454         | 3.578 |
|                  | 苦しい                | 342   | 3.012 | 1.099 | 0.059 | 2.895         | 3.129 |
|                  | 合計                 | 1,857 | 3.459 | 1.069 | 0.025 | 3.411         | 3.508 |
| 生活は充実している        | 余裕がある              | 468   | 3.979 | 0.868 | 0.040 | 3.900         | 4.057 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 1,076 | 3.667 | 0.846 | 0.026 | 3.617         | 3.718 |
|                  | 苦しい                | 341   | 2.965 | 1.040 | 0.056 | 2.854         | 3.076 |
|                  | 合計                 | 1,885 | 3.618 | 0.949 | 0.022 | 3.575         | 3.660 |
| 生活していて不安や心配がある   | 余裕がある              | 458   | 3.607 | 1.076 | 0.050 | 3.508         | 3.706 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 1,045 | 3.170 | 1.051 | 0.033 | 3.107         | 3.234 |
|                  | 苦しい                | 341   | 2.481 | 1.081 | 0.059 | 2.366         | 2.596 |
|                  | 合計                 | 1,844 | 3.151 | 1.124 | 0.026 | 3.100         | 3.203 |
| 趣味をしている時間は楽しい    | 余裕がある              | 454   | 4.002 | 0.971 | 0.046 | 3.913         | 4.092 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 1,012 | 3.864 | 0.963 | 0.030 | 3.804         | 3.923 |
|                  | 苦しい                | 321   | 3.539 | 1.156 | 0.065 | 3.412         | 3.666 |
|                  | 合計                 | 1,787 | 3.841 | 1.013 | 0.024 | 3.794         | 3.888 |
| 友人との関係に満足している    | 余裕がある              | 454   | 3.687 | 1.065 | 0.050 | 3.589         | 3.785 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 1,019 | 3.508 | 1.006 | 0.032 | 3.446         | 3.570 |
|                  | 苦しい                | 320   | 3.172 | 1.114 | 0.062 | 3.049         | 3.294 |
|                  | 合計                 | 1,793 | 3.494 | 1.054 | 0.025 | 3.445         | 3.542 |
| 近所づきあいに満足している    | 余裕がある              | 457   | 2.969 | 1.094 | 0.051 | 2.869         | 3.070 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 1,049 | 3.046 | 0.993 | 0.031 | 2.986         | 3.106 |
|                  | 苦しい                | 332   | 2.780 | 1.030 | 0.057 | 2.669         | 2.891 |
|                  | 合計                 | 1,838 | 2.979 | 1.030 | 0.024 | 2.932         | 3.026 |
| 自分は頼りにされていると思う   | 余裕がある              | 459   | 3.521 | 1.092 | 0.051 | 3.420         | 3.621 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 1,063 | 3.252 | 1.037 | 0.032 | 3.190         | 3.315 |
|                  | 苦しい                | 337   | 2.807 | 1.075 | 0.059 | 2.692         | 2.922 |
|                  | 合計                 | 1,859 | 3.238 | 1.082 | 0.025 | 3.189         | 3.287 |
| 周囲から取り残されたように感じる | 余裕がある              | 461   | 4.080 | 0.880 | 0.041 | 4.000         | 4.161 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 1,064 | 3.878 | 0.868 | 0.027 | 3.826         | 3.930 |
|                  | 苦しい                | 339   | 3.507 | 0.885 | 0.048 | 3.413         | 3.602 |
|                  | 合計                 | 1,864 | 3.861 | 0.893 | 0.021 | 3.820         | 3.901 |
| 将来の生活は安心できる      | 余裕がある              | 466   | 3.700 | 0.875 | 0.041 | 3.620         | 3.779 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 1,069 | 3.103 | 0.889 | 0.027 | 3.050         | 3.156 |
|                  | 苦しい                | 343   | 2.181 | 0.953 | 0.051 | 2.080         | 2.282 |
|                  | 合計                 | 1,878 | 3.083 | 1.024 | 0.024 | 3.036         | 3.129 |

付表4 【世帯主】経済状況と生活意識 等分散性の検定

|                  | Levene 統計量 | 自由度 1 | 自由度 2 | 有意確率  |
|------------------|------------|-------|-------|-------|
| 今の暮らしには張り合いがある   | 3.276      | 2     | 1897  | 0.038 |
| 今の暮らしにはストレスが多い   | 0.120      | 2     | 1854  | 0.887 |
| 生活は充実している        | 17.698     | 2     | 1882  | 0.000 |
| 生活していて不安や心配がある   | 0.281      | 2     | 1841  | 0.755 |
| 趣味をしている時間は楽しい    | 18.913     | 2     | 1784  | 0.000 |
| 友人との関係に満足している    | 1.935      | 2     | 1790  | 0.145 |
| 近所づきあいに満足している    | 4.817      | 2     | 1835  | 0.008 |
| 自分は頼りにされていると思う   | 0.861      | 2     | 1856  | 0.423 |
| 周囲から取り残されたように感じる | 2.238      | 2     | 1861  | 0.107 |
| 将来の生活は安心できる      | 4.837      | 2     | 1875  | 0.008 |

付表5 【世帯主】経済状況と生活意識 分散分析

|                  |       | 平方和     | 自由度  | 平均平方   | F 値    | 有意確率  |
|------------------|-------|---------|------|--------|--------|-------|
| 今の暮らしには張り合いがある   | グループ間 | 127.44  | 2    | 63.72  | 78.06  | 0.000 |
|                  | グループ内 | 1548.51 | 1897 | 0.82   |        |       |
|                  | 合計    | 1675.95 | 1899 |        |        |       |
| 今の暮らしにはストレスが多い   | グループ間 | 90.90   | 2    | 45.45  | 41.50  | 0.000 |
|                  | グループ内 | 2030.29 | 1854 | 1.10   |        |       |
|                  | 合計    | 2121.18 | 1856 |        |        |       |
| 生活は充実している        | グループ間 | 208.97  | 2    | 104.48 | 132.13 | 0.000 |
|                  | グループ内 | 1488.25 | 1882 | 0.79   |        |       |
|                  | 合計    | 1697.22 | 1884 |        |        |       |
| 生活していて不安や心配がある   | グループ間 | 248.72  | 2    | 124.36 | 110.07 | 0.000 |
|                  | グループ内 | 2080.06 | 1841 | 1.13   |        |       |
|                  | 合計    | 2328.79 | 1843 |        |        |       |
| 趣味をしている時間は楽しい    | グループ間 | 41.60   | 2    | 20.80  | 20.71  | 0.000 |
|                  | グループ内 | 1791.94 | 1784 | 1.00   |        |       |
|                  | 合計    | 1833.55 | 1786 |        |        |       |
| 友人との関係に満足している    | グループ間 | 50.36   | 2    | 25.18  | 23.24  | 0.000 |
|                  | グループ内 | 1939.81 | 1790 | 1.08   |        |       |
|                  | 合計    | 1990.18 | 1792 |        |        |       |
| 近所づきあいに満足している    | グループ間 | 17.85   | 2    | 8.92   | 8.48   | 0.000 |
|                  | グループ内 | 1930.32 | 1835 | 1.05   |        |       |
|                  | 合計    | 1948.17 | 1837 |        |        |       |
| 自分は頼りにされていると思う   | グループ間 | 99.46   | 2    | 49.73  | 44.43  | 0.000 |
|                  | グループ内 | 2077.45 | 1856 | 1.12   |        |       |
|                  | 合計    | 2176.91 | 1858 |        |        |       |
| 周囲から取り残されたように感じる | グループ間 | 64.86   | 2    | 32.43  | 42.47  | 0.000 |
|                  | グループ内 | 1420.88 | 1861 | 0.76   |        |       |
|                  | 合計    | 1485.73 | 1863 |        |        |       |
| 将来の生活は安心できる      | グループ間 | 456.79  | 2    | 228.40 | 283.34 | 0.000 |
|                  | グループ内 | 1511.41 | 1875 | 0.81   |        |       |
|                  | 合計    | 1968.21 | 1877 |        |        |       |

付表6 同居者（妻）の生活意識と経済状況（3区分） 記述統計

|                  |                    | 実数    | 平均値   | 標準偏差  | 標準誤差  | 平均値の 95% 信頼区間 |       |
|------------------|--------------------|-------|-------|-------|-------|---------------|-------|
|                  |                    |       |       |       |       | 下限            | 上限    |
| 今の暮らしには張り合いがある   | 余裕がある              | 453   | 3.850 | 0.900 | 0.042 | 3.767         | 3.933 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 1,018 | 3.631 | 0.863 | 0.027 | 3.578         | 3.684 |
|                  | 苦しい                | 335   | 3.188 | 0.962 | 0.053 | 3.085         | 3.291 |
|                  | 合計                 | 1,806 | 3.604 | 0.917 | 0.022 | 3.561         | 3.646 |
| 今の暮らしにはストレスが多い   | 余裕がある              | 448   | 3.317 | 1.114 | 0.053 | 3.214         | 3.420 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 1,004 | 3.225 | 1.099 | 0.035 | 3.157         | 3.293 |
|                  | 苦しい                | 327   | 2.838 | 1.119 | 0.062 | 2.716         | 2.960 |
|                  | 合計                 | 1,779 | 3.177 | 1.118 | 0.027 | 3.125         | 3.229 |
| 生活は充実している        | 余裕がある              | 454   | 3.907 | 0.861 | 0.040 | 3.828         | 3.987 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 1,011 | 3.634 | 0.867 | 0.027 | 3.581         | 3.688 |
|                  | 苦しい                | 333   | 3.120 | 0.981 | 0.054 | 3.014         | 3.226 |
|                  | 合計                 | 1,798 | 3.608 | 0.924 | 0.022 | 3.565         | 3.651 |
| 生活していて不安や心配がある   | 余裕がある              | 442   | 3.253 | 1.139 | 0.054 | 3.147         | 3.360 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 1,005 | 3.010 | 1.066 | 0.034 | 2.944         | 3.076 |
|                  | 苦しい                | 329   | 2.462 | 1.056 | 0.058 | 2.347         | 2.577 |
|                  | 合計                 | 1,776 | 2.969 | 1.114 | 0.026 | 2.917         | 3.021 |
| 趣味をしている時間は楽しい    | 余裕がある              | 437   | 4.165 | 0.911 | 0.044 | 4.079         | 4.250 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 964   | 3.965 | 1.034 | 0.033 | 3.899         | 4.030 |
|                  | 苦しい                | 300   | 3.780 | 1.059 | 0.061 | 3.660         | 3.900 |
|                  | 合計                 | 1,701 | 3.984 | 1.016 | 0.025 | 3.935         | 4.032 |
| 友人との関係に満足している    | 余裕がある              | 440   | 3.964 | 0.930 | 0.044 | 3.877         | 4.051 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 999   | 3.748 | 0.963 | 0.030 | 3.688         | 3.808 |
|                  | 苦しい                | 319   | 3.649 | 1.044 | 0.058 | 3.534         | 3.764 |
|                  | 合計                 | 1,758 | 3.784 | 0.976 | 0.023 | 3.738         | 3.830 |
| 近所づきあいに満足している    | 余裕がある              | 438   | 3.203 | 1.071 | 0.051 | 3.103         | 3.304 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 1,006 | 3.233 | 0.993 | 0.031 | 3.171         | 3.294 |
|                  | 苦しい                | 322   | 3.034 | 1.042 | 0.058 | 2.920         | 3.148 |
|                  | 合計                 | 1,766 | 3.189 | 1.024 | 0.024 | 3.141         | 3.237 |
| 自分は頼りにされていると思う   | 余裕がある              | 447   | 3.591 | 1.009 | 0.048 | 3.497         | 3.684 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 1,013 | 3.422 | 1.043 | 0.033 | 3.357         | 3.486 |
|                  | 苦しい                | 325   | 3.311 | 1.030 | 0.057 | 3.198         | 3.423 |
|                  | 合計                 | 1,785 | 3.444 | 1.036 | 0.025 | 3.396         | 3.492 |
| 周囲から取り残されたように感じる | 余裕がある              | 447   | 4.096 | 0.824 | 0.039 | 4.020         | 4.173 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 1,018 | 3.908 | 0.862 | 0.027 | 3.855         | 3.961 |
|                  | 苦しい                | 326   | 3.706 | 0.911 | 0.050 | 3.606         | 3.805 |
|                  | 合計                 | 1,791 | 3.918 | 0.871 | 0.021 | 3.878         | 3.958 |
| 将来の生活は安心できる      | 余裕がある              | 452   | 3.544 | 0.896 | 0.042 | 3.461         | 3.627 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 1,019 | 3.051 | 0.907 | 0.028 | 2.995         | 3.107 |
|                  | 苦しい                | 332   | 2.322 | 0.978 | 0.054 | 2.217         | 2.428 |
|                  | 合計                 | 1,803 | 3.040 | 1.000 | 0.024 | 2.994         | 3.087 |

付表7 【同居者】経済状況と生活意識 等分散性の検定

|                  | Levene 統計量 | 自由度 1 | 自由度 2 | 有意確率  |
|------------------|------------|-------|-------|-------|
| 今の暮らしには張り合いがある   | 3.912      | 2     | 1803  | 0.020 |
| 今の暮らしにはストレスが多い   | 0.352      | 2     | 1776  | 0.703 |
| 生活は充実している        | 10.492     | 2     | 1795  | 0.000 |
| 生活していて不安や心配がある   | 8.351      | 2     | 1773  | 0.000 |
| 趣味をしている時間は楽しい    | 4.657      | 2     | 1698  | 0.010 |
| 友人との関係に満足している    | 10.489     | 2     | 1755  | 0.000 |
| 近所づきあいに満足している    | 1.510      | 2     | 1763  | 0.221 |
| 自分は頼りにされていると思う   | 1.076      | 2     | 1782  | 0.341 |
| 周囲から取り残されたように感じる | 6.186      | 2     | 1788  | 0.002 |
| 将来の生活は安心できる      | 9.928      | 2     | 1800  | 0.000 |

付表8 【同居者】経済状況と生活意識 分散分析

|                  |       | 平方和     | 自由度  | 平均平方   | F 値    | 有意確率  |
|------------------|-------|---------|------|--------|--------|-------|
| 今の暮らしには張り合いがある   | グループ間 | 86.07   | 2    | 43.03  | 54.18  | 0.000 |
|                  | グループ内 | 1432.07 | 1803 | 0.79   |        |       |
|                  | 合計    | 1518.14 | 1805 |        |        |       |
| 今の暮らしにはストレスが多い   | グループ間 | 48.70   | 2    | 24.35  | 19.89  | 0.000 |
|                  | グループ内 | 2174.53 | 1776 | 1.22   |        |       |
|                  | 合計    | 2223.22 | 1778 |        |        |       |
| 生活は充実している        | グループ間 | 120.67  | 2    | 60.33  | 76.60  | 0.000 |
|                  | グループ内 | 1413.90 | 1795 | 0.79   |        |       |
|                  | 合計    | 1534.57 | 1797 |        |        |       |
| 生活していて不安や心配がある   | グループ間 | 122.00  | 2    | 61.00  | 52.01  | 0.000 |
|                  | グループ内 | 2079.30 | 1773 | 1.17   |        |       |
|                  | 合計    | 2201.30 | 1775 |        |        |       |
| 趣味をしている時間は楽しい    | グループ間 | 27.12   | 2    | 13.56  | 13.34  | 0.000 |
|                  | グループ内 | 1726.42 | 1698 | 1.02   |        |       |
|                  | 合計    | 1753.54 | 1700 |        |        |       |
| 友人との関係に満足している    | グループ間 | 21.33   | 2    | 10.67  | 11.33  | 0.000 |
|                  | グループ内 | 1652.53 | 1755 | 0.94   |        |       |
|                  | 合計    | 1673.86 | 1757 |        |        |       |
| 近所づきあいに満足している    | グループ間 | 9.72    | 2    | 4.86   | 4.65   | 0.010 |
|                  | グループ内 | 1841.11 | 1763 | 1.04   |        |       |
|                  | 合計    | 1850.83 | 1765 |        |        |       |
| 自分は頼りにされていると思う   | グループ間 | 15.89   | 2    | 7.94   | 7.46   | 0.001 |
|                  | グループ内 | 1898.70 | 1782 | 1.07   |        |       |
|                  | 合計    | 1914.59 | 1784 |        |        |       |
| 周囲から取り残されたように感じる | グループ間 | 29.02   | 2    | 14.51  | 19.54  | 0.000 |
|                  | グループ内 | 1327.91 | 1788 | 0.74   |        |       |
|                  | 合計    | 1356.93 | 1790 |        |        |       |
| 将来の生活は安心できる      | グループ間 | 286.07  | 2    | 143.03 | 169.83 | 0.000 |
|                  | グループ内 | 1515.98 | 1800 | 0.84   |        |       |
|                  | 合計    | 1802.04 | 1802 |        |        |       |



付表9 子どもの生活意識と経済状況（3区分） 記述統計

|                  |                    | 実数  | 平均値  | 標準偏差  | 標準誤差  | 平均値の 95% 信頼区間 |      |
|------------------|--------------------|-----|------|-------|-------|---------------|------|
|                  |                    |     |      |       |       | 下限            | 上限   |
| 今の暮らしには張り合いがある   | 余裕がある              | 90  | 3.84 | 0.718 | 0.076 | 3.69          | 3.99 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 265 | 3.45 | 0.956 | 0.059 | 3.33          | 3.56 |
|                  | 苦しい                | 122 | 2.81 | 0.982 | 0.089 | 2.64          | 2.99 |
|                  | 合計                 | 477 | 3.36 | 0.987 | 0.045 | 3.27          | 3.45 |
| 今の暮らしにはストレスが多い   | 余裕がある              | 88  | 2.83 | 1.064 | 0.113 | 2.60          | 3.05 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 260 | 2.80 | 1.177 | 0.073 | 2.66          | 2.95 |
|                  | 苦しい                | 120 | 2.29 | 1.064 | 0.097 | 2.10          | 2.48 |
|                  | 合計                 | 468 | 2.68 | 1.149 | 0.053 | 2.57          | 2.78 |
| 生活は充実している        | 余裕がある              | 90  | 3.88 | 0.732 | 0.077 | 3.72          | 4.03 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 263 | 3.40 | 0.889 | 0.055 | 3.29          | 3.51 |
|                  | 苦しい                | 121 | 2.63 | 1.018 | 0.093 | 2.44          | 2.81 |
|                  | 合計                 | 474 | 3.29 | 0.993 | 0.046 | 3.20          | 3.38 |
| 生活していて不安や心配がある   | 余裕がある              | 90  | 2.87 | 0.985 | 0.104 | 2.66          | 3.07 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 263 | 2.73 | 1.097 | 0.068 | 2.60          | 2.87 |
|                  | 苦しい                | 120 | 2.02 | 1.077 | 0.098 | 1.82          | 2.21 |
|                  | 合計                 | 473 | 2.58 | 1.119 | 0.051 | 2.48          | 2.68 |
| 趣味をしている時間は楽しい    | 余裕がある              | 88  | 4.08 | 0.761 | 0.081 | 3.92          | 4.24 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 261 | 4.07 | 0.974 | 0.060 | 3.95          | 4.19 |
|                  | 苦しい                | 115 | 3.70 | 1.170 | 0.109 | 3.49          | 3.92 |
|                  | 合計                 | 464 | 3.98 | 1.002 | 0.047 | 3.89          | 4.07 |
| 友人との関係に満足している    | 余裕がある              | 90  | 3.87 | 0.796 | 0.084 | 3.70          | 4.03 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 261 | 3.70 | 0.993 | 0.061 | 3.58          | 3.83 |
|                  | 苦しい                | 119 | 3.35 | 1.054 | 0.097 | 3.16          | 3.54 |
|                  | 合計                 | 470 | 3.65 | 0.990 | 0.046 | 3.56          | 3.74 |
| 近所づきあいに満足している    | 余裕がある              | 89  | 3.13 | 0.944 | 0.100 | 2.94          | 3.33 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 263 | 3.05 | 0.948 | 0.058 | 2.93          | 3.16 |
|                  | 苦しい                | 121 | 2.70 | 0.972 | 0.088 | 2.53          | 2.88 |
|                  | 合計                 | 473 | 2.97 | 0.965 | 0.044 | 2.89          | 3.06 |
| 自分は頼りにされていると思う   | 余裕がある              | 89  | 3.93 | 0.902 | 0.096 | 3.74          | 4.12 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 262 | 3.52 | 1.024 | 0.063 | 3.39          | 3.64 |
|                  | 苦しい                | 120 | 3.15 | 1.164 | 0.106 | 2.94          | 3.36 |
|                  | 合計                 | 471 | 3.50 | 1.070 | 0.049 | 3.40          | 3.60 |
| 周囲から取り残されたように感じる | 余裕がある              | 90  | 3.89 | 0.827 | 0.087 | 3.72          | 4.06 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 262 | 3.60 | 0.969 | 0.060 | 3.48          | 3.72 |
|                  | 苦しい                | 122 | 3.24 | 1.084 | 0.098 | 3.04          | 3.43 |
|                  | 合計                 | 474 | 3.56 | 0.998 | 0.046 | 3.47          | 3.65 |
| 将来の生活は安心できる      | 余裕がある              | 90  | 3.24 | 0.987 | 0.104 | 3.04          | 3.45 |
|                  | 余裕はないが生活していくには困らない | 263 | 2.66 | 0.927 | 0.057 | 2.55          | 2.77 |
|                  | 苦しい                | 121 | 1.73 | 0.856 | 0.078 | 1.57          | 1.88 |
|                  | 合計                 | 474 | 2.53 | 1.057 | 0.049 | 2.44          | 2.63 |

付表10 子どもの経済状況と生活意識 等分散性の検定

|                  | Levene 統計量 | 自由度 1 | 自由度 2 | 有意確率  |
|------------------|------------|-------|-------|-------|
| 今の暮らしには張り合いがある   | 8.558      | 2     | 474   | 0.000 |
| 今の暮らしにはストレスが多い   | 2.072      | 2     | 465   | 0.127 |
| 生活は充実している        | 11.727     | 2     | 471   | 0.000 |
| 生活していて不安や心配がある   | 2.749      | 2     | 470   | 0.065 |
| 趣味をしている時間は楽しい    | 8.538      | 2     | 461   | 0.000 |
| 友人との関係に満足している    | 7.231      | 2     | 467   | 0.001 |
| 近所づきあいに満足している    | 1.044      | 2     | 470   | 0.353 |
| 自分は頼りにされていると思う   | 4.472      | 2     | 468   | 0.012 |
| 周囲から取り残されたように感じる | 2.742      | 2     | 471   | 0.065 |
| 将来の生活は安心できる      | 0.262      | 2     | 471   | 0.769 |

付表11 子どもの経済状況と生活意識 分散分析

|                  |       | 平方和     | 自由度 | 平均平方  | F 値   | 有意確率  |
|------------------|-------|---------|-----|-------|-------|-------|
| 今の暮らしには張り合いがある   | グループ間 | 59.755  | 2   | 29.88 | 35.06 | 0.000 |
|                  | グループ内 | 403.943 | 474 | 0.85  |       |       |
|                  | 合計    | 463.698 | 476 |       |       |       |
| 今の暮らしにはストレスが多い   | グループ間 | 24.049  | 2   | 12.02 | 9.44  | 0.000 |
|                  | グループ内 | 592.231 | 465 | 1.27  |       |       |
|                  | 合計    | 616.280 | 467 |       |       |       |
| 生活は充実している        | グループ間 | 87.239  | 2   | 43.62 | 54.21 | 0.000 |
|                  | グループ内 | 379.000 | 471 | 0.80  |       |       |
|                  | 合計    | 466.238 | 473 |       |       |       |
| 生活していて不安や心配がある   | グループ間 | 51.698  | 2   | 25.85 | 22.51 | 0.000 |
|                  | グループ内 | 539.735 | 470 | 1.15  |       |       |
|                  | 合計    | 591.433 | 472 |       |       |       |
| 趣味をしている時間は楽しい    | グループ間 | 11.676  | 2   | 5.84  | 5.94  | 0.003 |
|                  | グループ内 | 453.150 | 461 | 0.98  |       |       |
|                  | 合計    | 464.825 | 463 |       |       |       |
| 友人との関係に満足している    | グループ間 | 15.510  | 2   | 7.76  | 8.16  | 0.000 |
|                  | グループ内 | 443.860 | 467 | 0.95  |       |       |
|                  | 合計    | 459.370 | 469 |       |       |       |
| 近所づきあいに満足している    | グループ間 | 12.572  | 2   | 6.29  | 6.92  | 0.001 |
|                  | グループ内 | 427.124 | 470 | 0.91  |       |       |
|                  | 合計    | 439.696 | 472 |       |       |       |
| 自分は頼りにされていると思う   | グループ間 | 31.415  | 2   | 15.71 | 14.52 | 0.000 |
|                  | グループ内 | 506.334 | 468 | 1.08  |       |       |
|                  | 合計    | 537.749 | 470 |       |       |       |
| 周囲から取り残されたように感じる | グループ間 | 22.810  | 2   | 11.41 | 11.99 | 0.000 |
|                  | グループ内 | 447.915 | 471 | 0.95  |       |       |
|                  | 合計    | 470.726 | 473 |       |       |       |
| 将来の生活は安心できる      | グループ間 | 128.202 | 2   | 64.10 | 75.51 | 0.000 |
|                  | グループ内 | 399.824 | 471 | 0.85  |       |       |
|                  | 合計    | 528.025 | 473 |       |       |       |

# 港区 75 歳以上高齢者を含む2人世帯の 生活に関するアンケート調査 調 査 票

## 世 帯 主 用

平成 24 年9月 港区政策創造研究所(港区企画経営部)

- ◆このアンケート用紙は、世帯主の方がご自身でお答えください。
- ◆このアンケートで「同居者の方」とは、あなたと一緒に生活されている配偶者(夫や妻)、子ども、兄弟姉妹、親、親戚、その他の方をさします。
- ◆同居の方は「同居者用」と書かれたアンケート用紙にご回答ください。
- ◆同居の方が、病院や施設等に入院または入所中の場合には、このアンケートにはお答えいただくなくて結構です。

【問合せ先】港区政策創造研究所 TEL:03-3578-2111(内線 2569)

[平成 24(2012)年 9 月 1 日現在でお答え下さい]

### ■あなたご自身のことについておうかがいします

問 1 性別のあてはまる方に○をし、年齢をご記入ください。

|                  |                                    |
|------------------|------------------------------------|
| 1. 男性      2. 女性 | 満_____歳 (平成 24 年 9 月 1 日現在でお答え下さい) |
|------------------|------------------------------------|

問 2 現住所を丁目までご記入下さい。(例：港区芝公園 1 丁目)

|         |                          |
|---------|--------------------------|
| (町 名)   |                          |
| 港区_____ | _____丁目 (「番」「号」等は記入不要です) |

問 3 現住所 (現在のお住まい) にはおよそ何年間お住まいですか。

|           |
|-----------|
| _____年くらい |
|-----------|

問 4 港区 にはおよそ何年間お住まいですか。

|           |
|-----------|
| _____年くらい |
|-----------|

問5 同居されている方は次のどなたですか（○は1つ）。

- |               |              |        |
|---------------|--------------|--------|
| 1. 配偶者（内縁も含む） | 2. 親         | 3. 子ども |
| 4. 兄弟・姉妹      | 5. それ以外（具体的に | ）      |

問6 おふたりでお住まいの期間はおよそ何年間ですか。

|           |
|-----------|
| _____年くらい |
|-----------|

## ■お住まいについておうかがいします

問7 あなたがお住まいの住宅は次のどれですか（○は1つ）。

- |                       |                  |
|-----------------------|------------------|
| 1. 持ち家（一戸建て）          | 2. 持ち家（分譲マンション）  |
| 3. 民間の賃貸住宅            | 4. 都営・区営住宅       |
| 5. 都市再生機構（UR）等の公的賃貸住宅 |                  |
| 6. 社宅・公務員住宅・管理人住宅     | 7. 高齢者用住宅・シルバーピア |
| 8. その他（               | ）                |

問8 お住まい（主に生活する部屋）は何階ですか。

|        |
|--------|
| _____階 |
|--------|

問9 今の住宅について困っていることは何ですか（○はいくつでも）。

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 1. 階段の昇り降りが大変     | 2. エレベーターが設置されていない |
| 3. 浴室・浴槽が使いにくい    | 4. トイレが使いにくい       |
| 5. お風呂がない         | 6. 居室が狭い           |
| 7. 室内に段差がある       | 8. 冷房がない           |
| 9. 老朽化している        | 10. 家賃・税金の負担が大きい   |
| 11. 立ち退きを迫られている   | 12. 転居先が見つからない     |
| 13. いつまでここに住めるか不安 | 14. その他（           |
| 15. とくに困っていることはない | ）                  |



問10 ご自身の健康状態についてどのようにお考えですか（○は1つ）。

- 問 11 (1) あなたは日常生活を送るのになんらかの介助が必要ですか (○は1つ)。

- (2) あなたの介護保険の要介護度は次のどれにあてはまりますか (○は1つ)。

- (3) あなたは現在、介護保険サービスを利用していますか (○は1つ)。

- 問12 同居している方は、日常生活を送るためになんらかの介助を必要としていますか。  
あなたのお考えをお答えください（○は1つ）。

- 問13 あなたはどのようなサービスを利用されていますか（〇はいくつでも）。

## ■お仕事についてうかがいます

問 14 あなたが今までに一番長く従事されたお仕事は何ですか（○は1つ）。

- |                                                     |                  |
|-----------------------------------------------------|------------------|
| 1. 自営業者・家族従業員                                       | 2. 公務員（教員含む）     |
| 3. 会社経営者・会社役員・団体役員                                  | 4. 勤労者（事務職）      |
| 5. 勤労者(生産現場・技術職:工員、運転手など) 6. 勤労者(販売・サービス業:店員、外交員など) |                  |
| 7. 専門的技術的職業（医師、弁護士、研究者など）                           |                  |
| 8. 臨時職・日雇い・パート・アルバイト・派遣職員                           |                  |
| 9. 自由業（執筆業、芸術関係）                                    | 10. 専業主婦・専業主夫・無職 |
| 11. その他（ ）                                          |                  |

問 15 あなたは現在、収入のあるお仕事に従事されていますか（○は1つ）。

- |                                         |
|-----------------------------------------|
| 1. 正規職員として仕事をしている                       |
| 2. 非正規職員(嘱託・契約・派遣・パート・アルバイト等)として仕事をしている |
| 3. 自営業や会社等の役員として仕事をしている                 |
| 4. その他の就業形態で仕事をしている                     |
| 5. 仕事はしていない                             |

## ■ふだんの生活についてうかがいます

問 16 現在お住まいの地域についてお困りのことはありますか（○はいくつでも）。

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| 1. 近所に買い物する店がない      | 2. 近所に外食する店がない      |
| 3. そばや寿司など店屋物をとる店がない | 4. 近所に銭湯がない         |
| 5. 近所に病院や診療所がない      | 6. 近所にバスの停留所がない     |
| 7. 近所に地下鉄・鉄道の駅がない    | 8. 訪問販売員が多い         |
| 9. 振り込め詐欺など不審な電話がある  | 10. 防犯上の不安がある       |
| 11. 物価が高い            | 12. 地震などの防災対策に不安がある |
| 13. その他（ ）           | 14. とくに困っていることはない   |

問 17 現在、日常生活でお困りのことはありますか（○はいくつでも）。

- |                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| 1. バスや電車、車を使って外出すること | 2. 買い物            |
| 3. 食事の準備             | 4. 掃除や洗濯          |
| 5. ごみの分別やごみ出し        | 6. 通院・薬とり         |
| 7. 区役所等での手続き         | 8. 銀行や郵便局での手続き    |
| 9. 金銭管理や財産保全に関すること   | 10. 生活に必要な情報を得ること |
| 11. その他（ ）           | 12. とくに困っていることはない |

問 18 あなたが日常生活で困ったことがあったとき、同居者以外に誰に手伝ってもらっていますか（○はいくつでも）。

- |                             |            |             |
|-----------------------------|------------|-------------|
| 1. 別居の子ども（子どもの配偶者、孫など含む）    |            |             |
| 2. 別居の兄弟・姉妹                 | 3. 別居の親戚   | 4. 友人・知人    |
| 5. 近所の人                     | 6. 民生委員    | 7. 町会・自治会の人 |
| 8. マンションの管理人                | 9. ホームヘルパー | 10. ケアマネジャー |
| 11. 高齢者相談センター（地域包括支援センター）の人 |            |             |
| 12. 役所の人                    | 13. その他（ ） |             |
| 14. 同居者以外では手伝ってもらう人がいない     |            |             |

問 19 次の（１）から（５）の家事などについて、あなたと同居者のうち、おもに担当している方に○をつけてください。

|                       | ↓ ○はどちらか１つずつ ↓ |     |
|-----------------------|----------------|-----|
| 家事や手続き                | あなた(世帯主)       | 同居者 |
| (例) 食事の準備             |                | ○   |
| (１) ふだんの買い物（食品や日用品など） |                |     |
| (２) 食事の準備             |                |     |
| (３) 掃除や洗濯             |                |     |
| (４) 区役所等での手続き         |                |     |
| (５) 銀行や郵便局での手続き       |                |     |
|                       | ↑ ○はどちらか１つずつ ↑ |     |

## ■家族・親族とのかかわりについてうかがいます

問 20 (1) 現在、別居しているあなたのお子さんがいらっしゃいますか (○は1つ)。

1. いる

2. いない → 問 21 へ

(2) 別居のお子さん(ご存命の方)は何人いらっしゃいますか。

人

問 21 (1) あなたや同居者が日頃もっともよく行き来をしているご家族・ご親戚の方はどなたですか (○は1つ)。

1. 子ども (子どもの配偶者、孫などを含む)      2. 親  
3. 兄弟・姉妹      4. 親戚      5. その他 ( )  
6. 誰ともほとんど行き来がない → 問 22 へ

(2) その方の家はどこにありますか (○は1つ)。

1. 徒歩で行ける範囲      2. 港区内      3. 東京都内  
4. 東京都外

(3) その方とはどのくらいの頻度で連絡や行き来をしていますか (○は1つ)。

1. ほとんど毎日      2. 週に数回      3. 週に1回  
4. 月に数回      5. 年に数回      6. その他 ( )

## ■友人・近隣とのかかわりについてうかがいます

問 22 (1) あなたは日頃親しくしている友人・知人がいらっしゃいますか (○は1つ)。

1. いる

2. いない → 問 23 へ

(2) ↓それはどなたですか (○は1つ)。

1. 近所の人      2. 学校時代に知り合った人  
3. もとの(今の)職場の人      4. 趣味やスポーツ等を通じて知り合った人  
5. その他 ( )

(3) その方とはどのくらいの頻度で連絡や行き来をしていますか (○は1つ)。

1. ほとんど毎日      2. 週に数回      3. 週に1回  
4. 月に数回      5. 年に数回      6. その他 ( )



**問 23** あなたはご近所づきあいをどの程度していますか（○は1つ）。

- |                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| 1. 互いの家をよく行き来するくらい | 2. ときどき行き来するくらい |
| 3. 会ったときに世間話をするくらい |                 |
| 4. あいさつをかわすくらい     | 5. まったくつきあいが無い  |

**問 24**（1）あなたや同居者が急な病気などで手助けを必要とする時に、すぐに来てくれる人がいますか（○は1つ）。

- |              |                 |
|--------------|-----------------|
| 1. <u>いる</u> | 2. いない → 問 25 へ |
|--------------|-----------------|



（2）主に来てくれる方はどなたですか（○は1つ）。

- |                        |          |          |
|------------------------|----------|----------|
| 1. 子ども（子どもの配偶者、孫を含む）   | 2. 兄弟・姉妹 |          |
| 3. 親戚                  | 4. 近所の人  | 5. 友人・知人 |
| 6. ケアマネジャーやヘルパーなど介護事業者 |          |          |
| 7. その他（ ）              |          |          |

**問 25** 今年のお正月（1日から3日まで）はどなたと過ごされましたか（○はいくつでも）。

- |                         |           |                 |
|-------------------------|-----------|-----------------|
| 1. 別居の子ども（子どもの配偶者、孫を含む） | 2. 別居の親   |                 |
| 3. 別居の兄弟・姉妹             | 4. 別居の親戚  | 5. 近所の人         |
| 6. 友人・知人                | 7. その他（ ） | 8. 同居者とふたりで過ごした |

## ■外出・社会参加活動についてうかがいます

問 26 あなたが普段外出する際の主な手段は何ですか（○は1つ）。

- |                  |         |         |
|------------------|---------|---------|
| 1. 徒歩（シルバーカーを含む） | 2. 自転車  | 3. 電車   |
| 4. バス（ちいばす含む）    | 5. 自家用車 | 6. タクシー |
| 7. 福祉キャブ         | 8. その他（ | ）       |

問 27（1）あなたの普段の外出頻度は1週間のうちに何回くらいですか（○は1つ）。

- |                |   |          |
|----------------|---|----------|
| 1. ほとんど毎日      | } | → 問 28 へ |
| 2. 1週間に4、5日くらい |   |          |
| 3. 1週間に2、3日くらい |   |          |
| 4. 1週間に1回くらい   | } | ↓        |
| 5. ほとんど外出しない   |   |          |

（2）「4. 1週間に1回くらい」または「5. ほとんど外出しない」と答えた方に  
うかがいます。

外出の機会が少ないのはどのような理由からですか（○はいくつでも）。

- |                       |                      |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 家にいるのが好きだから        | 2. 出かけるのがおっくうだから     |
| 3. 行く場所や用事がないから       | 4. 坂や階段が多いから         |
| 5. 交通が不便だから           | 6. 身体が不自由・健康上の心配が大きい |
| 7. 同居者の世話をしなくてはならないから |                      |
| 8. その他（               | ）                    |

問 28 普段の外出の際、誰かと話をする機会はどの程度ありますか（○は1つ）。

- |              |              |       |
|--------------|--------------|-------|
| 1. とてもよく話をする | 2. よく話をする    | 3. 普通 |
| 4. あまり話をしない  | 5. ほとんど話をしない |       |

問 29 (1) あなたが地域で参加している団体や集まりは何ですか (〇はいくつでも)。

1. 町会・自治会
2. 防犯・防災活動
3. 学習の会
4. 趣味の会 (囲碁・将棋・俳句・カラオケ・お花・盆栽・お茶など)
5. 社会活動 (同窓会・PTAなどの子育ての頃の団体・生協活動など)
6. 健康づくりの活動 (スポーツ・体操教室など)
7. 介護予防事業 (健康トレーニング・筋力向上トレーニングなど)
8. 老人クラブ
9. ボランティア活動
10. その他 ( )
11. 参加していない

↓  
(2) 参加していない理由は何ですか (〇はいくつでも)。

- |                       |                  |
|-----------------------|------------------|
| 1. 時間がない              | 2. 自分の興味をひくものがない |
| 3. 体の調子が悪い            | 4. 費用がかかる        |
| 5. 近くに活動がない           | 6. それらの活動を知らない   |
| 7. 一緒に参加する仲間や友人がいない   | 8. 参加したくないから     |
| 9. 同居者の世話をしなくてはならないから | 10. その他 ( )      |

問 30 あなたは今後、地域で団体や集まりに参加したいと思いますか (〇は1つ)。

- |              |               |              |
|--------------|---------------|--------------|
| 1. とてもそう思う   | 2. まあそう思う     | 3. どちらともいえない |
| 4. あまりそう思わない | 5. まったくそう思わない |              |

問31 あなたは区の行政サービスに関する情報をどこから得ていますか(○はいくつでも)。

|                 |                    |           |
|-----------------|--------------------|-----------|
| 1. 広報みなと        | 2. 区の刊行物(「いきいき」など) | 3. 回覧板    |
| 4. テレビ(ケーブルテレビ) | 5. ラジオ             | 6. 新聞・雑誌  |
| 7. インターネット      | 8. 区役所や支所などの窓口     | 9. 民生委員   |
| 10. 家族・親戚       | 11. 近所の人           | 12. 友人・知人 |
| 13. その他 ( )     |                    |           |

問32 あなたは、区の行政サービスに関する情報は十分に得られていると思いますか(○は1つ)。

|                  |                  |
|------------------|------------------|
| 1. 情報は十分に得られている  | 2. 情報はまあまあ得られている |
| 3. 情報が十分に得られていない |                  |

## ■生活の様子についてうかがいます

問33 次の項目のそれぞれについて「とてもそう思う」から「まったくそう思わない」までの5段階のうち、あなたの気持ちに近いものを選んでください(○は1つずつ)。

|                      | (1)から(10)のそれぞれについて、1つずつ○をつけてください |            |               |               |                |
|----------------------|----------------------------------|------------|---------------|---------------|----------------|
|                      | とても<br>そう思う                      | まあ<br>そう思う | どちらとも<br>いえない | あまりそう<br>思わない | まったくそう<br>思わない |
| (1) 今の暮らしには張り合いがある   | 1                                | 2          | 3             | 4             | 5              |
| (2) 今の暮らしにはストレスが多い   | 1                                | 2          | 3             | 4             | 5              |
| (3) 生活は充実している        | 1                                | 2          | 3             | 4             | 5              |
| (4) 生活していて不安や心配がある   | 1                                | 2          | 3             | 4             | 5              |
| (5) 趣味をしている時間は楽しい    | 1                                | 2          | 3             | 4             | 5              |
| (6) 友人との関係に満足している    | 1                                | 2          | 3             | 4             | 5              |
| (7) 近所づきあいに満足している    | 1                                | 2          | 3             | 4             | 5              |
| (8) 自分は頼りにされていると思う   | 1                                | 2          | 3             | 4             | 5              |
| (9) 周囲から取り残されたように感じる | 1                                | 2          | 3             | 4             | 5              |
| (10) 将来の生活は安心できる     | 1                                | 2          | 3             | 4             | 5              |
|                      | とても<br>そう思う                      | まあ<br>そう思う | どちらとも<br>いえない | あまりそう<br>思わない | まったくそう<br>思わない |



## ■経済状況についてうかがいます

つぎに、立ち入ったことをお聞きしますが、どうぞお答え下さいますようお願いいたします。結果は統計として処理され、個人のデータが漏れることは絶対にありません。

問 34 あなたの世帯の 1 年間の収入は大体いくらぐらいですか（○は 1 つ）。

- |                       |                      |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 50 万円未満            | 2. 50 万円以上 100 万円未満  |
| 3. 100 万円以上 150 万円未満  | 4. 150 万円以上 200 万円未満 |
| 5. 200 万円以上 250 万円未満  | 6. 250 万円以上 300 万円未満 |
| 7. 300 万円以上 500 万円未満  | 8. 500 万円以上 700 万円未満 |
| 9. 700 万円以上 1000 万円未満 | 10. 1000 万円以上        |

問 35 (1) 現在のあなたご自身の収入は次のどれですか（○はいくつでも）。

- |                |                   |        |
|----------------|-------------------|--------|
| 1. 年金          | 2. 生活保護           | 3. 預貯金 |
| 4. 利子、配当、家賃、地代 | 5. 子どもなどからの仕送り、援助 |        |
| 6. 仕事による収入     | 7. その他（           | ）      |

(2) そのうちの主なものを 1 つ選んで回答欄に番号を書いてください。

|     |   |   |
|-----|---|---|
| 回答欄 | （ | ） |
|-----|---|---|

問 36 あなたの世帯の家計のうち、最も負担が大きい費目は何ですか（○は 1 つ）。

- |                |                |   |
|----------------|----------------|---|
| 1. 家賃・住宅ローンの返済 | 2. 税金（固定資産税など） |   |
| 3. ガス・電気・水道代   | 4. 医療費・通院費     |   |
| 5. 社会保険料       | 6. その他（        | ） |

問 37 現在のあなたの世帯の経済状況についてどのように感じていらっしゃいますか（○は 1 つ）。

- |                       |            |
|-----------------------|------------|
| 1. かなり余裕がある           | 2. やや余裕がある |
| 3. 余裕はないが生活していくには困らない |            |
| 4. やや苦しい              | 5. かなり苦しい  |

問 38 あなたの将来の生活について、不安や心配に思っていることはありますか  
(○はいくつでも)。

- |                          |                      |
|--------------------------|----------------------|
| 1. 自分が病気になったり介護が必要となること  |                      |
| 2. 同居者が病気になったり介護が必要となること |                      |
| 3. 頼れる人がいなくなる事           | 4. 生活のための収入のこと       |
| 5. 財産の管理や相続のこと           | 6. 子どもや孫などの将来        |
| 7. 親戚づきあいのこと             | 8. 近所づきあいのこと         |
| 9. 友人とのつきあいのこと           | 10. 詐欺などの犯罪に巻き込まれること |
| 11. 大地震などの災害             | 12. その他 ( )          |
| 13. とくに不安・心配に思っていることはない  |                      |

問 39 区に対するご意見や、あなたの生活でお困りのことがあれば、何でもご自由に記入して下さい。

アンケートは以上で終了です。

この調査票は 9 月 25 日 ( 火 ) までに、「同居者用」のアンケート用紙と一緒に、同封の回収用封筒に入れ、封をして投函してください。

ご協力ありがとうございました。

## 同居者用

# 港区 75 歳以上高齢者を含む2人世帯の 生活に関するアンケート調査 調査票

## 同居者用

平成 24 年9月 港区政策創造研究所(港区企画経営部)

- ◆このアンケート用紙は、同居者の方がご自身でお答えください。
- ◆世帯主の方は「世帯主用」と書かれたアンケート用紙にご回答ください。
- ◆世帯主の方が、病院や施設等に入院または入所中の場合には、このアンケートにはお答えいただかなくて結構です。

**【問合せ先】港区政策創造研究所 TEL:03-3578-2111(内線 2569)**

[平成 24(2012)年 9 月 1 日現在でお答え下さい]

### ■あなたご自身のことについておうかがいします

問 1 性別のあてはまる方に○をし、年齢をご記入ください。

|       |       |                                    |
|-------|-------|------------------------------------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 満_____歳 (平成 24 年 9 月 1 日現在でお答え下さい) |
|-------|-------|------------------------------------|

問 2 港区にはおよそ何年間お住まいですか。

|           |
|-----------|
| _____年くらい |
|-----------|

### ■健康状態についてうかがいます

問 3 ご自身の健康状態についてどのようにお考えですか (○は1つ)。

|            |         |       |
|------------|---------|-------|
| 1. 良い      | 2. まあ良い | 3. 普通 |
| 4. あまり良くない | 5. 良くない |       |

問4 (1) あなたは日常生活を送るのになんらかの介助が必要ですか (○は1つ)。

- |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| 1. ほとんど自分でできる         | 2. 一部介助を必要としている |
| 3. ほとんどすべてに介助を必要としている |                 |

(2) あなたの介護保険の要介護度は次のどれにあてはまりますか (○は1つ)。

- |                   |          |         |
|-------------------|----------|---------|
| 1. 要支援1           | 2. 要支援2  |         |
| 3. 要介護1           | 4. 要介護2  | 5. 要介護3 |
| 6. 要介護4           | 7. 要介護5  |         |
| 8. 要介護認定の申請をしていない | 9. わからない |         |

(3) あなたは現在、介護保険サービスを利用していますか (○は1つ)。

- |           |            |
|-----------|------------|
| 1. 利用している | 2. 利用していない |
|-----------|------------|

問5 世帯主の方は、日常生活を送るためになんらかの介助を必要としていますか。  
あなたのお考えをお答えください (○は1つ)。

- |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| 1. ほとんど世帯主が自分でできる     | 2. 一部介助を必要としている |
| 3. ほとんどすべてに介助を必要としている |                 |

## ■港区の保健福祉サービスについてうかがいます

問6 あなたはどのようなサービスを利用されていますか (○はいくつでも)。

- |                               |                          |
|-------------------------------|--------------------------|
| 1. 緊急通報システム                   | 2. 配食サービス                |
| 3. 訪問電話                       | 4. 会食サービス                |
| 5. 家事援助サービス                   | 6. 救急情報の活用支援 (救急医療情報キット) |
| 7. 災害時要援護者登録                  | 8. 孫の手サービス【シルバー人材センター提供】 |
| 9. ひとり暮らし高齢者等見守り事業【社会福祉協議会提供】 |                          |
| 10. その他 ( )                   | 11. 利用しているサービスはない        |



## ■お仕事についてうかがいます

問7 あなたが今までに一番長く従事されたお仕事は何ですか（○は1つ）。

- |                                                     |                  |
|-----------------------------------------------------|------------------|
| 1. 自営業者・家族従業員                                       | 2. 公務員（教員含む）     |
| 3. 会社経営者・会社役員・団体役員                                  | 4. 勤労者（事務職）      |
| 5. 勤労者(生産現場・技術職:工員、運転手など) 6. 勤労者(販売・サービス業:店員、外交員など) |                  |
| 7. 専門的技術的職業（医師、弁護士、研究者など）                           |                  |
| 8. 臨時職・日雇い・パート・アルバイト・派遣職員                           |                  |
| 9. 自由業（執筆業、芸術関係）                                    | 10. 専業主婦・専業主夫・無職 |
| 11. その他（ ）                                          |                  |

問8 あなたは現在、収入のあるお仕事に従事されていますか（○は1つ）。

- |                                         |
|-----------------------------------------|
| 1. 正規職員として仕事をしている                       |
| 2. 非正規職員(嘱託・契約・派遣・パート・アルバイト等)として仕事をしている |
| 3. 自営業や会社等の役員として仕事をしている                 |
| 4. その他の就業形態で仕事をしている                     |
| 5. 仕事はしていない                             |

## ■ふだんの生活についてうかがいます

問9 現在お住まいの地域についてお困りのことはありますか（○はいくつでも）。

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| 1. 近所に買い物する店がない      | 2. 近所に外食する店がない      |
| 3. そばや寿司など店屋物をとる店がない | 4. 近所に銭湯がない         |
| 5. 近所に病院や診療所がない      | 6. 近所にバスの停留所がない     |
| 7. 近所に地下鉄・鉄道の駅がない    | 8. 訪問販売員が多い         |
| 9. 振り込め詐欺など不審な電話がある  | 10. 防犯上の不安がある       |
| 11. 物価が高い            | 12. 地震などの防災対策に不安がある |
| 13. その他（ ）           | 14. とくに困っていることはない   |

問10 現在、日常生活でお困りのことはありますか（〇はいくつでも）。

1. バスや電車、車を使って外出すること
2. 買い物
3. 食事の準備
4. 掃除や洗濯
5. ごみの分別やごみ出し
6. 通院・薬とり
7. 区役所等での手続き
8. 銀行や郵便局での手続き
9. 金銭管理や財産保全に関すること
10. 生活に必要な情報を得ること
11. その他（ ）
12. とくに困っていることはない

問 11 あなたが日常生活で困ったことがあったとき、世帯主以外に誰に手伝ってもらっていますか（○はいくつでも）。

1. 別居の子ども（子どもの配偶者、孫など含む）
2. 別居の兄弟・姉妹
3. 別居の親戚
4. 友人・知人
5. 近所の人
6. 民生委員
7. 町会・自治会の人
8. マンションの管理人
9. ホームヘルパー
10. ケアマネジャー
11. 高齢者相談センター（地域包括支援センター）の人
12. 役所の人
13. その他（ ）
14. 世帯主以外では手伝ってもらえない人

## ■友人・近隣とのかかわりについてうかがいます

問12 (1) あなたは日頃親しくしている友人・知人がいらっしゃいますか (○は1つ)。

1. いる                      2. いない → 問13へ

(2) ▼それはどなたですか (○は1つ)。

1. 近所の人                      2. 学校時代に知り合った人
3. もとの(今の)職場の人        4. 趣味やスポーツ等を通じて知り合った人
5. その他 (                                  )

(3) その方とはどのくらいの頻度で連絡や行き来をしていますか (○は1つ)。

1. ほとんど毎日                      2. 週に数回                      3. 週に1回
4. 月に数回                      5. 年に数回                      6. その他 (                      )

問 13 あなたはご近所づきあいをどの程度していますか（○は1つ）。

- |                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| 1. 互いの家をよく行き来するくらい | 2. ときどき行き来するくらい |
| 3. 会ったときに世間話をするくらい |                 |
| 4. あいさつをかわすくらい     | 5. まったくつきあいがいい  |

## ■外出・社会参加活動についてうかがいます

問 14 あなたが普段外出する際の主な手段は何ですか（○は1つ）。

- |                  |         |         |
|------------------|---------|---------|
| 1. 徒歩（シルバーカーを含む） | 2. 自転車  | 3. 電車   |
| 4. バス（ちいばす含む）    | 5. 自家用車 | 6. タクシー |
| 7. 福祉キャブ         | 8. その他（ | ）       |

問 15（1）あなたの普段の外出頻度は1週間のうちに何回くらいですか（○は1つ）。

- |                |   |          |
|----------------|---|----------|
| 1. ほとんど毎日      | } | → 問 16 へ |
| 2. 1週間に4、5日くらい |   |          |
| 3. 1週間に2、3日くらい |   |          |
| 4. 1週間に1回くらい   | } | ↓        |
| 5. ほとんど外出しない   |   |          |

（2）「4. 1週間に1回くらい」または「5. ほとんど外出しない」と答えた方に  
うかがいます。

外出の機会が少ないのはどのような理由からですか（○はいくつでも）。

- |                       |                      |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 家にいるのが好きだから        | 2. 出かけるのがおっくうだから     |
| 3. 行く場所や用事がないから       | 4. 坂や階段が多いから         |
| 5. 交通が不便だから           | 6. 身体が不自由・健康上の心配が大きい |
| 7. 世帯主の世話をしなくてはならないから |                      |
| 8. その他（               | ）                    |

問 16 普段の外出の際、誰かと話をする機会はどの程度ありますか（○は1つ）。

- |              |              |       |
|--------------|--------------|-------|
| 1. とてもよく話をする | 2. よく話をする    | 3. 普通 |
| 4. あまり話をしない  | 5. ほとんど話をしない |       |

問 17 (1) あなたが地域で参加している団体や集まりは何ですか (〇はいくつでも)。

- |                                     |             |             |
|-------------------------------------|-------------|-------------|
| 1. 町会・自治会                           | 2. 防犯・防災活動  | 3. 学習の会     |
| 4. 趣味の会 (囲碁・将棋・俳句・カラオケ・お花・盆栽・お茶など)  |             |             |
| 5. 社会活動 (同窓会・PTAなどの子育ての頃の団体・生協活動など) |             |             |
| 6. 健康づくりの活動 (スポーツ・体操教室など)           |             |             |
| 7. 介護予防事業 (健康トレーニング・筋力向上トレーニングなど)   |             |             |
| 8. 老人クラブ                            | 9. ボランティア活動 | 10. その他 ( ) |
| 11. 参加していない                         |             |             |

↓  
(2) 参加していない理由は何ですか (〇はいくつでも)。

- |                       |                  |                |
|-----------------------|------------------|----------------|
| 1. 時間がない              | 2. 自分の興味をひくものがない | 3. 体の調子が悪い     |
| 4. 費用がかかる             | 5. 近くに活動がない      | 6. それらの活動を知らない |
| 7. 一緒に参加する仲間や友人がいない   | 8. 参加したくないから     |                |
| 9. 世帯主の世話をしなくてはならないから | 10. その他 ( )      |                |

問 18 あなたは今後、地域で団体や集まりに参加したいと思いますか (〇は1つ)。

- |              |               |              |
|--------------|---------------|--------------|
| 1. とてもそう思う   | 2. まあそう思う     | 3. どちらともいえない |
| 4. あまりそう思わない | 5. まったくそう思わない |              |

問 19 あなたは区の行政サービスに関する情報をどこから得ていますか。  
(〇はいくつでも)。

- |                 |                    |           |
|-----------------|--------------------|-----------|
| 1. 広報みなど        | 2. 区の刊行物(「いきいき」など) | 3. 回覧板    |
| 4. テレビ(ケーブルテレビ) | 5. ラジオ             | 6. 新聞・雑誌  |
| 7. インターネット      | 8. 区役所や支所などの窓口     | 9. 民生委員   |
| 10. 家族・親戚       | 11. 近所の人           | 12. 友人・知人 |
| 13. その他 ( )     |                    |           |

問 20 あなたは、区の行政サービスに関する情報は充分に得られていると思いますか  
(〇は1つ)。

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| 1. 情報は充分に得られている  | 2. 情報はまあまあ得られている |
| 3. 情報が充分に得られていない |                  |

## ■生活の様子についてうかがいます

問 21 次の項目のそれぞれについて「とてもそう思う」から「まったくそう思わない」までの5段階のうち、あなたの気持ちに近いものを選んでください（○は1つずつ）。

|                      | (1)から(10)のそれぞれについて、1つずつ○をつけてください |            |               |               |                |
|----------------------|----------------------------------|------------|---------------|---------------|----------------|
|                      | とても<br>そう思う                      | まあ<br>そう思う | どちらとも<br>いえない | あまりそう<br>思わない | まったくそう<br>思わない |
| (1) 今の暮らしには張り合いがある   | 1                                | 2          | 3             | 4             | 5              |
| (2) 今の暮らしにはストレスが多い   | 1                                | 2          | 3             | 4             | 5              |
| (3) 生活は充実している        | 1                                | 2          | 3             | 4             | 5              |
| (4) 生活していて不安や心配がある   | 1                                | 2          | 3             | 4             | 5              |
| (5) 趣味をしている時間は楽しい    | 1                                | 2          | 3             | 4             | 5              |
| (6) 友人との関係に満足している    | 1                                | 2          | 3             | 4             | 5              |
| (7) 近所づきあいに満足している    | 1                                | 2          | 3             | 4             | 5              |
| (8) 自分は頼りにされていると思う   | 1                                | 2          | 3             | 4             | 5              |
| (9) 周囲から取り残されたように感じる | 1                                | 2          | 3             | 4             | 5              |
| (10) 将来の生活は安心できる     | 1                                | 2          | 3             | 4             | 5              |
|                      | とても<br>そう思う                      | まあ<br>そう思う | どちらとも<br>いえない | あまりそう<br>思わない | まったくそう<br>思わない |

## ■経済状況についてうかがいます

つぎに、立ち入ったことをお聞きしますが、どうぞお答え下さいますようお願いいたします。結果は統計として処理され、個人のデータが漏れることは絶対にありません。

問 22 (1) 現在のあなたご自身の収入は次のどれですか（○はいくつでも）。

|                |                   |        |
|----------------|-------------------|--------|
| 1. 年金          | 2. 生活保護           | 3. 預貯金 |
| 4. 利子、配当、家賃、地代 | 5. 子どもなどからの仕送り、援助 |        |
| 6. 仕事による収入     | 7. その他（ ）         |        |

(2) そのうちの主なものを1つ選んで回答欄に番号を書いてください。

|        |
|--------|
| 回答欄（ ） |
|--------|



問 23 あなたの将来の生活について、不安や心配に思っていることはありますか  
(○はいくつでも)。

- |                          |                      |
|--------------------------|----------------------|
| 1. 自分が病気になったり介護が必要となること  |                      |
| 2. 世帯主が病気になったり介護が必要となること |                      |
| 3. 頼れる人がいなくなる事           | 4. 生活のための収入のこと       |
| 5. 財産の管理や相続のこと           | 6. 子どもや孫などの将来        |
| 7. 親戚づきあいのこと             | 8. 近所づきあいのこと         |
| 9. 友人とのつきあいのこと           | 10. 詐欺などの犯罪に巻き込まれること |
| 11. 大地震などの災害             | 12. その他 ( )          |
| 13. とくに不安・心配に思っていることはない  |                      |

問 24 区に対するご意見や、あなたの生活でお困りのことがあれば、何でもご自由に記入して下さい。

アンケートは以上で終了です。

この調査票は 9 月 25 日 ( 火 ) までに、「世帯主用」のアンケート用紙と一緒に、同封の回収用封筒に入れ、封をして投函してください。

ご協力ありがとうございました。

## 港区政策創造研究所の概要

### 1 設置目的

港区政策創造研究所は、各部門の個別情報の収集・分析等を踏まえ、横断的に課題を捉え総合的な政策研究を行い、各支援部・総合支所を支援することを目的とします。

### 2 設置日等

#### (1) 設置日

平成23年2月1日（火）

#### (2) 設置場所

本庁舎 4階

#### (3) 所長

明治学院大学社会学部 河合 克義 教授

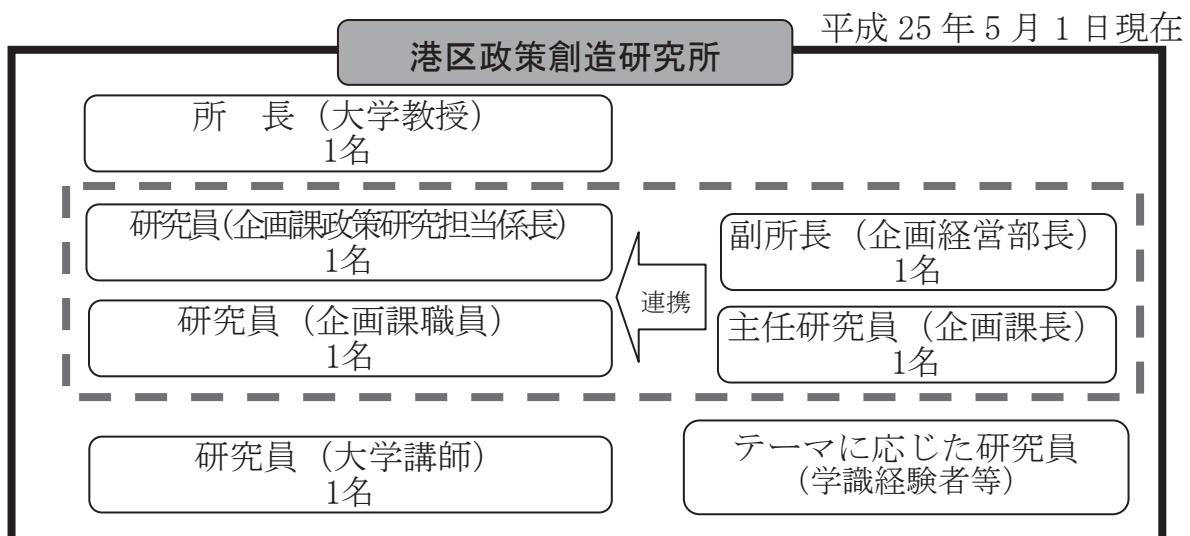
### 3 機能

研究所は、次の4つの機能を備えます。

| 機 能       | 狙 い                  |
|-----------|----------------------|
| 情報活用機能    | 区内で何が起こっているのかを的確に把握  |
| 分析・予測機能   | それが区民の生活に与える影響を予測    |
| 政策研究・形成機能 | 顕在化する課題を先取りし、迅速に対応   |
| 人材育成機能    | 流動的な時代に対応できる人材育成への貢献 |

### 4 体 制

所長1名、副所長1名、研究員4名の合計6名で構成し、活動を行っています。



**港区 75 歳以上高齢者を含む 2 人世帯の生活に関する調査関係者会議名簿**  
(平成 25 年 5 月 1 日現在)

|        |                                                        |
|--------|--------------------------------------------------------|
| 河合 克義  | 港区政策創造研究所所長（明治学院大学教授）                                  |
| 田中 秀司  | 港区政策創造研究所副所長（港区企画経営部長）（平成 24 年 7 月 31 日まで）             |
| 杉本 隆   | 港区政策創造研究所副所長（港区企画経営部長）（平成 24 年 8 月 1 日から）              |
| 新宮 弘章  | 港区政策創造研究所主任研究員（港区企画経営部企画課長）<br>（平成 25 年 3 月 31 日まで）    |
| 大澤 鉄也  | 港区政策創造研究所主任研究員（港区企画経営部企画課長）<br>（平成 25 年 4 月 1 日から）     |
| 大浦 昇   | 港区政策創造研究所研究員（港区企画経営部企画課政策研究担当係長）                       |
| 田頭 達也  | 港区政策創造研究所研究員（港区企画経営部企画課政策研究担当）<br>（平成 25 年 3 月 31 日まで） |
| 新藤 直樹  | 港区政策創造研究所研究員（港区企画経営部企画課政策研究担当）<br>（平成 25 年 4 月 1 日から）  |
| 板倉 香子  | 港区政策創造研究所研究員（明治学院大学非常勤講師）                              |
| 長谷川 博康 | 株式会社スタテックス代表取締役社長                                      |
| 菅野 道生  | 岩手県立大学専任講師                                             |
| 森 信二   | 港区保健福祉支援部高齢者支援課長（平成 24 年 7 月 31 日まで）                   |
| 斎藤 博   | 港区保健福祉支援部高齢者支援課長（平成 24 年 8 月 1 日から）                    |
| 後藤 邦正  | 港区保健福祉支援部高齢者施策推進担当課長                                   |
| 川口 淳   | 港区保健福祉支援部高齢者支援課高齢者福祉係長                                 |
| 真継 直   | 港区保健福祉支援部高齢者支援課在宅支援係長（平成 25 年 3 月 31 日まで）              |
| 小山 行雄  | 港区保健福祉支援部高齢者支援課在宅支援係長（平成 25 年 4 月 1 日から）               |

刊行物発行番号 25054-5811

港区における  
75歳以上高齢者を含む2人世帯の  
生活に関する調査報告書

---

平成25年（2013年）5月発行  
発行 港区政策創造研究所（港区企画経営部）  
東京都港区芝公園1-5-25  
電話 03-3578-2111（代表）